

令和3年度

全国体力・運動能力，運動習慣等調査

鹿児島県結果分析



## 令和3年度全国体力・運動能力，運動習慣等調査について

### 1 調査の目的

全国体力・運動能力，運動習慣等調査は，子どもの体力等の状況に鑑み，全国的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより，子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，そのような取組を通じて，子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的にスポーツ庁が実施しているものです。

### 2 調査の結果について

本調査結果は，実技調査8項目，及び運動習慣等の質問紙調査による体力等の特定の一部を示したものです。

また，学校の教育活動は，多面的，総合的に行われるものであり，調査結果は，あくまで学校における教育活動の一側面であるので，御留意ください。

## 目 次

○ 県全体の調査結果(公立)	1
1 体格に関する調査結果概要	2
2 実技に関する調査結果概要	4
3 運動習慣等に関する調査結果概要	8
4 生活習慣等に対する調査結果概要	13
5 運動やスポーツ，体育・保健体育の授業に関する調査結果概要	16
6 児童生徒の回答と体力合計点とのクロス集計	21
7 学校質問紙から	24
8 全体考察	29
9 改善のポイント	31

# 県全体の調査結果〔公立〕

## 本県の調査実施状況

### 1 調査の期間

令和3年4月～7月末

### 2 調査の概要

- 調査方法：悉皆調査
- 対象学年：小学校第5学年，特別支援学校小学部第5学年  
中学校第2学年，特別支援学校中学部第2学年  
※ 小・中学校にはそれぞれ義務教育学校を含む。
- 調査事項
  - 児童生徒に関する調査
    - ・ 実技に関する調査：小・中学校ともに8項目の実技調査  
① 握力 ②上体起こし ③長座体前屈 ④反復横とび  
⑤ 20mシャトルラン（中学校は持久走との選択）  
⑥ 50m走 ⑦立ち幅とび ⑧ ボール投げ
    - ・ 運動習慣や生活習慣，運動への興味・関心等に関する調査
  - 学校に対する質問紙調査
    - ・ 子どもの体力・運動能力，運動習慣等の向上に係る取組等に関する調査

### 3 本県調査参加校及び参加児童生徒数

- 小 学 校：498校 14,743人
- 中 学 校：223校 13,523人
- 計 721校 28,266人

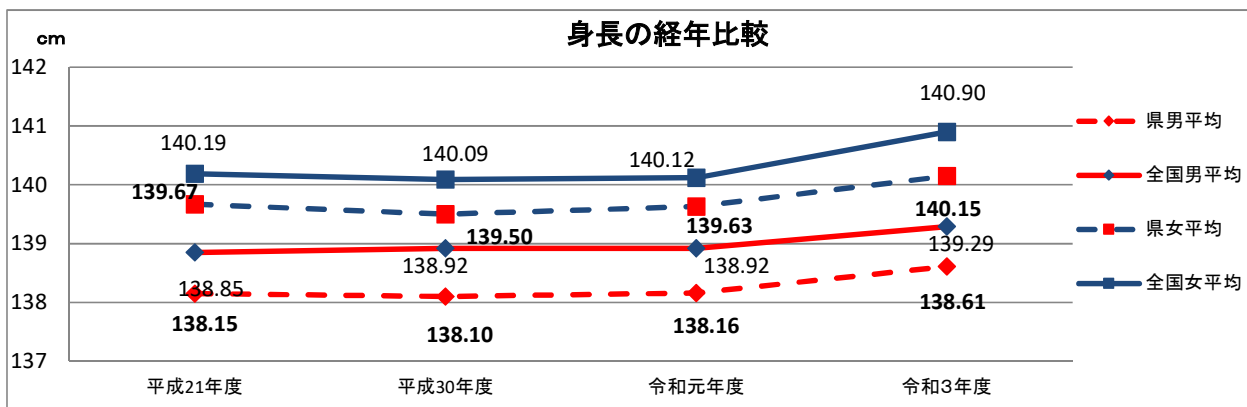
※ 小学校，中学校にはそれぞれ義務教育学校，特別支援学校を含む。

# 1 体格に関する調査結果概要

## (1) 本県の身長(cm)に関する調査の結果

### ア【小学校】

小学校		平成21年度			平成30年度			令和元年度			令和3年度		
		県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差
5年男子	5年男子	138.15	138.85	-0.70	138.10	138.92	-0.82	138.16	138.92	-0.76	138.61	139.29	-0.68
	5年女子	139.67	140.19	-0.52	139.50	140.09	-0.59	139.63	140.12	-0.49	140.15	140.90	-0.75

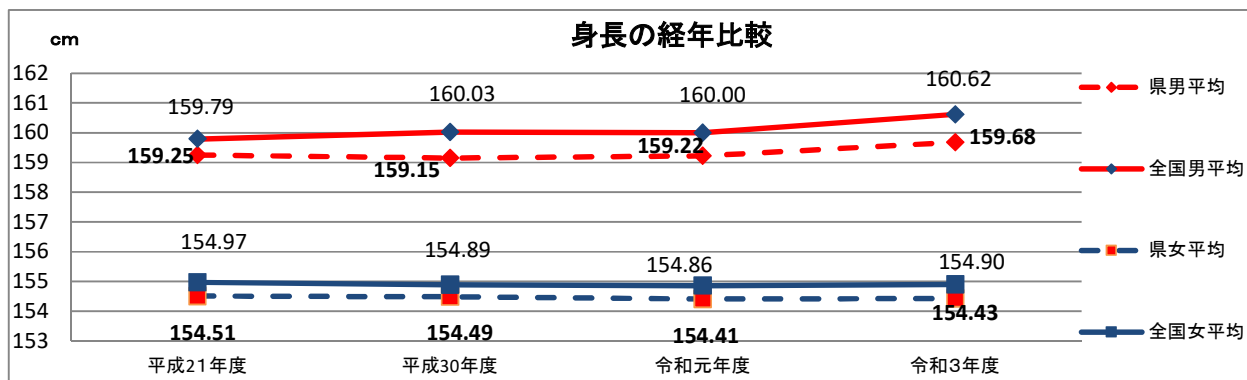


#### 〈現状〉

- 全国平均と比較すると、男女ともに低い状況である。
- 県、全国ともに令和元年度との比較において、男女ともに高くなっている。
- 県平均と全国平均との差については、これまでと大きな変化は見られず、男女ともに全国平均より低い状況が続いている。

### イ【中学校】

中学校		平成21年度			平成30年度			令和元年度			令和3年度		
		県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差
2年男子	2年男子	159.25	159.79	-0.54	159.15	160.03	-0.88	159.22	160.00	-0.78	159.68	160.62	-0.94
	2年女子	154.51	154.97	-0.46	154.49	154.89	-0.40	154.41	154.86	-0.45	154.43	154.90	-0.47



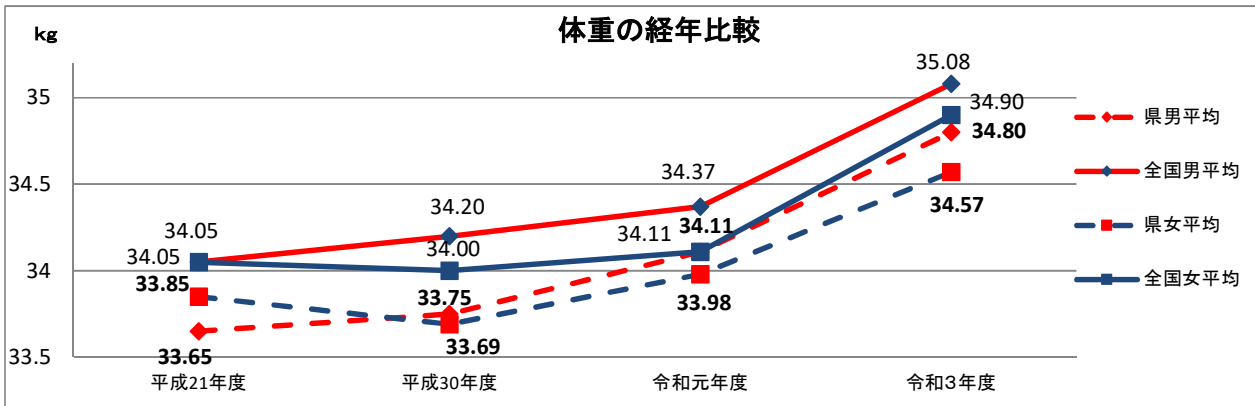
#### 〈現状〉

- 全国平均と比較すると、男女ともに低い状況である。
- 県、全国ともに令和元年度との比較において、男女ともに高くなっている。
- 県平均と全国平均との差については、これまでと大きな変化は見られず、男女ともに全国平均より低い状況が続いている。

(2) 本県の体重(kg)に関する調査の結果

ア【小学校】

小学校		平成21年度			平成30年度			令和元年度			令和3年度		
		県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差
5年男子	5年男子	33.65	34.05	-0.40	33.75	34.20	-0.45	34.11	34.37	-0.26	34.80	35.08	-0.28
	5年女子	33.85	34.05	-0.20	33.69	34.00	-0.31	33.98	34.11	-0.13	34.57	34.90	-0.33

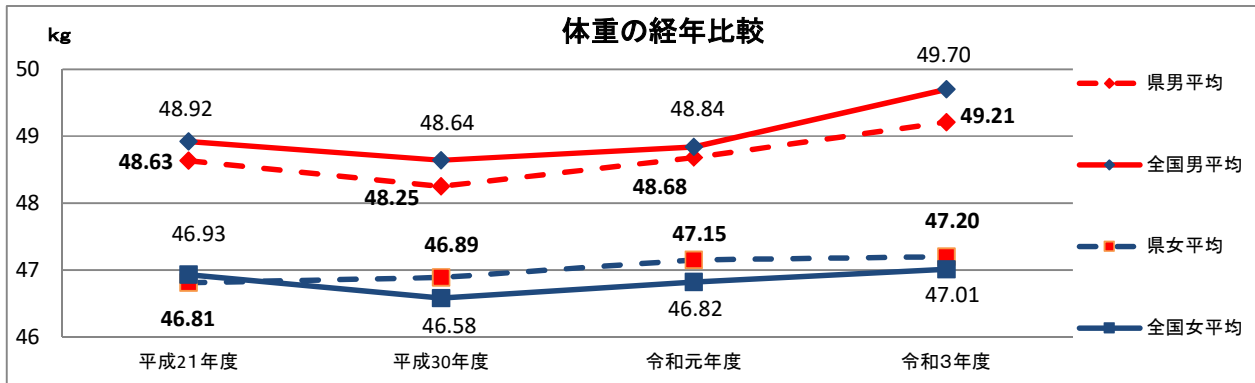


〈現状〉

- 全国平均と比較すると、男女ともに軽い状況である。
- 県、全国ともに令和元年度との比較において、男女ともに重くなっている。
- 県平均と全国平均との差については、これまでと大きな変化は見られず、男女ともに全国平均より軽い状況が続いている。

イ【中学校】

中学校		平成21年度			平成30年度			令和元年度			令和3年度		
		県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差
2年男子	2年男子	48.63	48.92	-0.29	48.25	48.64	-0.39	48.68	48.84	-0.16	49.21	49.70	-0.49
	2年女子	46.81	46.93	-0.12	46.89	46.58	0.31	47.15	46.82	0.33	47.20	47.01	0.19



〈現状〉

- 全国平均と比較すると、男子は軽く、女子は重い状況である。
- 県、全国ともに令和元年度との比較において、男女ともに重くなっている。
- 県平均と全国平均との差については、男子は軽い状況が続いており、女子は、平成30年度以降、重い状況が続いている。

## 2 実技に関する調査結果概要

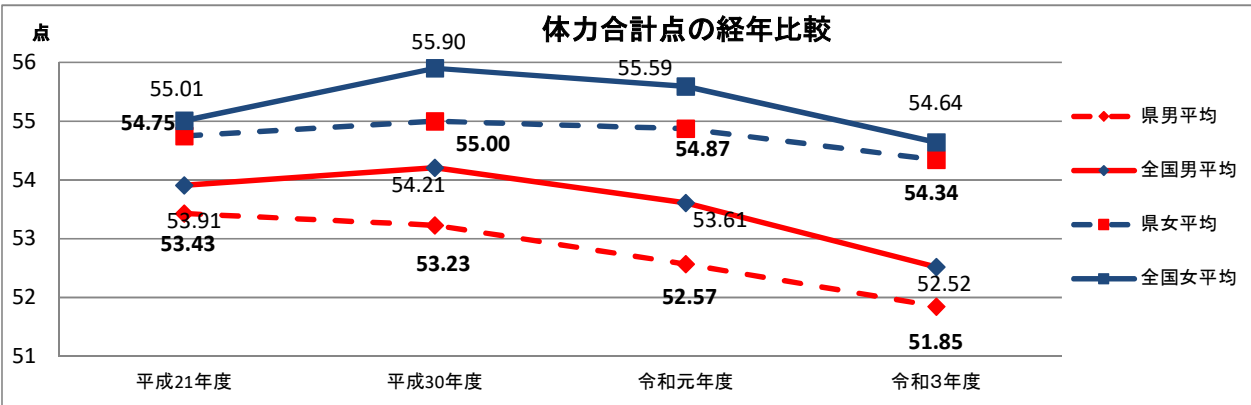
### (1) 本県の体力合計点に関する調査の結果

#### ア【小学校】

小学校		平成21年度			平成30年度			令和元年度			令和3年度		
		県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差
小学校	5年男子	53.43	53.91	-0.48	53.23	54.21	-0.98	52.57	53.61	-1.04	51.85	52.52	-0.67
	5年女子	54.75	55.01	-0.26	55.00	55.90	-0.90	54.87	55.59	-0.72	54.34	54.64	-0.30

※ 体力合計点考察コメント(スポーツ庁)

±1点以上:高(低)い ±0.5~1点未満:わずかに高(低)い ±0.5点未満:ほとんど差がない

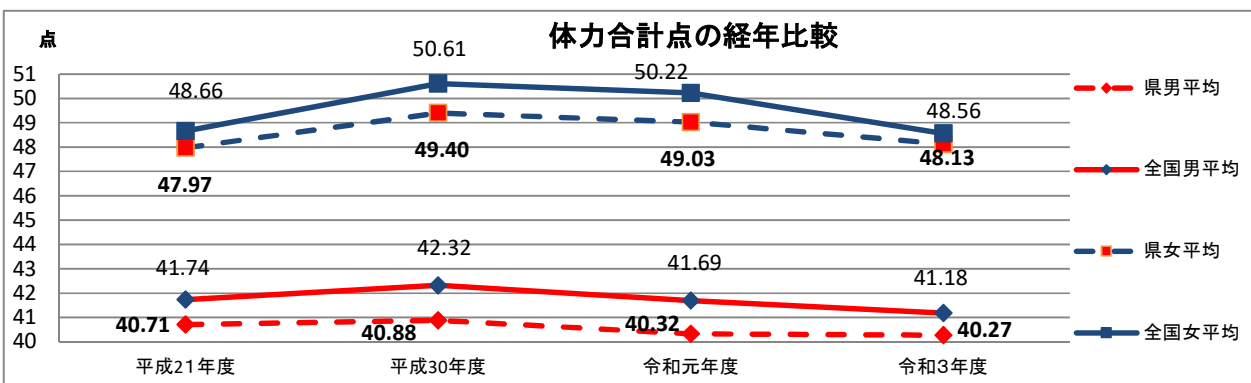


#### 〈現状〉

- 全国平均と比較すると、男子が「わずかに低い」、女子が「ほとんど差がない」結果となった。
- 県、全国ともに令和元年度との比較において、男女ともに低くなった。
- 男子は、調査開始以降で最も低くなった。
- 県平均と全国平均との差については、男女ともに令和元年度より縮まっている。

#### イ【中学校】

中学校		平成21年度			平成30年度			令和元年度			令和3年度		
		県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差
中学校	2年男子	40.71	41.74	-1.03	40.88	42.32	-1.44	40.32	41.69	-1.37	40.27	41.18	-0.91
	2年女子	47.97	48.66	-0.69	49.40	50.61	-1.21	49.03	50.22	-1.19	48.13	48.56	-0.43



#### 〈現状〉

- 全国平均と比較すると、男子が「わずかに低い」、女子が「ほとんど差がない」結果となった。
- 県、全国ともに令和元年度との比較において、男女ともに低くなった。
- 男子は、調査開始以降で最も低くなった。
- 県平均と全国平均との差については、男女ともに令和元年度より縮まっている。

(2) 体力合計点の度数分布

体力合計点の度数分布のグラフについて

※ 体力合計点の総合評価は、実技項目(8項目)の記録を、1点から10点に得点化し、その8項目の合計点をA, B, C, D, Eの段階に区分したものです。

○小学校 A:65以上 B:58~64 C:50~57 D:42~49 E:41以下

○中学校 A:57以上 B:47~56 C:37~46 D:27~36 E:26以下

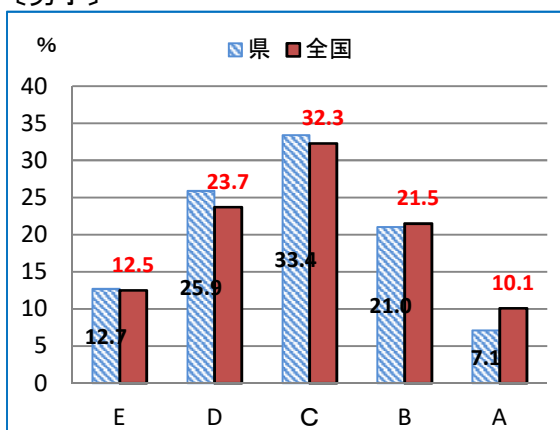
※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示しています。

※ 体力合計点考察コメント(スポーツ庁)

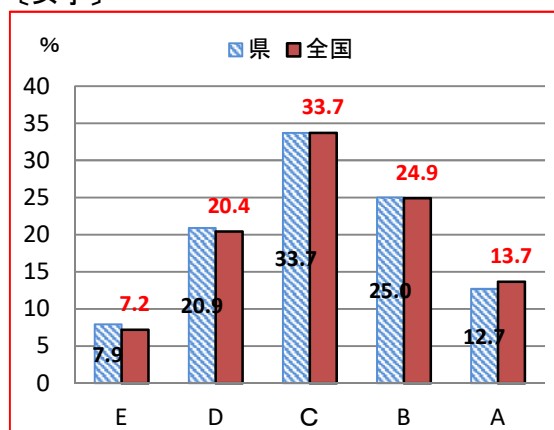
±1点以上:高(低)い ±0.5~1点未満:わずかに高(低)い ±0.5点未満:ほとんど差がない

ア【小学校】

[男子]



[女子]



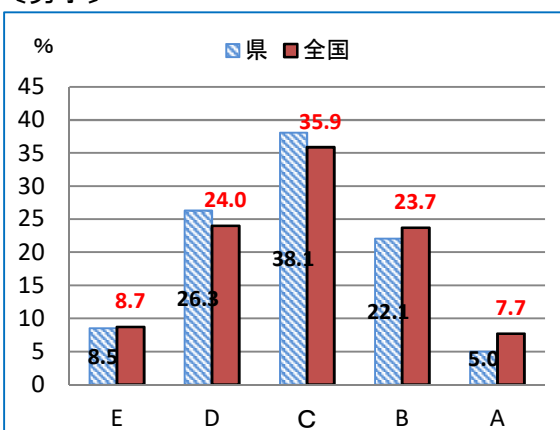
〈現状〉

○ 男子は、C, Dの割合が全国よりも高く、Aの割合が全国より低い。

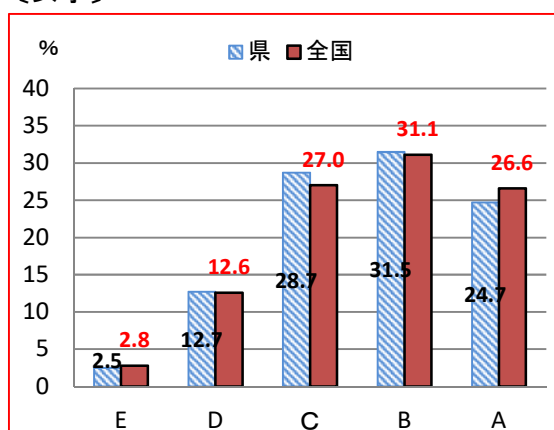
○ 女子は、D, Eの割合が全国よりもわずかに高く、Aの割合が全国より低い。

イ【中学校】

[男子]



[女子]



〈現状〉

○ 男子は、C, Dの割合が全国よりも高く、A, Bの割合が全国より低い。

○ 女子は、Cの割合が全国よりも高く、Aの割合が全国より低い。

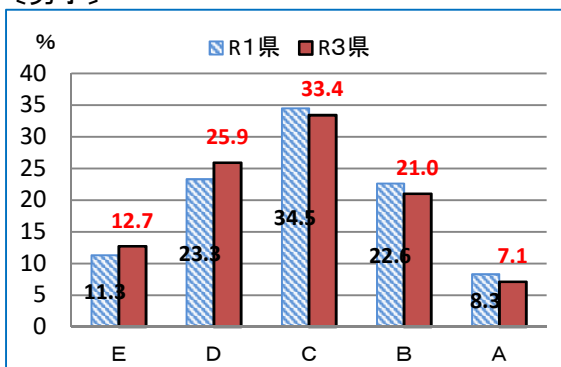
(3) 体力合計点の度数分布の令和元年度との比較

ア【小学校】

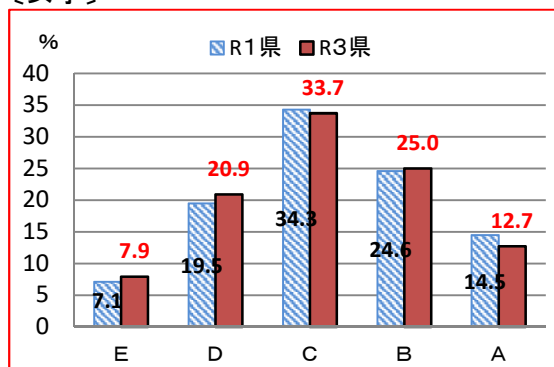
※ AB-DE値について

全体的な体力の状況をとらえる指標の1つで、体力合計点Cをはさんで、Cよりも高いABとCよりも低いDEの差をみるものである。

〔男子〕



〔女子〕



〔男子〕

	A	B	D	E	AB-DE値	増減
R元年度	8.3	22.6	23.3	11.3	-3.7	
R3年度	7.1	21.0	25.9	12.7	-10.5	↓

〔女子〕

	A	B	D	E	AB-DE値	増減
R元年度	14.5	24.6	19.5	7.1	12.5	
R3年度	12.7	25.0	20.9	7.9	8.9	↓

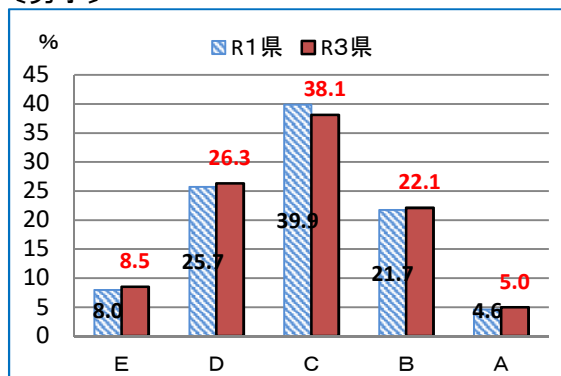
〈現状〉

○ 男子は、AB-DE値がマイナスポイントとなっており、令和元年度より数値も低くなっている。

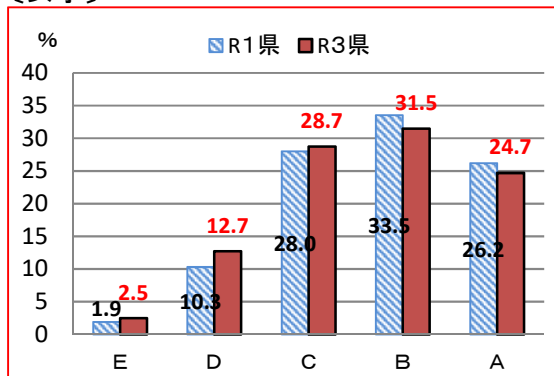
○ 女子は、令和元年度と同様、AB-DE値がプラスポイントとなっているが、数値は低くなっている。

イ【中学校】

〔男子〕



〔女子〕



〔男子〕

	A	B	D	E	AB-DE値	増減
R元年度	4.6	21.7	25.7	8.0	-7.4	
R3年度	5.0	22.1	26.3	8.5	-7.7	↓

〔女子〕

	A	B	D	E	AB-DE値	増減
R元年度	26.2	33.5	10.3	1.9	47.5	
R3年度	24.7	31.5	12.7	2.5	41.0	↓

〈現状〉

○ 男子は、AB-DE値がマイナスポイントとなっており、令和元年度とほぼ同程度の数値となっている。

○ 女子は、令和元年度と同様、AB-DE値が高い数値となっているが、数値は低くなっている。



(4) 各実技調査項目のT得点結果について

各実技調査項目のグラフについて

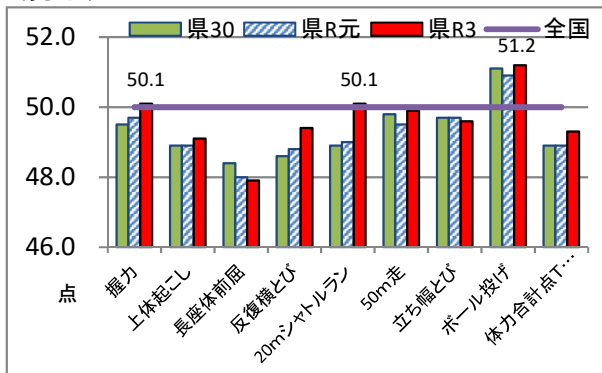
※ 実技調査項目は、握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン(中学校は、持久走との選択)、50m走、立ち幅とび、ボール投げの8項目、及び体力合計点のT得点を示したものです。

※ T得点とは、全国平均値に対する相対的な位置を示し、単位や標準偏差が異なる調査結果を比較するものです。平均値50点、標準偏差10点の標準得点。「T得点=50+10×(調査結果-平均値)/標準偏差」で算出します。

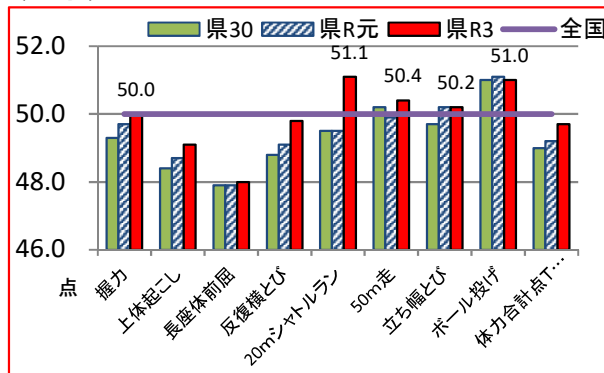
※ グラフ上の50.0の目盛り線は、全国のT得点を表しています。

ア【小学校】

〔男子〕



〔女子〕

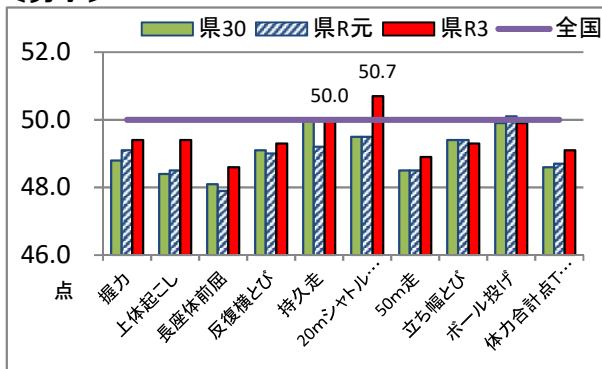


〈現状及び課題〉

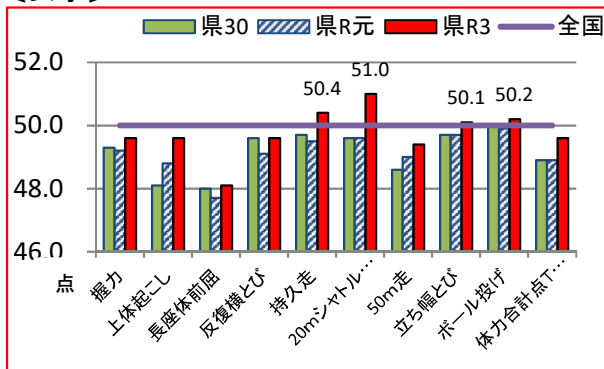
- T得点50以上の項目は、握力(男女)、20mシャトルラン(男女)、ボール投げ(男女)と50m走(女子)、立ち幅とび(女子)である。
- 令和元年度より向上した項目数は、男女ともに6項目である。
- T得点49以下の項目については、男女ともに1項目である。長座体前屈については、男女ともに6年連続T得点49以下であり、柔軟性に課題がある。

イ【中学校】

〔男子〕



〔女子〕



〈現状及び課題〉

- T得点50以上の項目は、持久走(男女)、20mシャトルラン(男女)と立ち幅とび(女子)、ボール投げ(女子)である。
- 令和元年度より向上した項目数は、男子が6項目、女子が8項目である(持久走と20mシャトルランについては、どちらかを実施することとなっているため、同一項目としてカウントしている)。
- 長座体前屈のT得点は、男女ともに4年連続して49以下であり、柔軟性に課題がある。

### 3 運動習慣等に関する調査結果概要

#### 運動時間(曜日別)グラフについて

※ 運動時間は、学校の体育の授業(保健体育)の授業以外で運動(体を動かす遊びを含む※注)やスポーツをした時間です。

※注(体を動かす遊びを含む)の文言は、平成26年度の質問から追加されたものです。

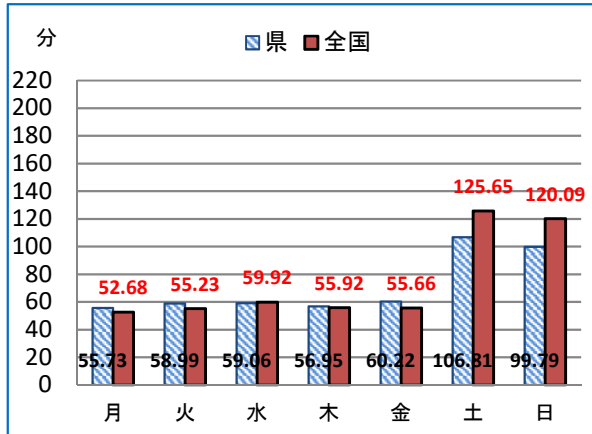
※ グラフの横軸は、曜日を示しています。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動時間(分)を示しています。

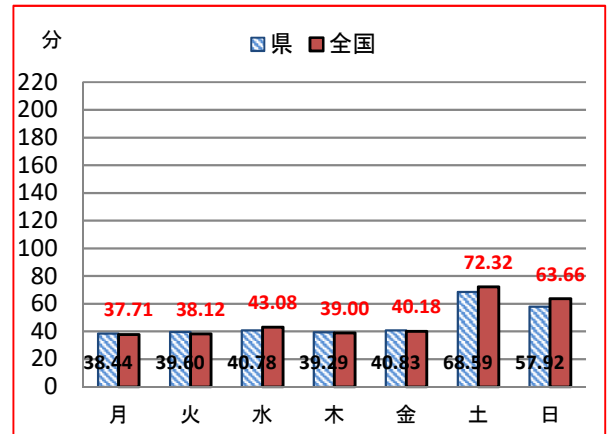
#### (1) 1週間の運動時間に関する全国との比較

##### ア【小学校】

〔男子〕



〔女子〕

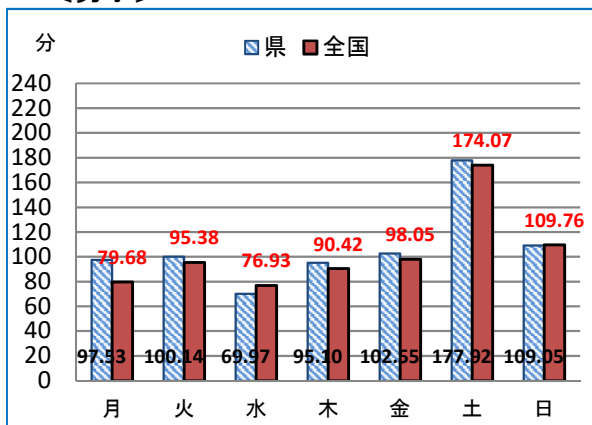


#### 〈現状〉

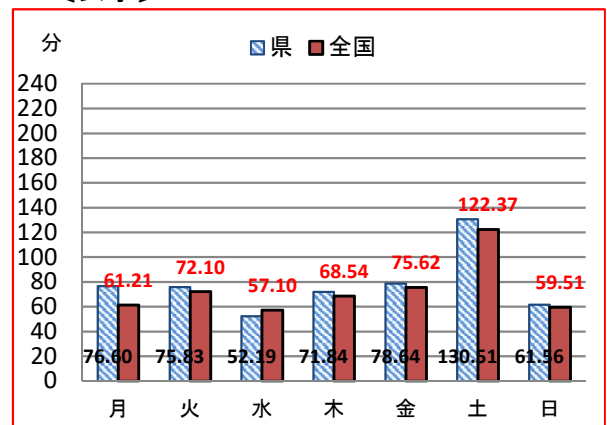
- 男女ともに月～金曜日は全国よりも長い。ほとんど差が見られない。
- 土・日曜日は全国より短い。特に、男子の差が大きい。

##### イ【中学校】

〔男子〕



〔女子〕



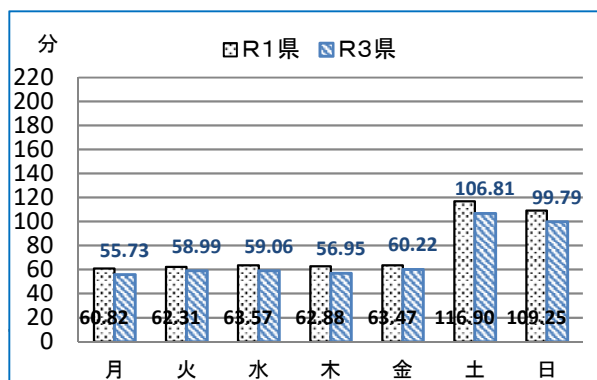
#### 〈現状〉

- 男女ともに平日の水曜日以外は全国よりも長い。ほとんど差が見られない。
- 男女ともに水曜日については、全国より短い。
- 土・日曜日については、男女とも全国よりも長い。ほとんど差が見られない。

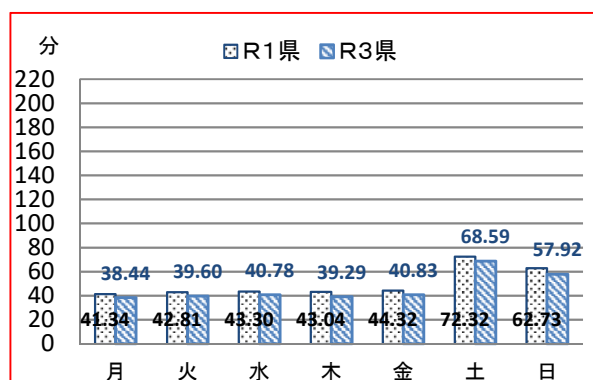
(2) 1週間の運動時間に関する令和元年度との比較

ア【小学校】

〔男子〕



〔女子〕

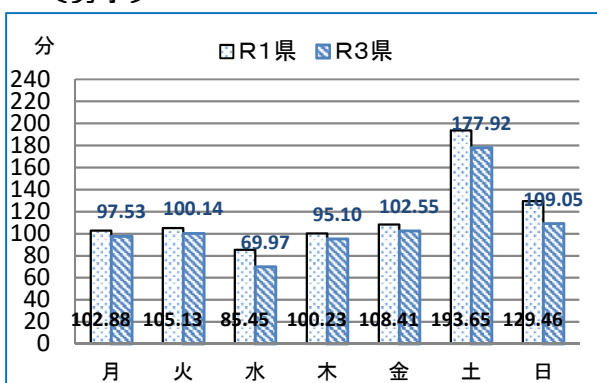


〈現状〉

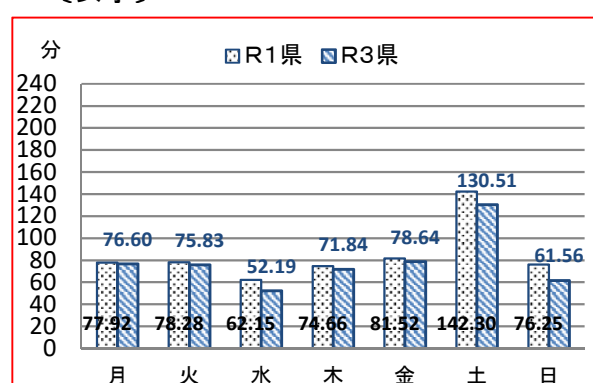
- 男女ともに、全ての曜日で令和元年度より運動時間が短くなっている。
- 特に土・日曜日が短くなっている。

イ【中学校】

〔男子〕



〔女子〕

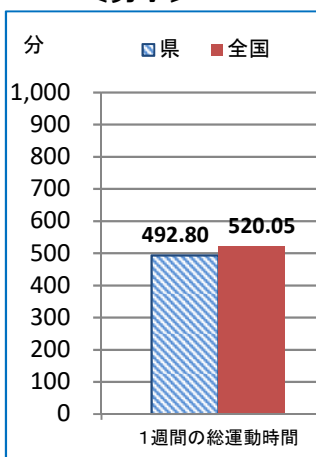


〈現状〉

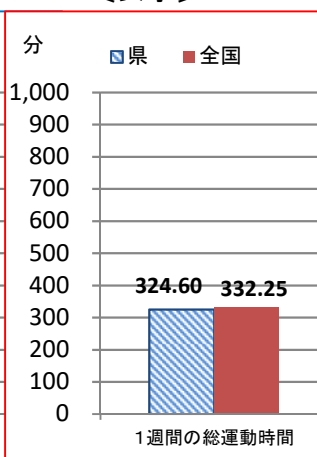
- 男女ともに、全ての曜日で令和元年度より運動時間が短くなっている。
- 小学校同様、特に土・日曜日が短くなっている。

(3) 1週間の総運動時間における全国との比較

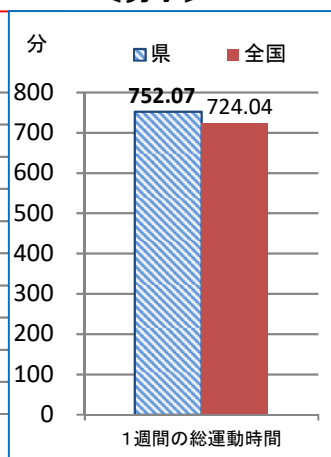
ア【小学校】  
〔男子〕



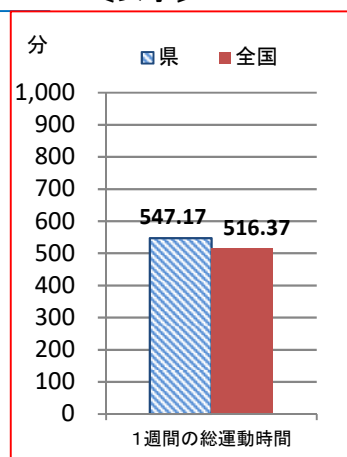
〔女子〕



イ【中学校】  
〔男子〕



〔女子〕



〈現状〉

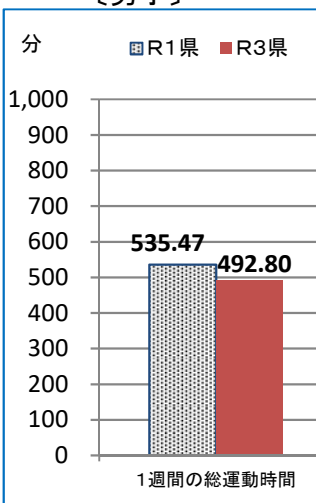
- 小学校男子は、全国よりわずかに短く、小学校女子は全国とほとんど差がない。
- 中学校男女は、全国よりわずかに長い。

※ 1週間の総運動時間(分)の考察コメント(スポーツ庁)

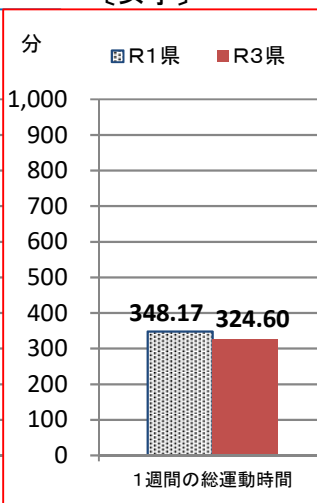
±35分以上:長(短)い ±21分~±35分未満:わずかに長(短)い ±21分未満:ほとんど差がない

(4) 1週間の総運動時間の令和元年度との比較

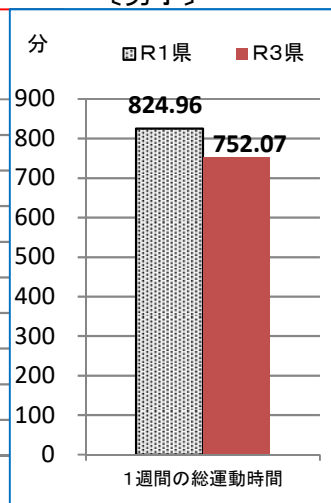
ア【小学校】  
〔男子〕



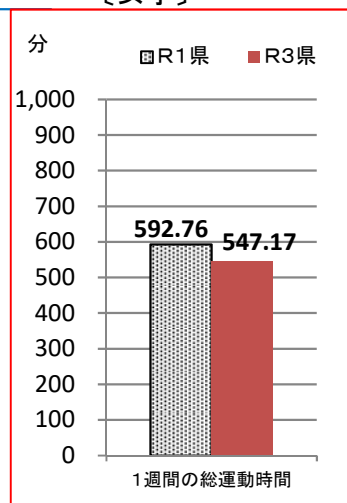
〔女子〕



イ【中学校】  
〔男子〕



〔女子〕



〈現状〉

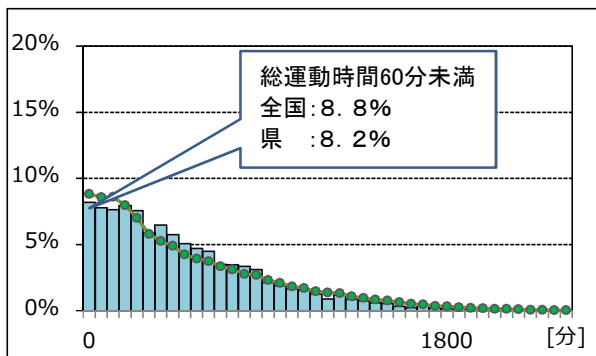
- 令和元年度と比較すると、小学校女子はわずかに短くなっている。
- 令和元年度と比較すると、小学校男子、中学校男女は、短くなっている。

(5) 1週間の総運動時間(体育の授業を除く)の分布

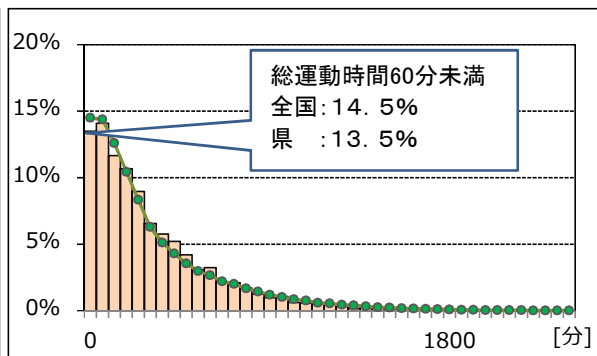
1週間の総運動時間の分布を、横軸を60分の階級、縦軸を割合で表しています。

(0～59分, 60～119分, 120～179分 …………… 2340～2400分)

〔男子〕

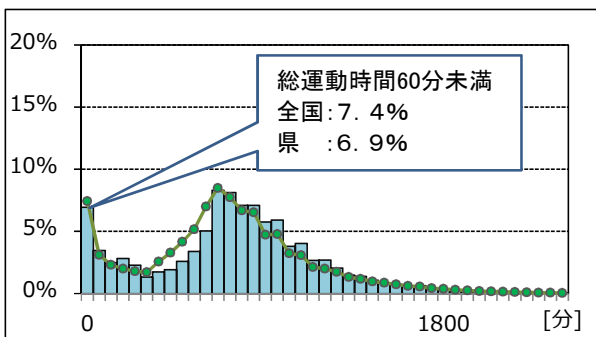


〔女子〕

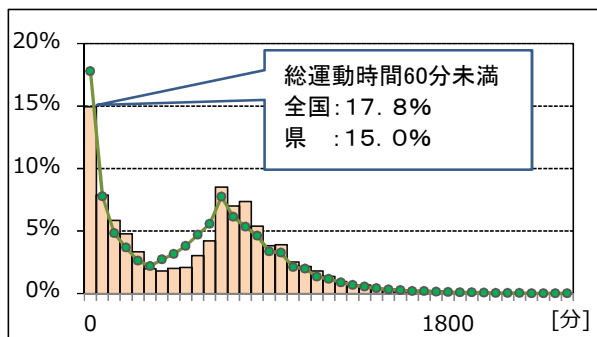


イ【中学校】

〔男子〕



〔女子〕



※折れ線グラフは、全国(公立学校)の分布

校種	男女	全国・県	0分	60分未満	60分～420分未満	0分～420分未満計
小学校 第5学年	男子	県	3.5%	4.7%	43.3%	51.5%
		全国	4.0%	4.8%	43.2%	52.0%
	女子	県	4.3%	9.2%	57.7%	71.2%
		全国	5.1%	9.4%	57.2%	71.7%
中学校 第2学年	男子	県	4.4%	2.5%	14.1%	21.0%
		全国	5.3%	2.1%	13.4%	20.8%
	女子	県	8.8%	6.2%	25.6%	40.6%
		全国	11.3%	6.5%	23.8%	41.6%

〈現状〉

- 本県児童生徒の1週間の総運動時間の分布は、おおむね全国と同じ傾向である。
- 総運動時間420分未満の割合についても、おおむね全国と同じ傾向である(小学校男女及び中学校女子は全国平均より低い。中学校男子は全国より高い)。

(6) 1週間の総運動時間420分未満及び420分以上の児童生徒の推移

					R元年度比減	R元年度比増
	年度	0分	1～60分未満	60～420分未満	0～420分未満計	420分以上
小学校 第5学年男	29	2.1%	3.2%	36.8%	42.1%	57.9%
	30	2.8%	3.4%	38.2%	44.4%	55.6%
	R元	3.6%	4.1%	39.9%	47.6%	52.4%
	R3	3.5%	4.7%	43.3%	51.5%	48.5%
小学校 第5学年女	29	2.9%	7.4%	54.2%	64.5%	35.5%
	30	3.7%	7.9%	55.2%	66.8%	33.2%
	R元	4.4%	8.5%	55.7%	68.6%	31.4%
	R3	4.3%	9.2%	57.7%	71.2%	28.8%
中学校 第2学年男	29	3.6%	1.5%	9.1%	14.2%	85.8%
	30	4.7%	1.6%	10.7%	17.0%	83.0%
	R元	4.7%	2.0%	12.2%	18.9%	81.1%
	R3	4.4%	2.5%	14.1%	21.0%	79.0%
中学校 第2学年女	29	10.3%	5.6%	21.2%	37.1%	62.9%
	30	10.8%	5.3%	22.6%	38.7%	61.3%
	R元	9.8%	6.6%	23.6%	40.0%	60.0%
	R3	8.8%	6.2%	25.6%	40.6%	59.4%

〈現状〉

- 1週間の総運動時間が0～420分未満の割合が増え、420分以上の割合が減る傾向がある。
- 1週間の総運動時間が0分の児童生徒については、特に中学校女子の割合が依然として高い。

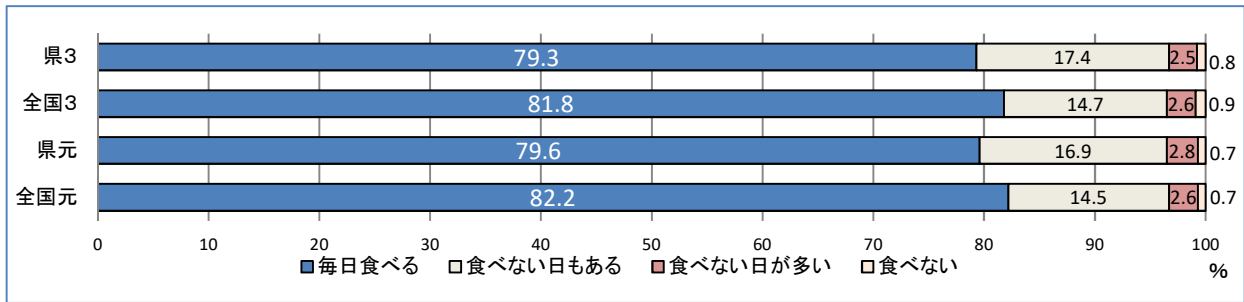
## 4 生活習慣等に関する調査結果概要

### (1) 朝食の摂取状況(学校が休みの日も含める)の結果

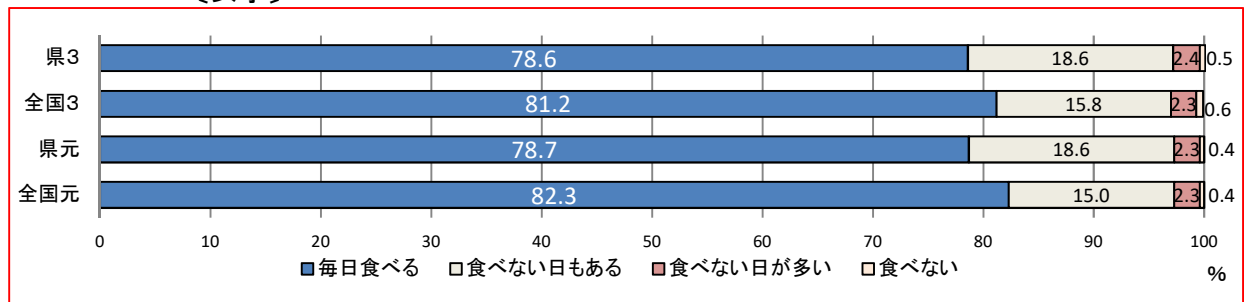
※ 質問紙調査考察コメントの基準(スポーツ庁)

±2%以上:高(低)い ±1%~±2%未満:わずかに高(低)い ±1%未満:ほとんど差がない

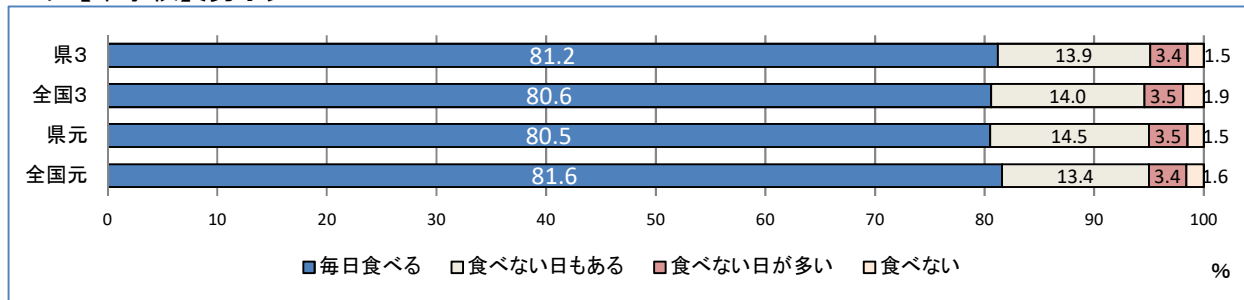
#### ア【小学校】[男子]



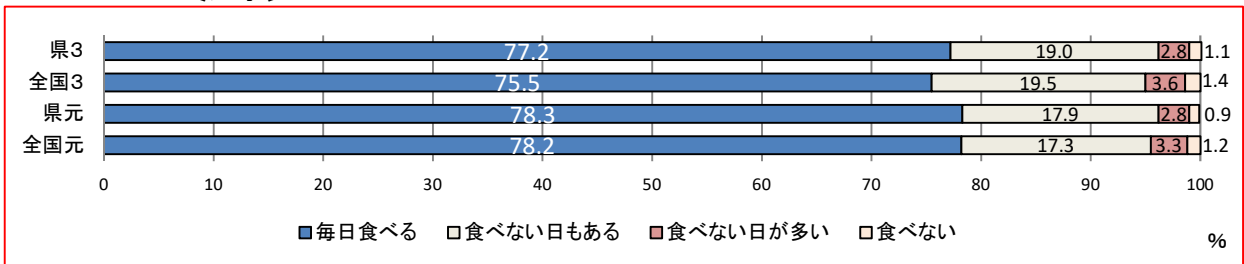
#### [女子]



#### イ【中学校】[男子]



#### [女子]



#### 〈現状〉

##### 【小学校】

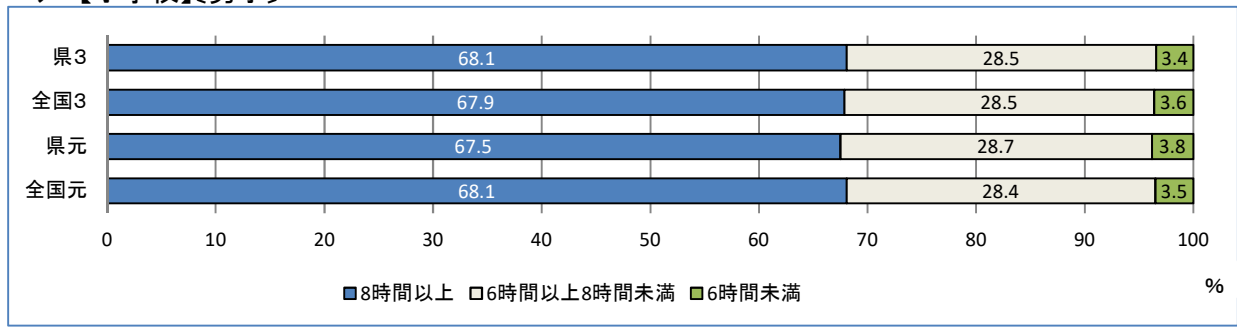
- 朝食を「毎日食べる」と回答した割合を全国平均と比較すると、男女とも低い。
- 県の令和元年度平均と比較すると「毎日食べる」と回答した割合は、男女ともにほとんど差がない。

##### 【中学校】

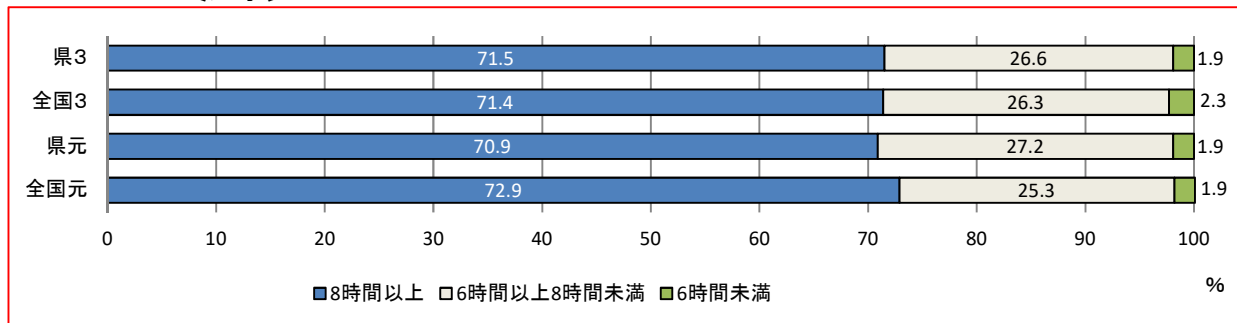
- 朝食を「毎日食べる」と回答した割合を全国平均と比較すると、男子はほとんど差がなく、女子はわずかに高い。
- 県の令和元年度平均と比較すると「毎日食べる」と回答した割合は、男子はほとんど差がなく、女子はわずかに低くなっている。

(2) 1日の睡眠時間の結果

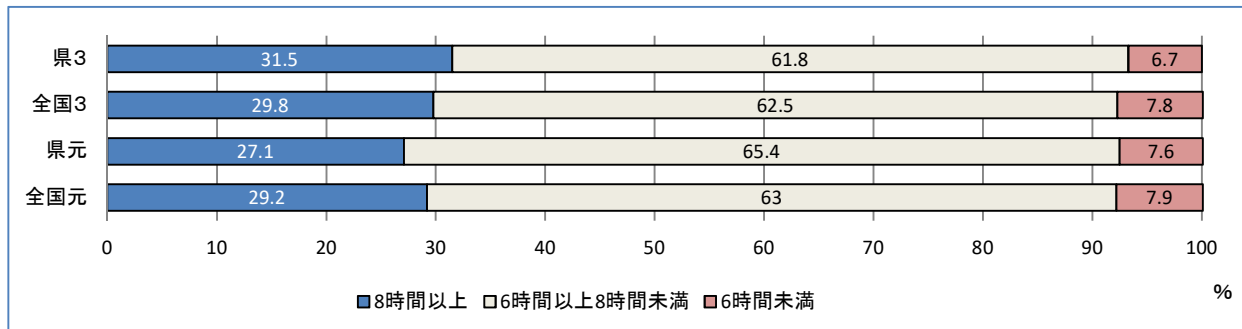
ア【小学校】〔男子〕



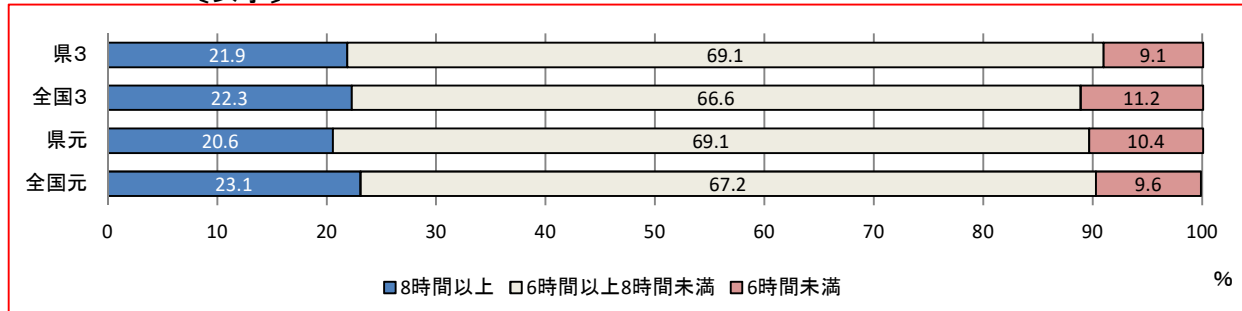
〔女子〕



イ【中学校】〔男子〕



〔女子〕



〈現状〉

【小学校】

- 睡眠時間が「8時間以上」と回答した割合を全国平均と比較すると、男女ともにほとんど差がない。
- 県の令和元年度平均と比較すると、「8時間以上」と回答した割合は、男女ともにほとんど差がない。

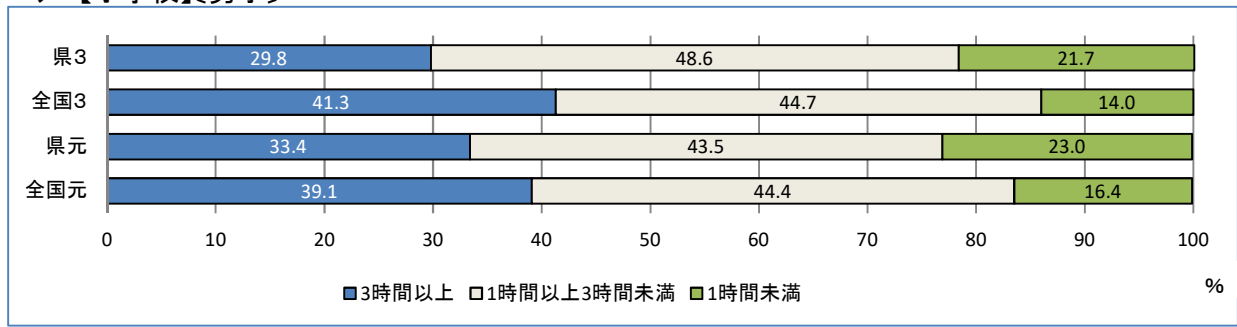
【中学校】

- 睡眠時間が「8時間以上」と回答した割合を全国平均と比較すると、男子はわずかに高く、女子はほとんど差がない。
- 県の令和元年度平均と比較すると、「8時間以上」と回答した割合は、男子は高くなっており、女子はわずかに高くなっている。

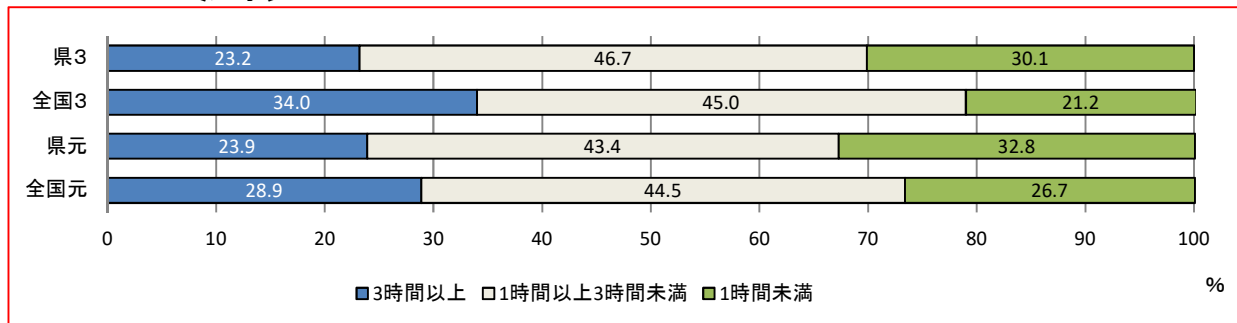


### (3) 平日のスクリーンタイムの結果

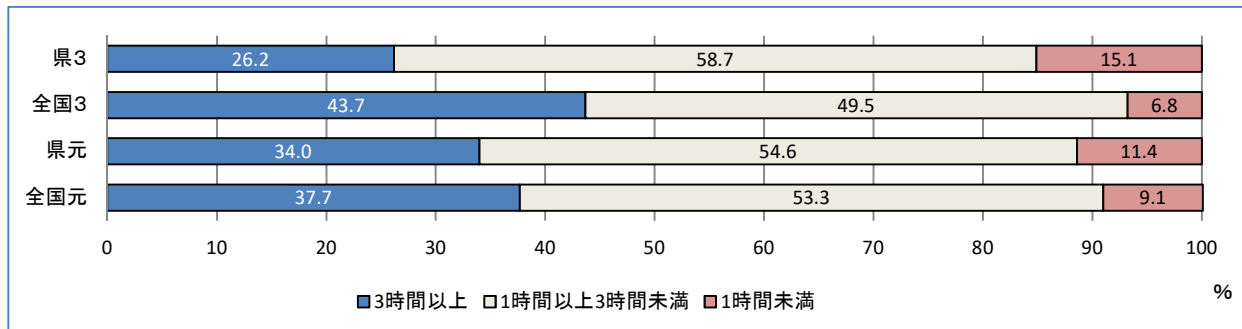
#### ア【小学校】〔男子〕



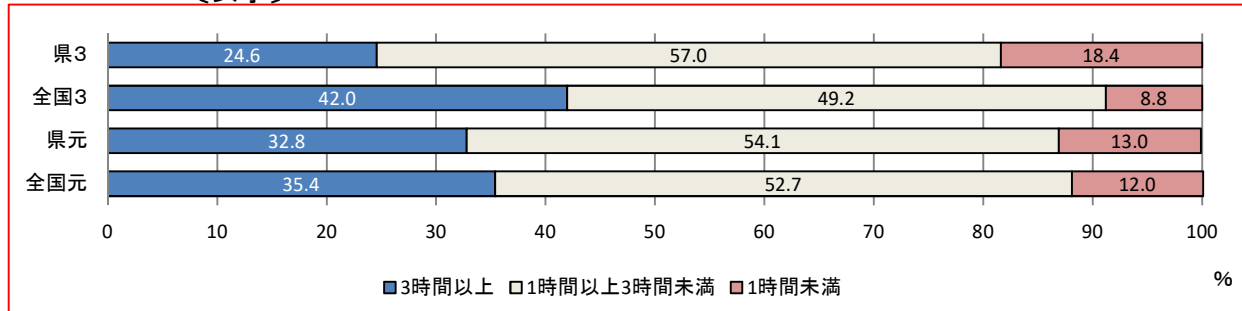
#### 〔女子〕



#### イ【中学校】〔男子〕



#### 〔女子〕



#### 〈現状〉

##### 【小学校】

- スクリーンタイムが「3時間以上」と回答した割合を全国平均と比較すると、男女ともに低い。
- 県の令和元年度平均と比較すると、「3時間以上」と回答した割合は、男子は低くなっており、女子はほとんど差がない。

##### 【中学校】

- スクリーンタイムが「3時間以上」と回答した割合を全国平均と比較すると、男女ともに低い。
- 県の令和元年度平均と比較すると、「3時間以上」と回答した割合は、男女ともに低くなっている。

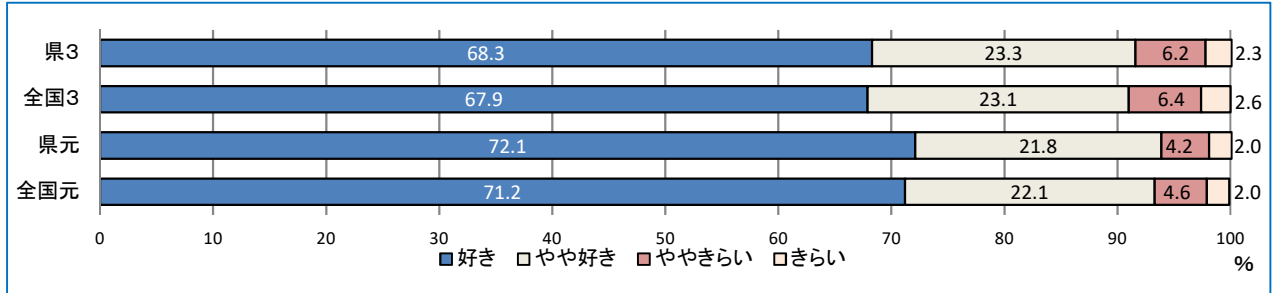
## 5 運動やスポーツ, 体育・保健体育の授業に関する調査結果概要

### (1) 運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることの好き・きらい

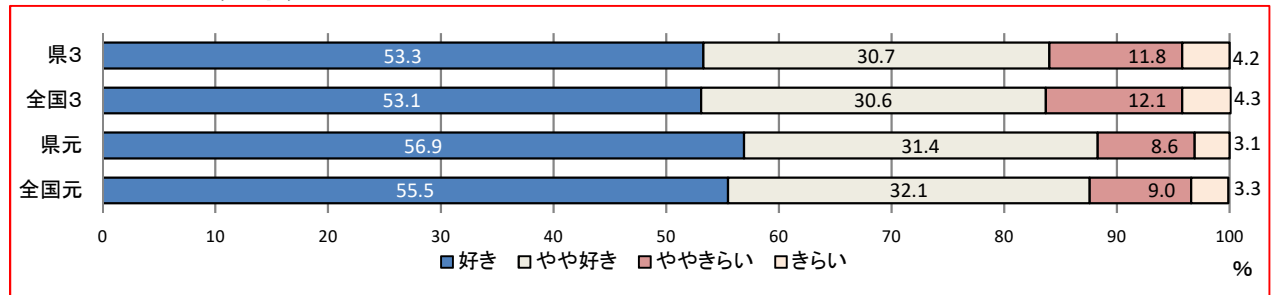
※ 質問紙調査考察コメントの基準(スポーツ庁)

±2%以上:高(低)い ±1%~±2%未満:わずかに高(低)い ±1%未満:ほとんど差がない

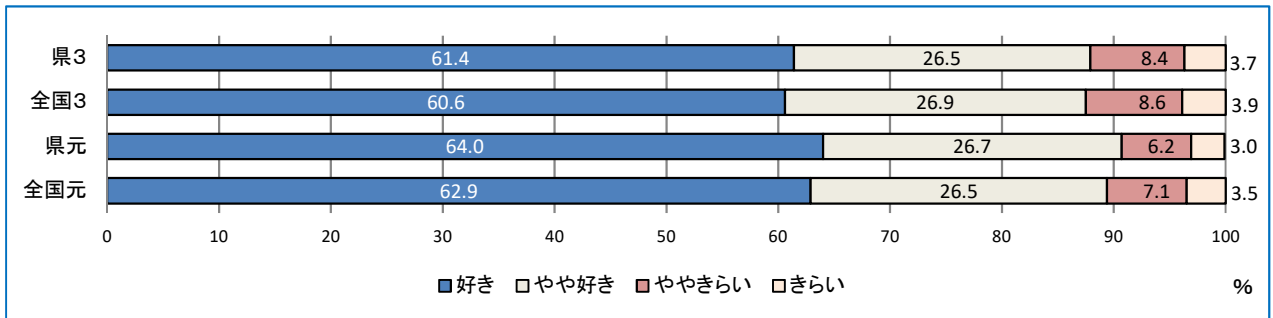
#### ア【小学校】〔男子〕



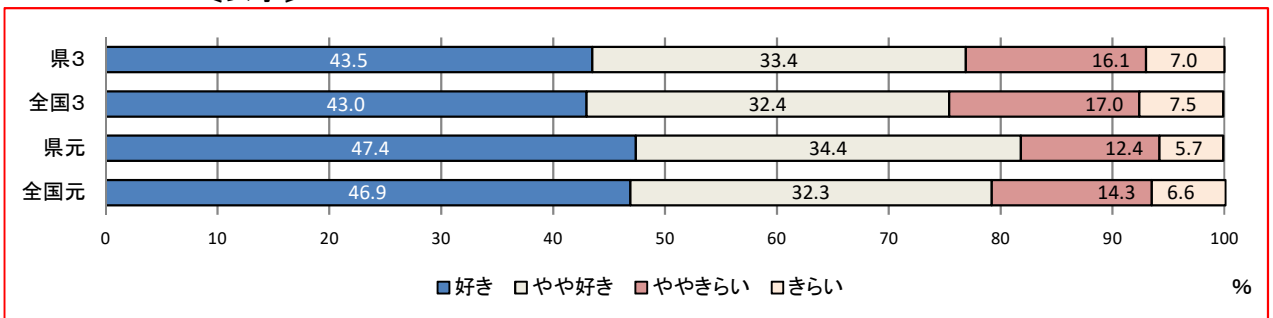
#### 〔女子〕



#### イ【中学校】〔男子〕



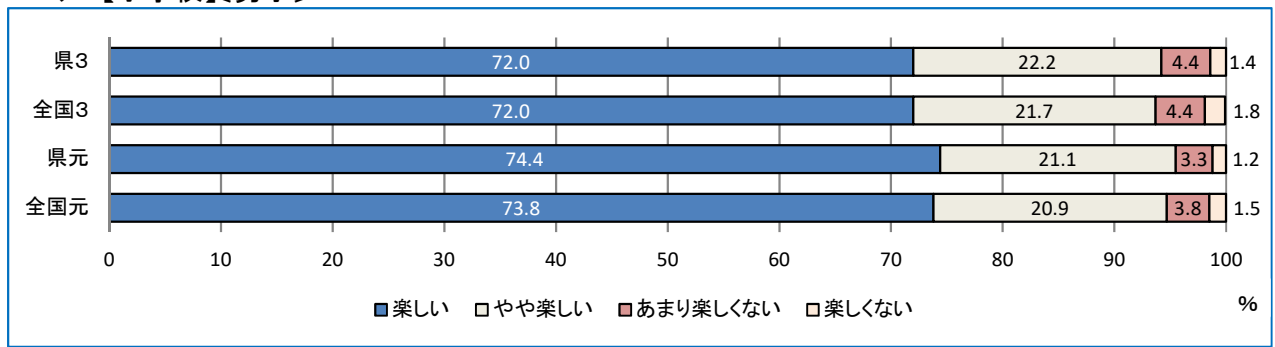
#### 〔女子〕



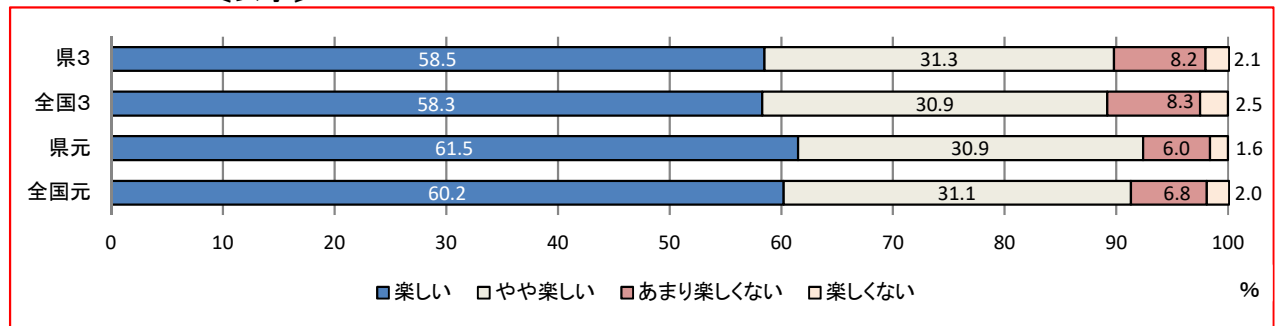
#### 〈現状〉

- 運動やスポーツをすることが「好き」と回答した割合を全国平均と比較すると, 小中学校男女ともにほとんど差がない。
- 県の令和元年度平均と比較すると, 運動やスポーツをすることが「好き」と回答した割合は, 小中学校男女ともに低くなっている。

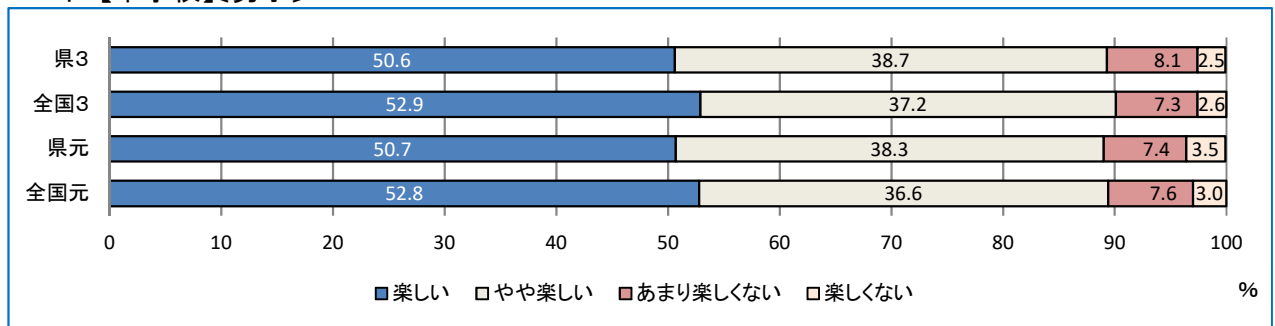
(2) 体育(保健体育)の授業が楽しいか  
ア【小学校】[男子]



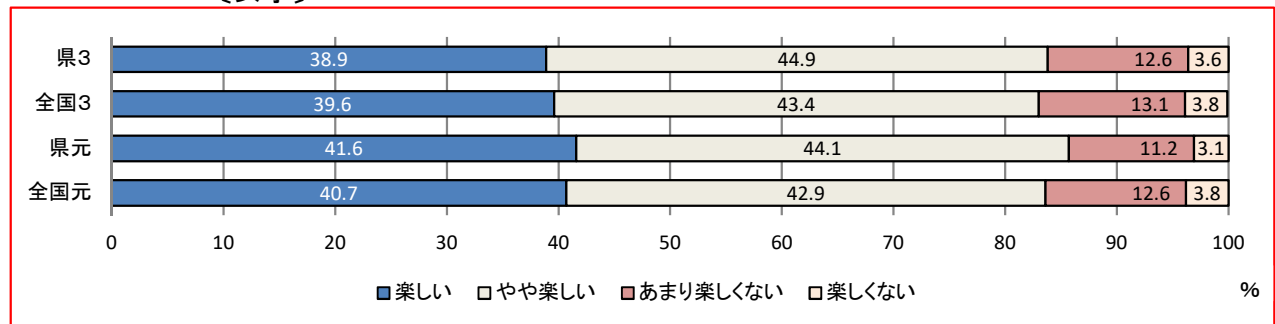
[女子]



イ【中学校】[男子]



[女子]



〈現状〉

【小学校】

○ 体育の授業が「楽しい」と回答した割合を全国平均と比較すると、男女ともにほとんど差がない。

○ 県の令和元年度平均と比較すると、体育の授業が「楽しい」と回答した割合は、男女ともに低くなっている。

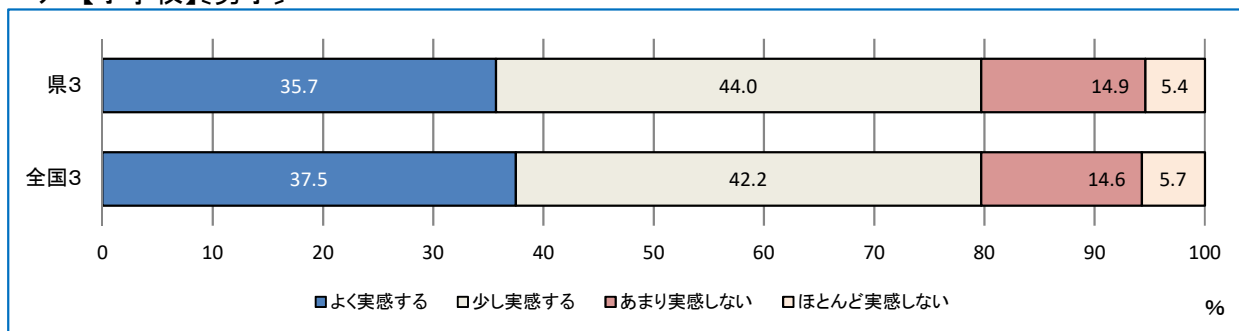
【中学校】

○ 保健体育の授業が「楽しい」と回答した割合を全国平均と比較すると、男子は低く、女子はほとんど差がない。

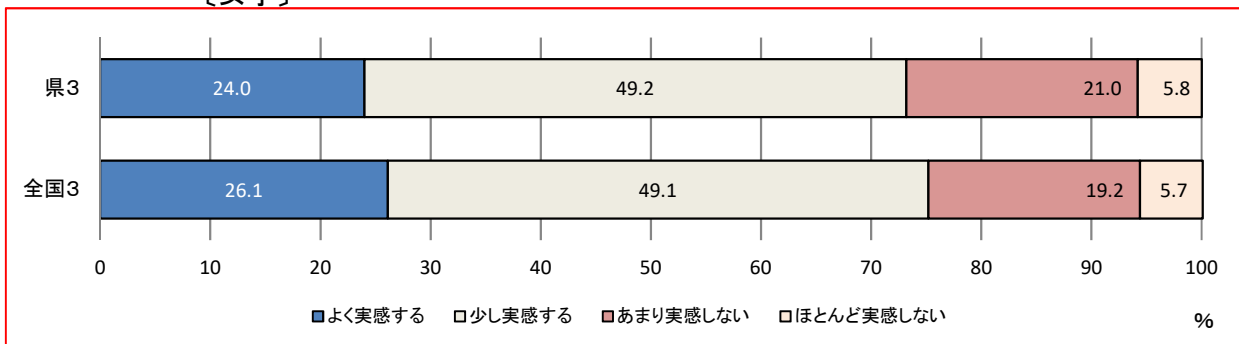
○ 県の令和元年度平均と比較すると、男子はほとんど差がないが、女子は低くなっている。

(3) 体育(保健体育)の授業で自分の動きが向上していることを実感することがあるか。(新規)

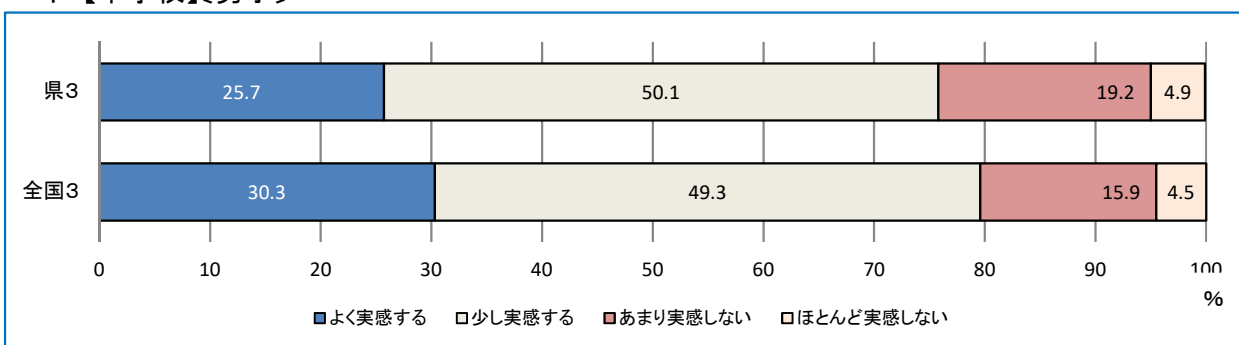
ア【小学校】〔男子〕



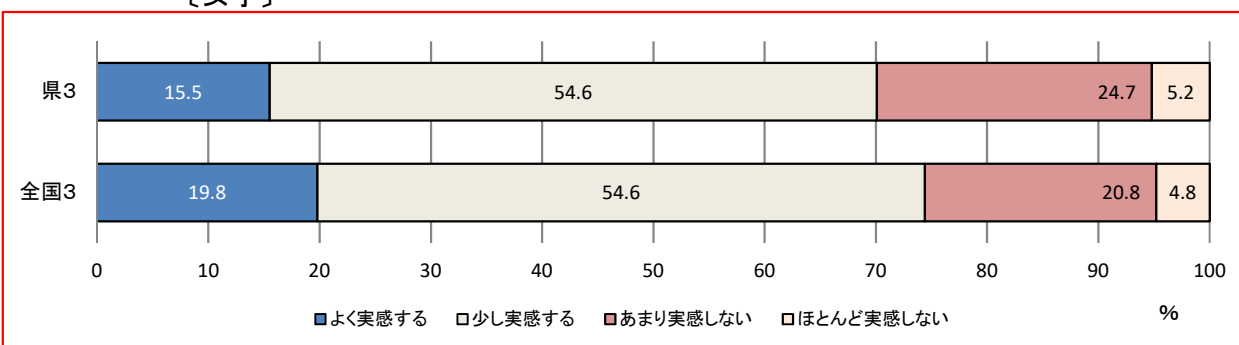
〔女子〕



イ【中学校】〔男子〕



〔女子〕



〈現状〉

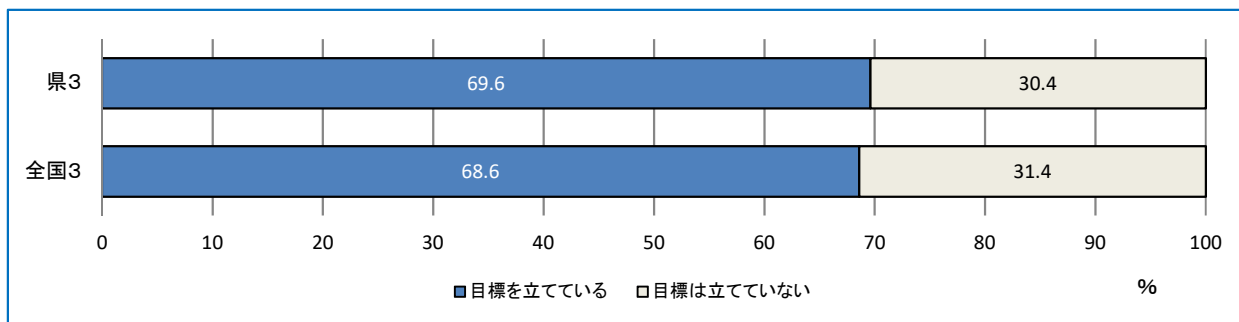
【小学校】

○ 体育の授業で自分の動きの向上を「よく実感する」と回答した割合を全国平均と比較すると、男子はわずかに低く、女子は低い。「あまり実感しない」「ほとんど実感しない」と回答した割合は、男子はほとんど差がなく、女子はわずかに高い。

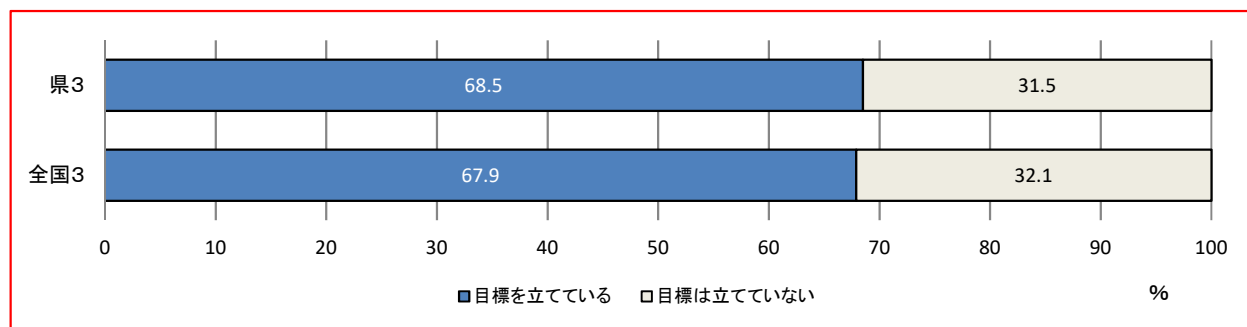
【中学校】

○ 保健体育の授業で自分の動きの向上を「よく実感する」と回答した割合を全国平均と比較すると、男女ともに低い。「あまり実感しない」「ほとんど実感しない」と回答した割合は、男女ともに高い。

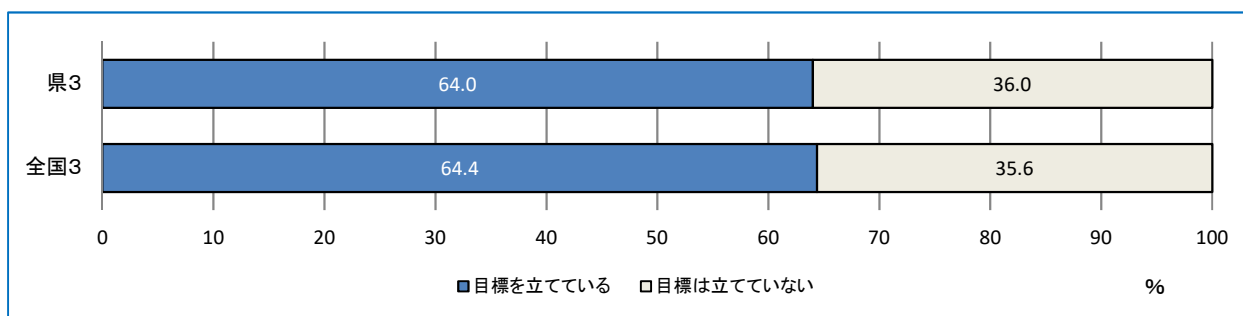
(4) 体力テストの結果や体力・運動能力の向上について自分なりの目標を立てているか。(新規)



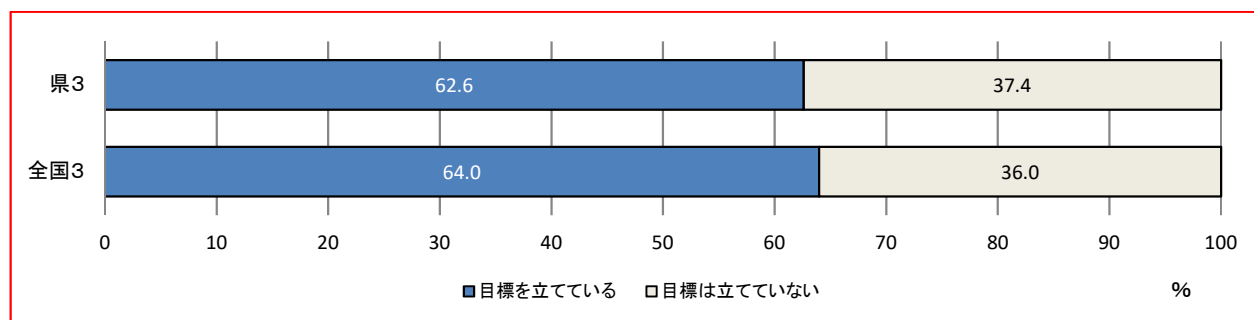
〔女子〕



イ【中学校】〔男子〕



〔女子〕



〈現状〉

【小学校】

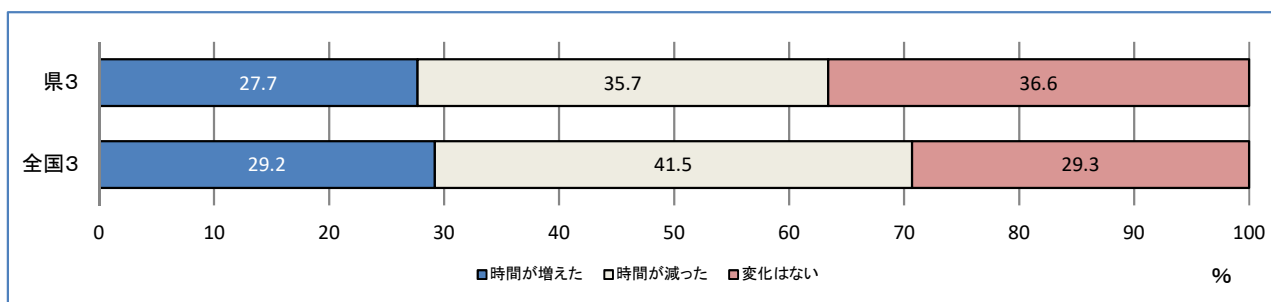
○ 自分なりの「目標を立てている」と回答した割合を全国平均と比較すると、男子はわずかに高く、女子はほとんど差がない。「立てていない」と回答した割合は、男子はわずかに低く、女子はほとんど差がない。

【中学校】

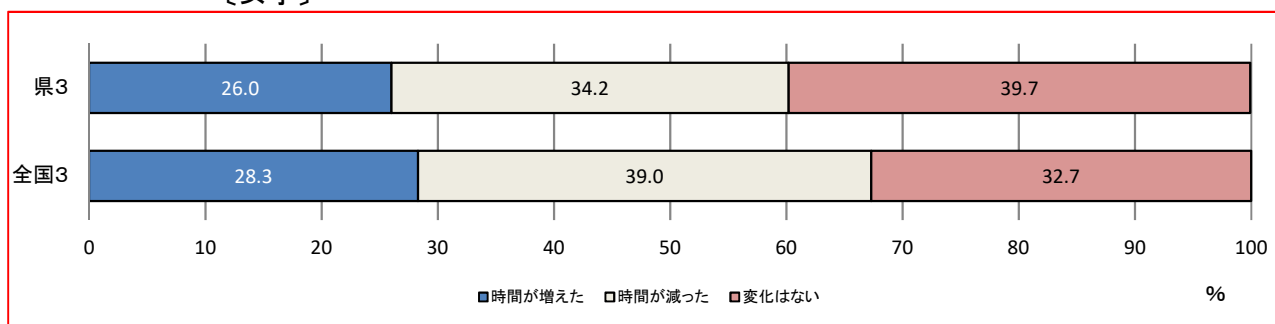
○ 自分なりの「目標を立てている」と回答した割合を全国平均と比較すると、男子はほとんど差がなく、女子はわずかに低い。「目標を立てていない」と回答した割合は、男子はほとんど差がなく、女子はわずかに高い。

(5) 新型コロナウイルス感染症の影響前後の運動やスポーツをする時間はどのように変化したか。(新規)

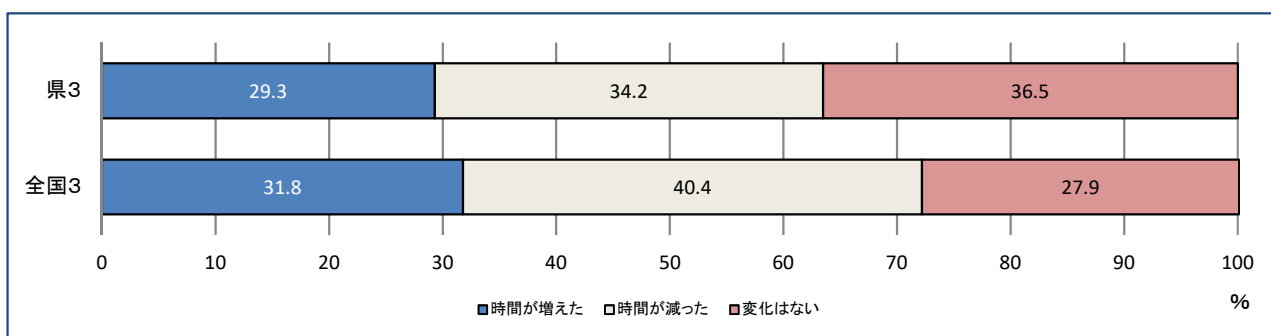
ア【小学校】〔男子〕



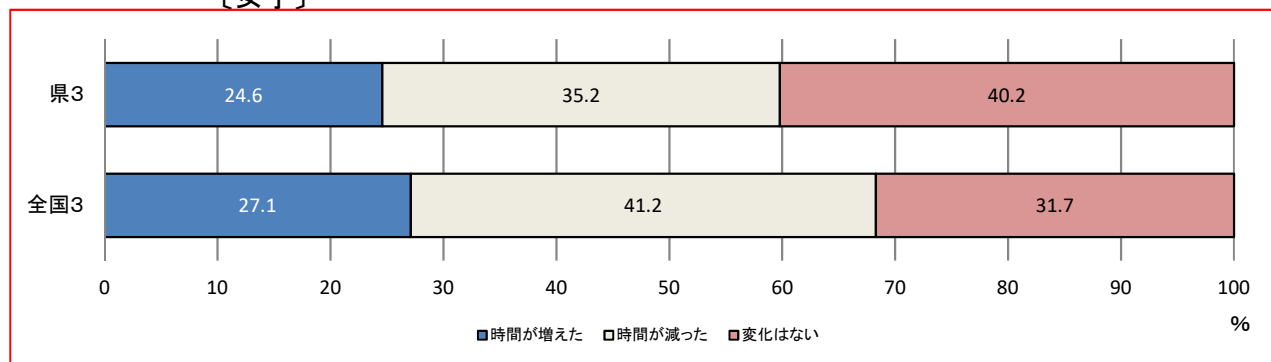
〔女子〕



イ【中学校】〔男子〕



〔女子〕



〈現状〉

【小学校】

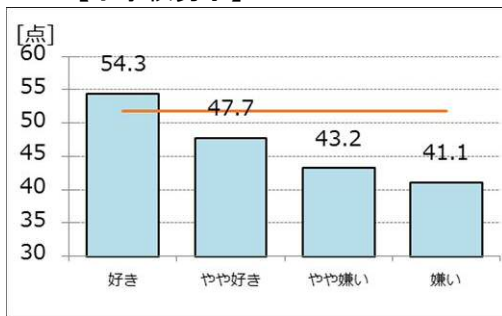
- 運動やスポーツをする「時間が増えた」と回答した割合を全国平均と比較すると、男子はわずかに低く、女子は低い。
- 運動やスポーツをする「時間が減った」と回答した割合を全国平均と比較すると、男女ともに低い。「変化はない」は男女ともに高い

【中学校】

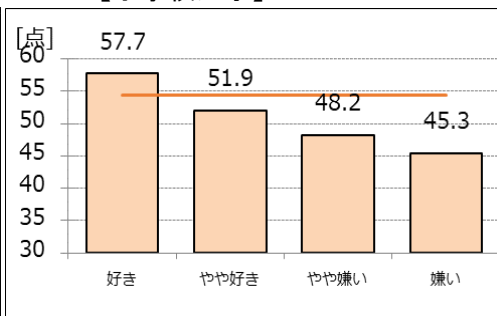
- 運動やスポーツをする「時間が増えた」と回答した割合を全国平均と比較すると、男女ともに低い。
- 運動やスポーツをする「時間が減った」と回答した割合を全国平均と比較すると、男女ともに低い。「変化はない」は男女ともに高い

6 児童生徒の回答と体力合計点等とのクロス集計 ※グラフ内横線は県平均値

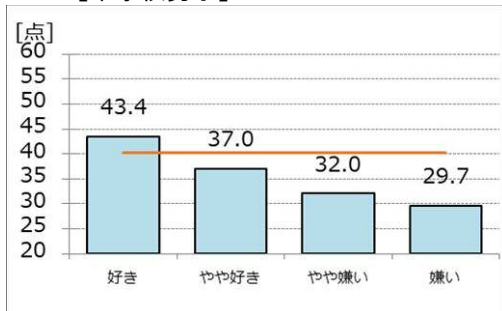
(1) 「運動やスポーツが好き」と体力合計点  
【小学校男子】



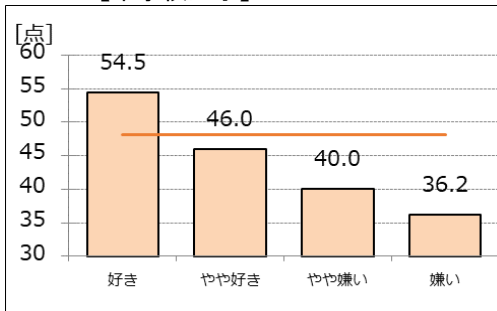
【小学校女子】



【中学校男子】



【中学校女子】

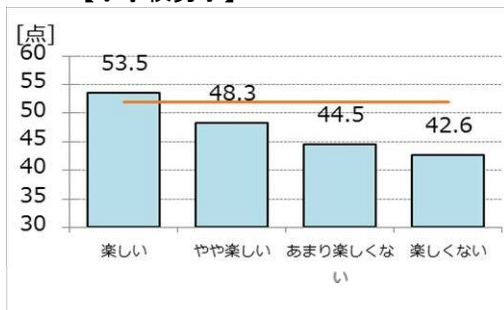


〈現状及び考察〉

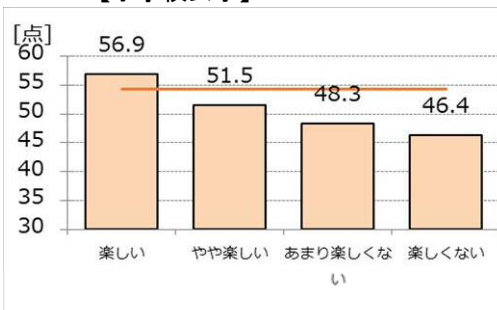
小中学校男女とも「運動が好き」と回答した児童生徒の体力合計点は高く、「運動が嫌い」と回答した児童生徒の体力合計点は低くなっている。

※ 「運動が嫌い」な児童生徒への手立てを継続して行う必要がある。

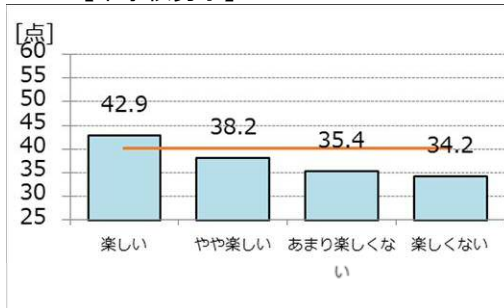
(2) 「体育の授業が楽しい」と体力合計点  
【小学校男子】



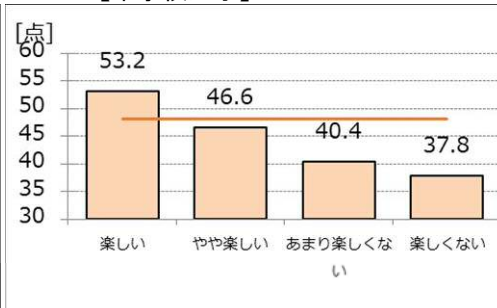
【小学校女子】



【中学校男子】



【中学校女子】

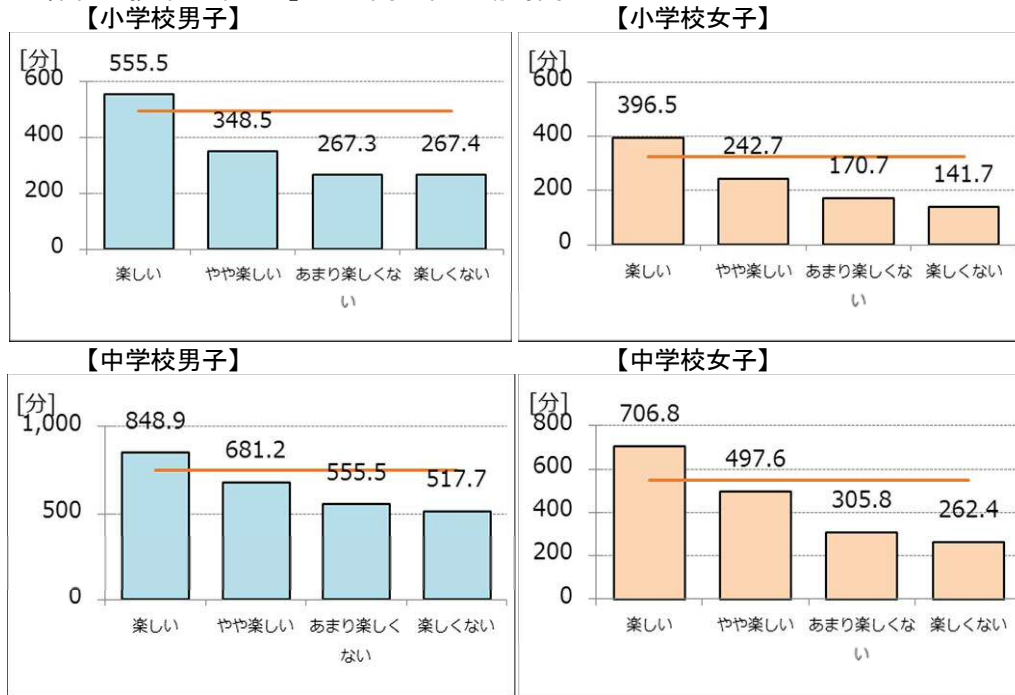


〈現状及び考察〉

小中学校男女とも「体育の授業が楽しい」と回答した児童生徒の体力合計点は高く、「体育の授業が楽しくない」と回答した児童生徒の体力合計点は低くなっている。

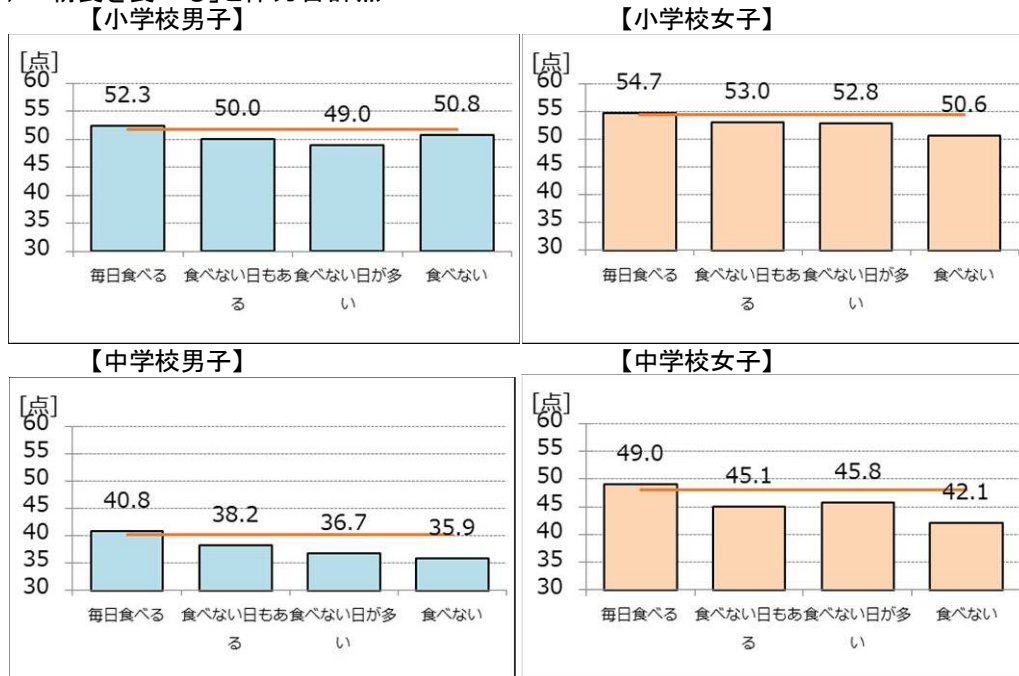
※ 「体育の授業が楽しくない」という児童生徒への手立てを継続して行う必要がある。

(3) 「体育の授業が楽しい」と1週間の総運動時間



〈現状及び考察〉  
 小中学校男女とも「体育の授業が楽しい」と回答している児童生徒の1週間の総運動時間は、「体育の授業が楽しくない」と回答している児童生徒より大幅に長くなっている。  
 ※ 児童生徒が運動の特性に触れ、「楽しい」「またやりたい」と思うような授業の工夫・改善を図り、運動の日常化へとつなげていくことが重要である。

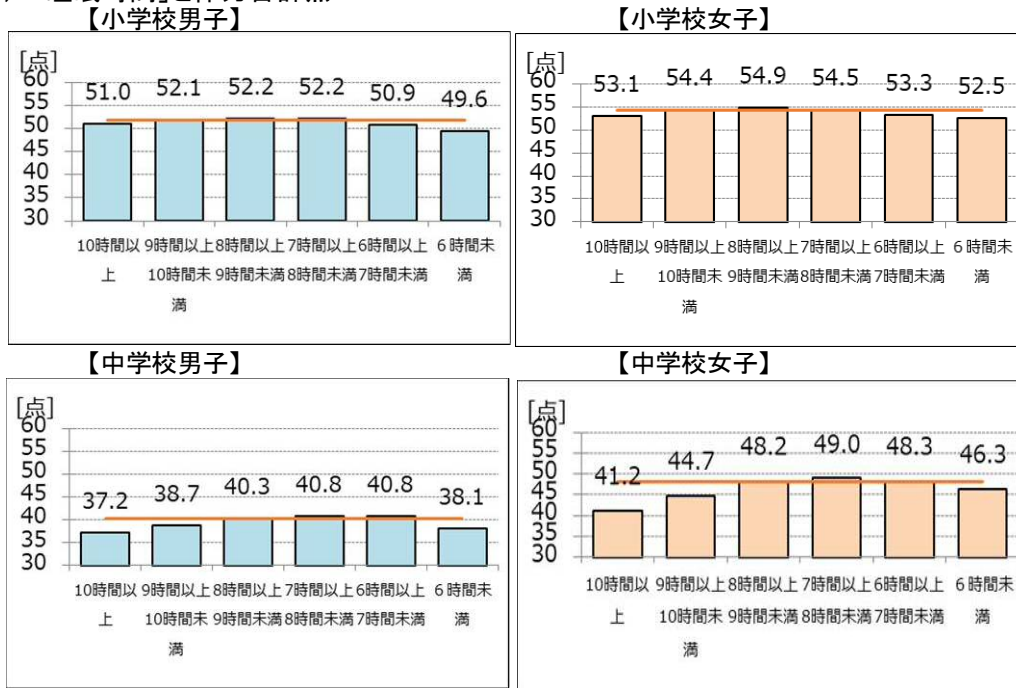
(4) 「朝食を食べる」と体力合計点



〈現状及び考察〉  
 小中学校男女とも朝食を「毎日食べる」と回答している児童生徒の体力合計点は、朝食を「食べない日もある」、「食べない日が多い」「食べない」と回答している児童生徒と比べると高くなっている。  
 ※ 朝食を毎日摂ることが、体力の向上につながっていることが伺える。



(5) 「睡眠時間」と体力合計点

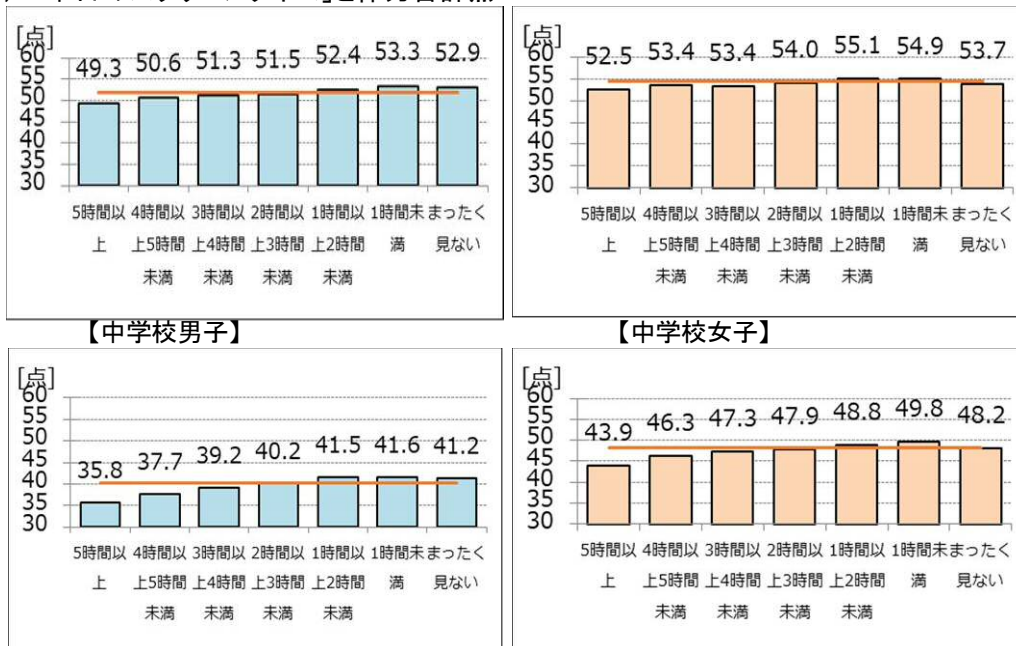


〈現状及び考察〉

小中学校男女とも睡眠時間が「6時間未満」の児童生徒と睡眠時間が「10時間以上」の児童生徒の体力合計点は、睡眠時間が「6時間以上10時間未満」の児童生徒と比べると低くなる傾向がある。

※ 適度な睡眠時間は、体力の向上につながっていることが伺える。

(6) 「平日のスクリーンタイム」と体力合計点



〈現状及び考察〉

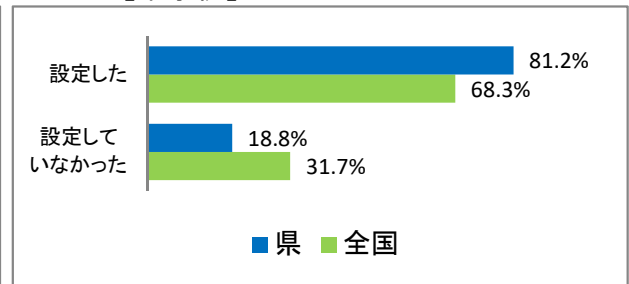
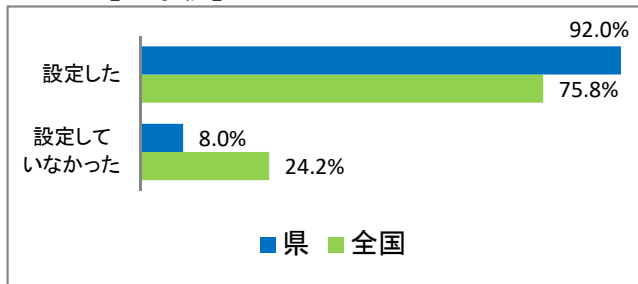
小中学校男女とも「平日のスクリーンタイム」が長くなるほど、体力合計点が低くなっている。

※ 「テレビ、DVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面の見過ぎややり過ぎ」は、体力の向上を阻害する要因の一つになっていると考えられる。

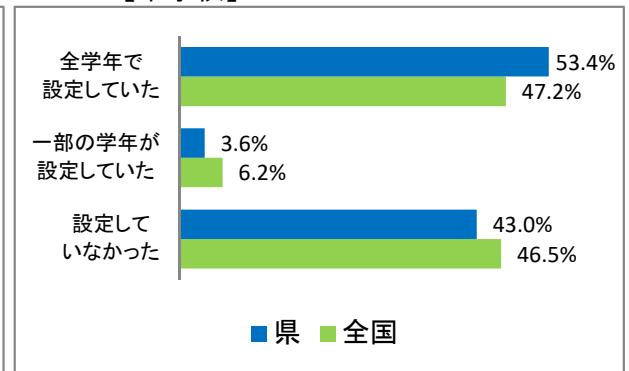
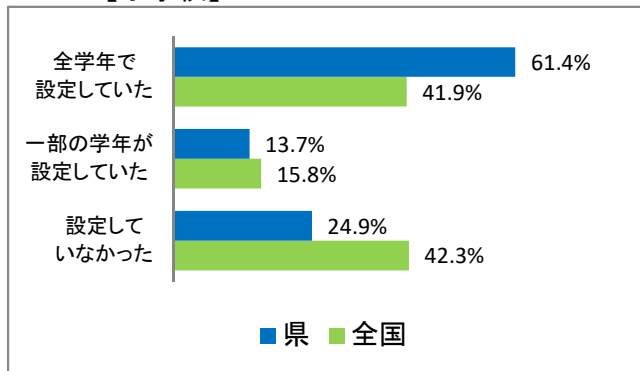
## 7 学校質問紙から

※ 全国の数値は公立

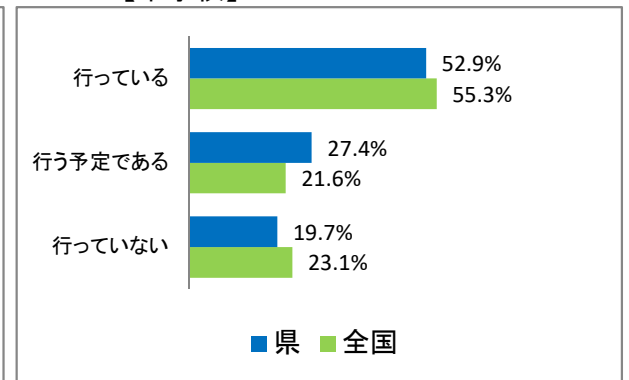
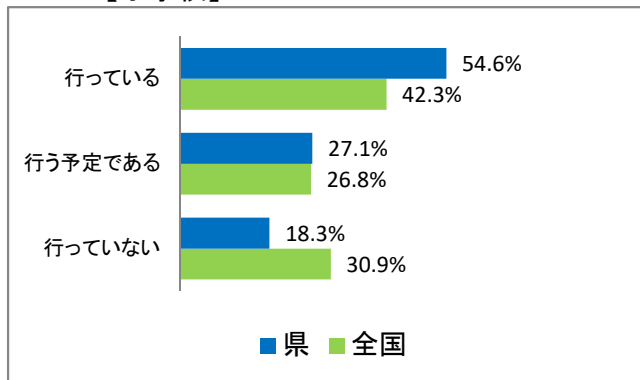
### (1) 令和2年度における児童生徒の体力・運動能力向上のための学校全体としての目標設定



### (2) 令和2年度における児童生徒の体力・運動能力向上のための学年としての目標設定



### (3) 運動・スポーツが苦手な傾向にある児童生徒向け、性別に応じた取組



#### 〈現状及び考察〉

○ 令和2年度における児童生徒の体力・運動能力向上のための学校全体としての目標を「設定した」と回答した学校の割合は、全国平均と比較して小中学校ともに高い状況である。

○ 令和2年度における児童生徒の体力・運動能力向上のための学年としての目標を「全学年で設定した」と回答した学校の割合は、全国平均と比較して小中学校ともに高い状況である。

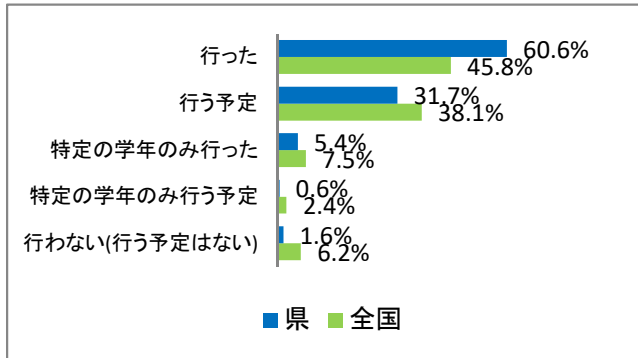
※ 学校全体の目標を基に、発達の段階に応じて学年の目標を設定するとともに、各学校の「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進プランを活用した、体力向上に向けた取組を推進する体制づくりを構築する必要がある。

○ 運動・スポーツが苦手な傾向にある児童生徒、性別に応じた取組を「行っている」と回答した割合は、全国平均と比較して、小学校は高いが、中学校はわずかに低い状況である。

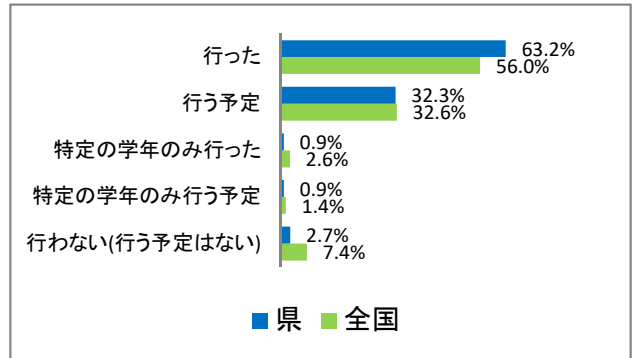
※ 小学校学習指導要領において、運動が苦手な児童・運動に意欲的でない児童への配慮の例が示され、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方や関わり方を共有するなど内容の改善が図られている。これを受けて中学校においても、小中の系統性を意識した指導を工夫する必要がある。

(4) これまでの調査結果を踏まえた授業改善の有無

【小学校】



【中学校】

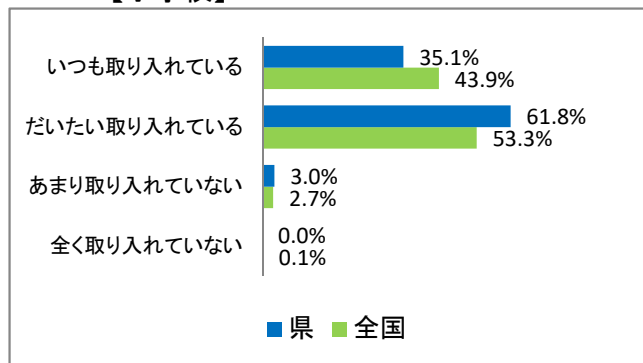


〈現状〉

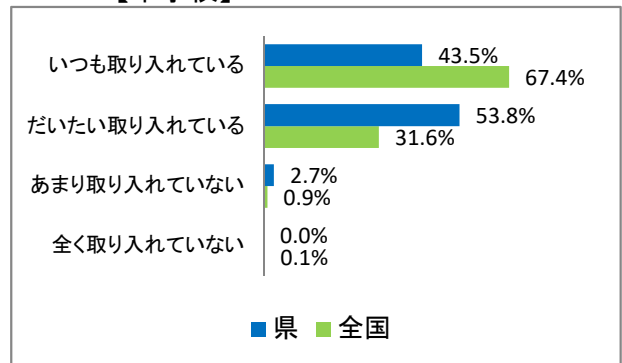
これまでの全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果を踏まえた授業改善を「行った」と回答している学校の割合は、全国平均と比較して小中学校ともに高い状況である。

(5) 体育・保健体育授業での目標(めあて・ねらい等)の提示

【小学校】

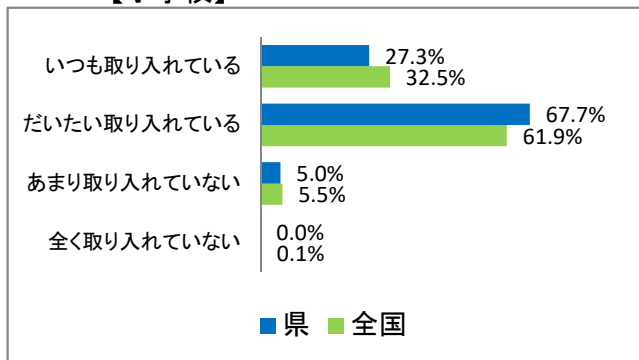


【中学校】

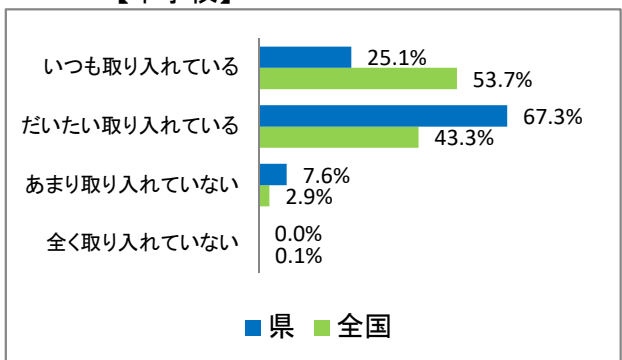


(6) 体育・保健体育授業での振り返りの活動の設定

【小学校】



【中学校】



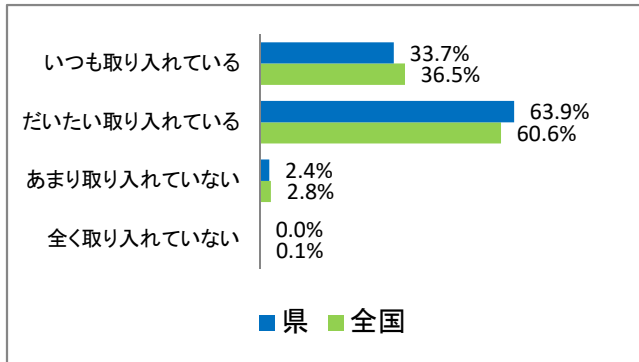
〈現状及び考察〉

○ 体育・保健体育の授業において、小中学校ともに目標(めあて、ねらい等)の提示や振り返りの活動を「いつも取り入れている」と回答した割合は、全国平均と比較して低く、「だいたい取り入れている」と回答した割合は、全国平均と比較して高い状況である。

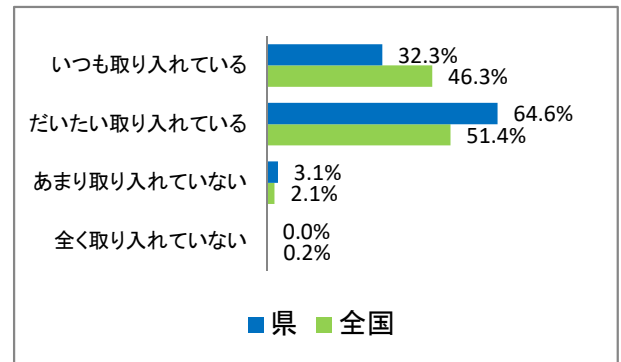
※ 特に、中学校は、「いつも取り入れている」と回答した割合が、全国平均よりも非常に低い状況であることから、生徒が目的意識をもって学習に取り組むとともに、学習の成果(自己の伸びや新たな課題)を確認して次時の学習につなげるなど、深い学びに向けた、体育・保健体育の授業における目標の提示及び振り返りの活動を授業に位置付けていく必要がある。

(7) 体育・保健体育授業で、児童生徒が助け合ったり役割を果たしたりする活動の設定

【小学校】

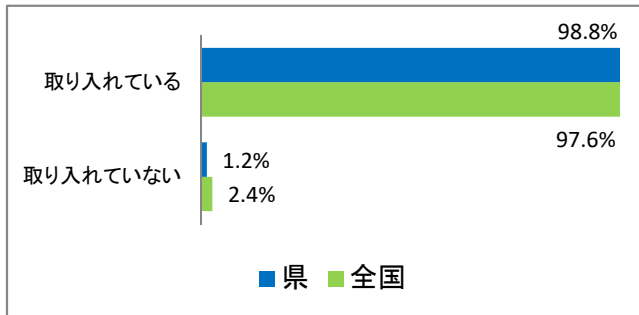


【中学校】

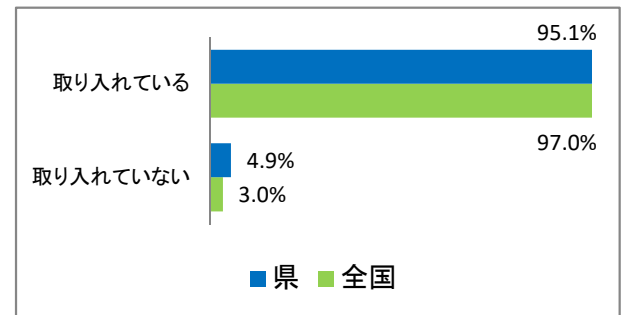


(8) 体育・保健体育授業で、児童生徒が話し合う活動の設定

【小学校】

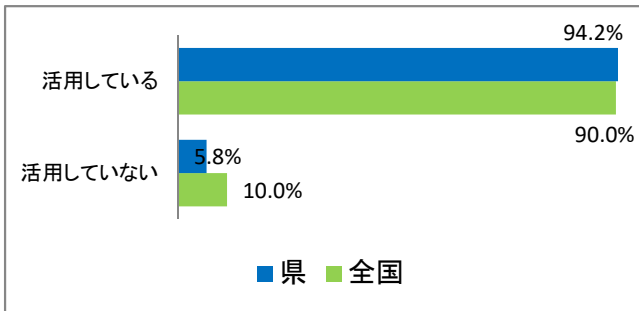


【中学校】

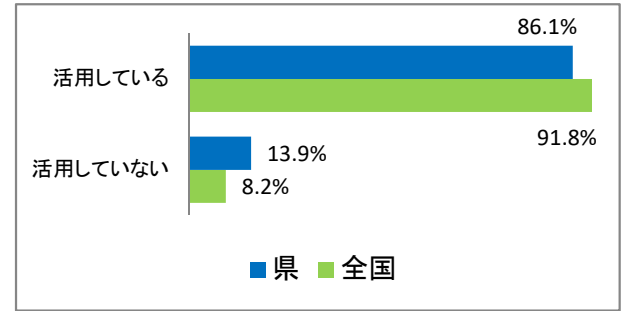


(9) 体育・保健体育授業でのICTの活用

【小学校】



【中学校】



〈現状及び考察〉

○ 体育・保健体育の授業において、小中学校ともに児童生徒が助け合ったり役割を果たしたりする活動を「いつも取り入れている」と回答した割合は、全国平均と比較して低く、「だいたい取り入れている」と回答した割合は、全国平均と比較して高い状況である。

○ 授業で児童生徒が話し合う活動を「取り入れている」と回答した割合は、小中学校ともに全国平均と同様に高い状況である。

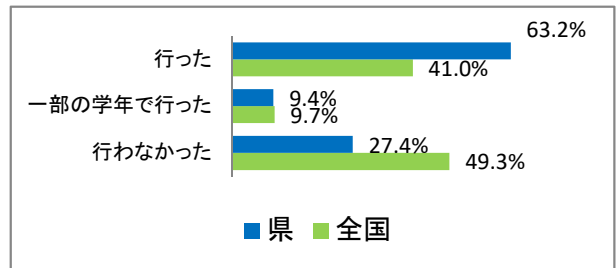
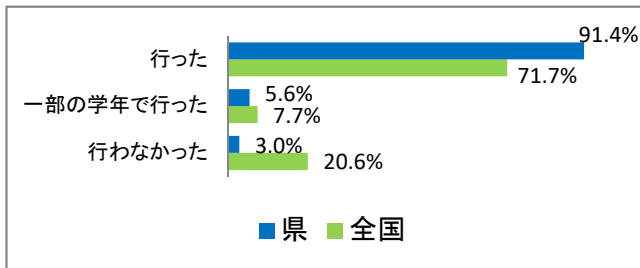
※ 特に小学校では、一部の学年で取り入れている状況が多く見られるが、話し合いの目的を明確にした授業づくりや発達の段階に応じた話し合いの仕方の指導を行い、児童が主体的・対話的で深い学びを通して、身に付けるべき内容を習得し、課題解決を図る工夫を推進していく必要がある。

○ 授業において、ICTを「活用している」と回答した学校の割合は、小中学校ともに全国平均と同様に高い状況である。

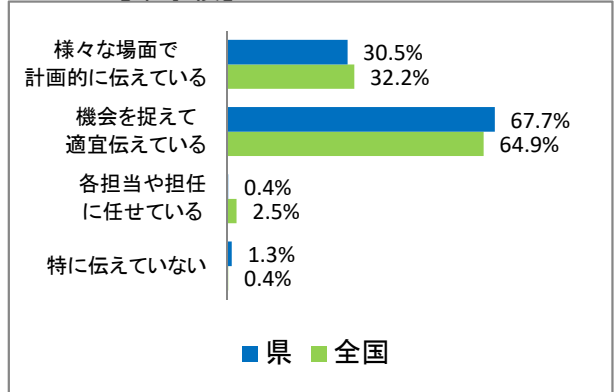
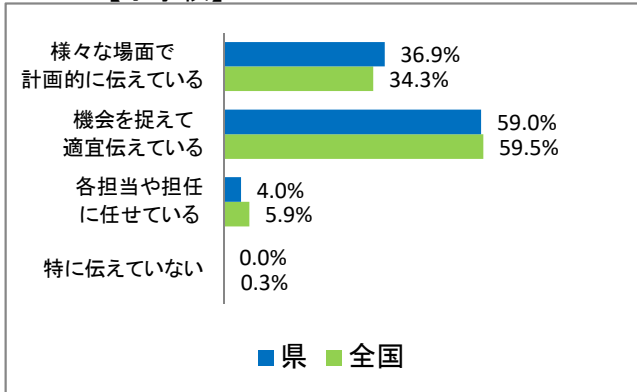
※ 教科指導におけるICTの活用の必要性については、新学習指導要領においても総則や解説(体育編)にも記載されている。ICTを効果的に活用し、指導方法の改善を図り、児童生徒の学習内容の習得へつなげていく授業改善が求められる。その際、ICTを活用する目的や効果的な活用場面等について、整理しておくことが重要である。

【活用例】 ・動きを撮影 ・ゲームや試合の様子を撮影 ・以前に撮影した動きと比較  
・毎時間の記録など

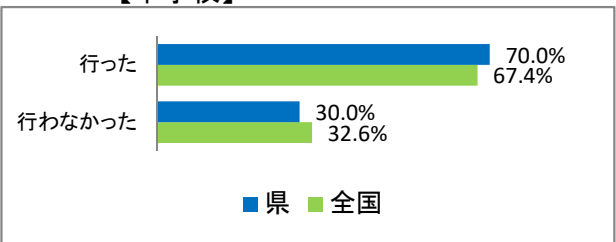
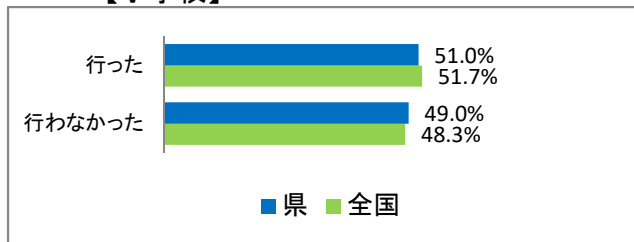
(10) 令和2年度における体育、保健体育の授業以外での体力・運動能力の向上に係る取組  
 【小学校】 【中学校】



(11) 健康三原則(運動、食事、休養及び睡眠)の大切さについての児童生徒への伝達  
 【小学校】 【中学校】



(12) 令和2年度におけるオリンピック・パラリンピック教育に係る取組  
 【小学校】 【中学校】



〈現状及び考察〉

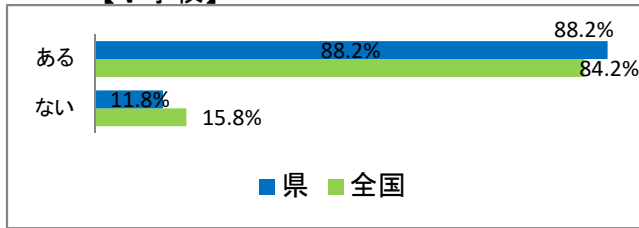
- 令和2年度における体育、保健体育の授業以外での体力・運動能力の向上に係る取組について「行った」と回答した割合は、小中学校ともに全国平均と比較して高い状況である。
- 健康三原則の大切さを「様々な場面で計画的に伝えている」と回答した割合を全国平均と比較すると、小学校は高く、中学校はわずかに低い状況である。
- ※ 健康の保持増進には、1日の生活の仕方が深く関わっており、運動、食事、休養及び睡眠を取ることが必要であるということについて、保健の授業だけでなく、教育活動全体を通して児童生徒に指導することが重要である。
- 令和2年度に「オリンピック・パラリンピック」教育に関する取組を「行った」と回答した割合は、全国平均と比較して小学校はほとんど差がなく、中学校は高い状況である。
- ※ 新学習指導要領において、改善の具体的事項として、「オリンピック・パラリンピックに関する指導の充実」が新たに明記されている。本県においても、今年度まで推進してきた「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」における推進校の実践等を、今後は各地区内で広げ、それぞれの実態に応じて推進を図っていくことが望まれる。



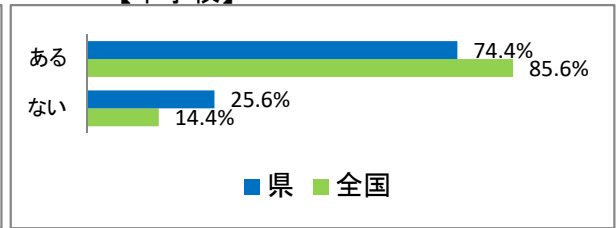
(13) 教員同士による児童の体力・運動能力の向上に関する取組

授業方法の工夫・改善に向けた検討の機会

【小学校】

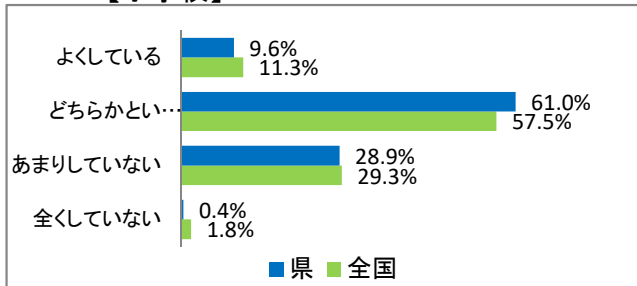


【中学校】

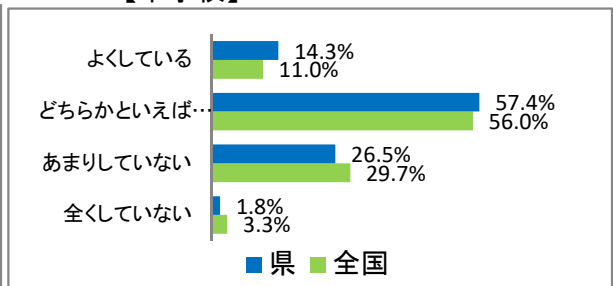


(14) 体力向上に対する校内外の研修や研修会に参加し、自校の取組に反映

【小学校】

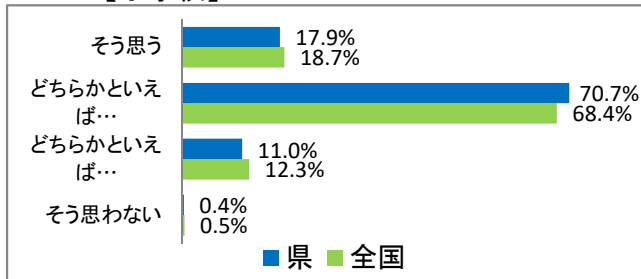


【中学校】

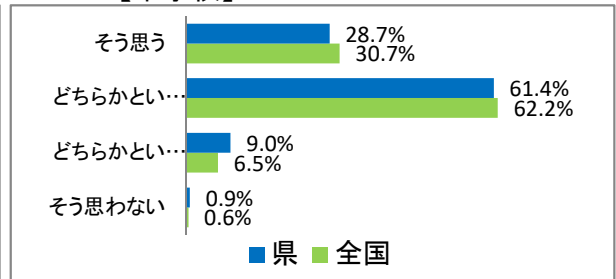


(15) 児童生徒の体力向上に関する教師の意識は高いと思うか。

【小学校】

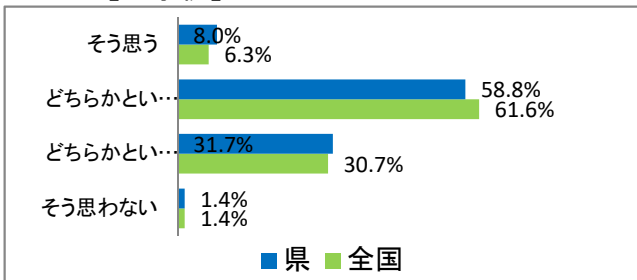


【中学校】

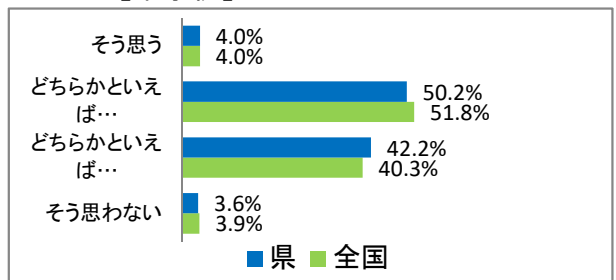


(16) 児童生徒の体力向上に関する家庭の関心は高いと思うか。

【小学校】



【中学校】



〈現状及び考察〉

- 教員同士で児童生徒の体力向上や指導法改善について検討する機会が「ある」と回答した割合は、全国平均と比較して小学校が高く、中学校が低い状況である。
- 体力向上に対する校内外の研修や研修会へ参加し、自校の取組に「よく反映している」と回答した割合は、全国平均と比較して小学校がわずかに低く、中学校が高い状況である。
- ※ 特に小学校では、校外の研修会等に参加した後に、校内で報告する機会を設定するなど、情報を共有する場を設定し、全校体制で推進する必要がある。
- 児童生徒の体力向上に関する教師の意識が「高いと思う」と回答した割合は、全国平均と比較して小学校はほとんど差がなく、中学校は低い状況である。
- 児童生徒の体力向上に関する家庭の関心が「高いと思う」と回答した割合は、全国平均と比較して小学校はわずかに高く、中学校は差がない状況である。
- ※ 学校のホームページ等で児童生徒の体力の現状や学校の取組を発信したり、地域スポーツ人材を活用したりして、保護者や地域と一体となった取組を推進することが望まれる。

## 8 全体考察

### 《今後の方向性》

新学習指導要領の趣旨を踏まえ、小学校、中学校、高等学校を通じて、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現・継続する資質・能力を育成することを重視する観点から、児童生徒に「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を育成する取組を具体的に進める。

体力向上に関しては、その核となるのは、体育・保健体育の授業の充実である。そのために、次のポイントに留意する必要がある。

- 柔軟性を高める運動を取り入れた準備運動、補助運動
- 3つの資質・能力の育成と指導内容の明確化
- 授業改善（「カリキュラム・マネジメント」及び「主体的・対話的で深い学び」の実現）
- 「個に応じた指導」の一層の充実
- 運動の特性に応じた楽しさを味わうことができる場面の保証

また、本県の子どもは、運動への興味・関心や体育・保健体育の授業に対する意識が高いことから、学校において、教師が児童生徒の実態を真剣に受け止め、運動好きな子どもを育てるために、具体的には、次のような授業を目指して、改善を進めていきたい。

#### ＜運動好きな子どもを育てる授業を目指して（一単位時間の具体例）＞

- 1 本時のめあて（全体・個人）を確認させる。
- 2 問題解決的な学習を展開する。
- 3 学習過程（流れ）を明確にし、活動の見通しをもたせる。
- 4 個人（チーム）の課題を解決する場や仲間と教え合ったり、話し合ったりする場を意図的に設定する。
- 5 教具（ICT機器含む）の活用や発問の工夫を行い、「分かった」「できた」などの経験をさせ、運動することや学ぶことの楽しさ、喜びを味わわせる。
- 6 本時のめあてに対する振り返りをする。
- 7 振り返りを通して、自分（チーム）の技能や思考・判断面で伸びを実感させ、達成感につなげる。

このような授業を通して、全ての子どもが、楽しく、安心して運動に取り組むことができるようにし、その結果として体力の向上につながる指導の在り方について改善を図るとともに、自己の適性に応じて「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付けることで「運動好きな子ども」を育てることを目指す。

また、体育・健康に関する指導については、子どもの発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うことにより、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した指導の充実を図る。

さらに、子どもの体力向上に関して、家庭への啓発を行い、理解と協力を求めたり、関係機関と連携し、外部指導者を活用したりするなど、学校・家庭・地域が連携し、一体となった取組を推進する。

子どもが運動の特性に触れ、楽しさや喜びを味わうことができる授業を目指しましょう！



## 《今後の方向性》

### ◆ 学校の組織的な取組の推進を支援

- 各学校における「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進プランの作成, 活用
- 全国体力・運動能力, 運動習慣等調査結果の分析と活用促進
- 体力ナビの積極的活用と児童生徒一人一人への体力カードの作成
- 運動大好き“かごしまっ子”育成推進校(小中高)による実践的取組の紹介
- 「新体力テストで児童生徒のもっている力を引き出す指導のポイント(改訂版)」の活用促進
- 小・中・高等学校版「体力アップ! チャレンジかごしま」の継続実施(工夫・改善)
- 体力づくり「一校一運動」の推進

### ◆ 運動大好き“かごしまっ子”育成に向けた運動の楽しさを追求した授業, 体育指導の工夫改善の支援

- 小・中・義務教育学校体育主任等研修会
- 「運動好きな子どもを育てる」指導者研修会の実施
- 小学校教諭等体育セミナーの開催
- 保健・保健体育担当者研修会
- 武道・ダンス指導者研修会
- 中学校柔道授業における安全に関する指導者研修会
- 新任幼稚園教諭への「幼児期運動指針」についての研修
- 運動大好き“かごしまっ子”育成推進校(小学校4校, 中学校3校, 高等学校1校)による実践的研究及び第1期推進校(小学校2校, 中学校2校)による研究公開
- 運動大好き“かごしまっ子”育成推進校(小学校4校, 中学校3校, 高等学校1校)への地域スポーツ人材の派遣
- かごしまの子ども体力向上プログラム(小学校版, 中・高等学校版)の活用促進

### ◆ 運動習慣の育成に向け, 学校・家庭・地域が一体となった取組の促進

- 体力の向上, 運動習慣の育成に向けた啓発資料の活用促進  
(これならできる! 「プラス5分運動」)
- 地域スポーツ人材を活用した運動習慣育成教室の実施
- 運動大好き“かごしまっ子”育成推進校(第1期)研究公開による普及啓発
- 体力向上推進フォーラム(「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進フォーラム)の開催
- 関係機関と連携したイベント

## 更なる充実に向けて

体力向上のための推進期間を設定しましょう(月間・週間・曜日等)。

### <期間設定の例>

- 1 名称 「運動大好き“○○○っ子”」推進(月間・週間), チャレンジウイーク 等
- 2 期間 ・学期○回 ・月○回 ・週○回 等
- 3 設定の仕方
  - (1) 学校行事と関連付けて, その前後に設定する。(月間)
  - (2) 業間と関連付けて, 年間を通して設定する。(曜日)
  - (3) 学校・家庭・地域と連携して設定する。(週間)
- 4 留意事項
  - (1) 体力向上に向けて学校全体で取り組む。
  - (2) 内容は, 一校一運動や体力・運動能力, 運動習慣等調査結果等を考慮する。
  - (3) 「運動大好き“かごしまっ子”育成推進プラン」に内容や期間等を記入する。



## 9 改善のポイント

県教育振興基本計画における数値目標(体力合計点)

		2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
小5男子	県	53.23	52.57	感 新 染 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス の 影 響 に よ り 中 止	51.85	⇒	全 国 平 均 を 上 回 る
	全国	54.21	53.61		52.52	⇒	
小5女子	県	55.00	54.87		54.34	⇒	
	全国	55.90	55.59		54.64	⇒	
中2男子	県	40.88	40.32		40.27	⇒	
	全国	42.32	41.69		41.18	⇒	
中2女子	県	49.40	49.03		48.13	⇒	
	全国	50.61	50.22		48.56	⇒	

運動大好き“かごしまっ子”育成に向けた学校における  
体力向上, 運動習慣改善のPDCAサイクル

### Plan

- 1 児童生徒の体力・運動能力向上, 運動習慣, 授業改善に向けた目標の設定
- 2 体力づくり全体計画や「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進プランの作成
- 3 学校の実態や体力課題に即した「一校一運動」の推進計画
- 4 児童生徒や家庭の実態に即した「一家庭一運動」の周知・啓発と実施

【課題1】 体力合計点が全国平均に達していない  
【課題2】 1週間の総運動時間が3回連続で減少している。

### Action

- 1 体力づくり全体計画や「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進プランの改善
- 2 体力向上, 運動習慣改善に効果をあげた取組と今後の対策検討
- 3 家庭への児童生徒の体力, 運動習慣の結果報告による説明責任

### Check

- 1 新体力テスト, 体力・運動能力調査等の結果と考察
- 2 「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進プランの活用
- 3 体力向上, 運動習慣改善に効果をあげた取組と今後の対策についての検討

### Do

- 体力づくり全体計画に基づくPDCAサイクルの確実な推進
  - (1) 「楽しい体育・保健体育」の授業充実
    - すべての児童生徒が楽しく, 安心して運動に取り組むことができる授業
    - 授業における目標の提示・確実なまとめの実施
    - 「主体的・対話的で深い学び」による授業の展開
    - 職員研修や研究授業による指導力の向上
  - (2) 新体力テストの実施
    - 実施目的, 測定方法等の共通理解
    - 児童生徒に目標をもたせる事前指導の充実
    - 「体力ナビ」活用による意欲喚起
  - (3) 「一校一運動」, 業間体育等の工夫による運動機会の確保
  - (4) 運動に消極的な児童生徒を支援する運動習慣育成教室の推進
  - (5) 「体力アップ! チャレンジかごしま」への取組
  - (6) 部活動の充実
  - (7) 家庭と協力した運動・生活習慣の改善
    - 土日の運動時間の確保
  - (8) 家庭への体力向上に関する啓発
    - これならできる! 「プラス5分運動」リーフレット配布と活用促進

# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

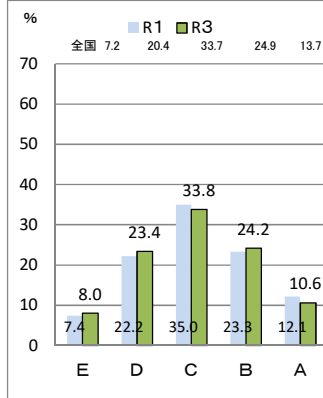
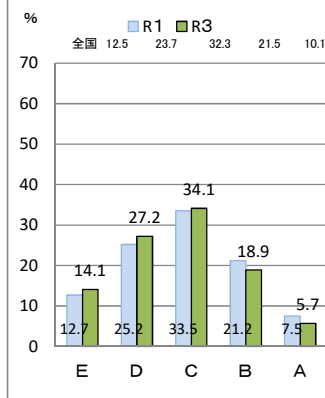
鹿児島市 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

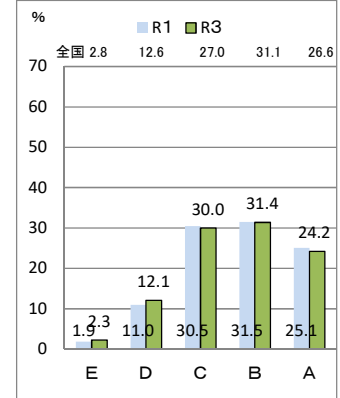
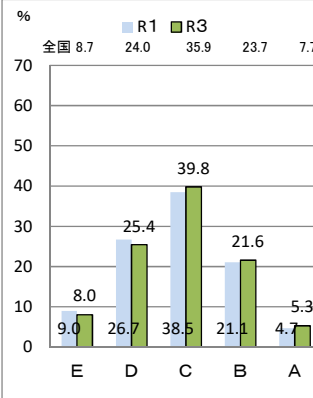
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

### 〈現状及び課題〉

- ・全国平均と比較して、男子はA+Bの割合が低く、D+Eの割合が高くなっており、女子はA+Bの割合がやや低く、D+Eの割合がやや高くなっており、D・Eの下位層の底上げが課題である。
- ・R1年度と比較すると、男子はA+Bの割合が減少し、D+Eの割合が増加したことから下降傾向にある。女子はA+B、D+Eともに同じであった。
- ・男女とも、運動への興味・関心を高めるとともに、体力の向上を図る取組が必要である。

### 〈現状及び課題〉

- ・全国平均と比較して、男女とも、A+Bの割合がやや低く、D+Eの割合がほぼ同じであり、Cの中間層を引き上げることが必要である。
- ・R1年度と比較すると、男子はA+Bの割合がほぼ同じで、D+Eの割合がやや減少している。女子はA+B、D+Eともに同じであった。
- ・男女とも、運動への興味・関心を高めるとともに、体力の向上を図る取組が必要である。

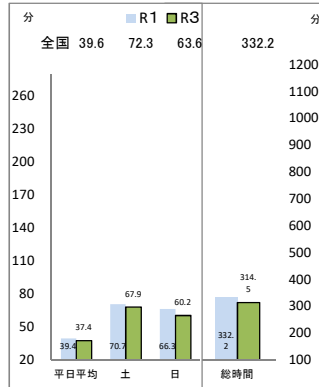
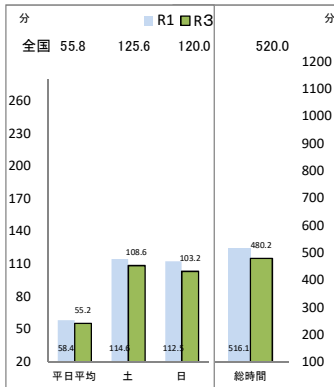
## 【小学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。

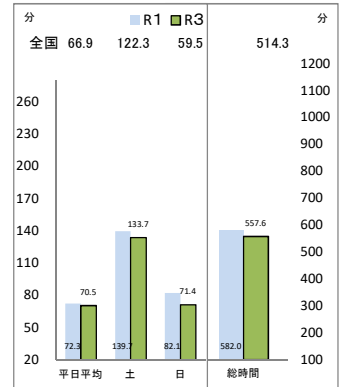
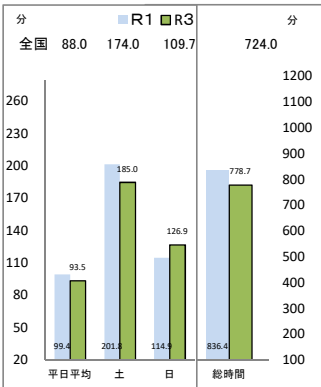


## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

### 〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間については、全国平均の比較において、男子は短く、女子はほとんど差がない。
- ・平日及び土日については、全国平均との比較において、平日はあまり差はないものの、男子は土日の運動時間が短い。
- ・R1年度との比較では、1週間の総運動時間が男子は短く、女子はほとんど差がない。

### 〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間については、全国平均との比較において、男女ともに長い。
- ・平日及び土日については、全国平均との比較において、男女とも平日はほとんど差がないが、土日は男女ともに長い。
- ・R1年度との比較では、1週間の総運動時間が男子は短く、女子はわずかに短い。

## 【改善策】

### 【小学校】

- ・全国平均と比較して、男子は総運動時間が短く、男女とも体力総合評価の上位層が少なく、下位層が多いため、「一校一運動」や「チャレンジかごしま」等での運動する機会を増やし、運動量の増加を図る。

### 【中学校】

- ・「チャレンジかごしま」への取組を推奨し、更なる運動機会の増加を図る。

### 【共通】

- ・研究授業を通して授業改善を行い、「運動好きな子供」の育成を図り、結果として運動の習慣化、体力の向上を図る。
- ・本市が行う「ちよトレ運動」への取組を推奨し、内容や成果の共有を行い、各学校において改善を図る。

# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

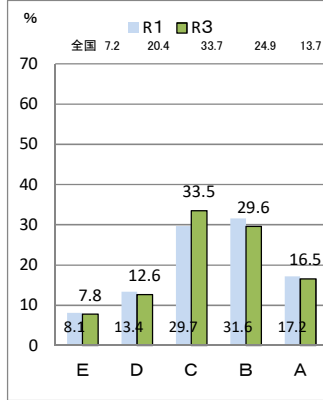
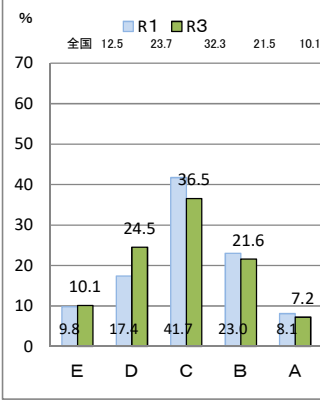
日置市 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

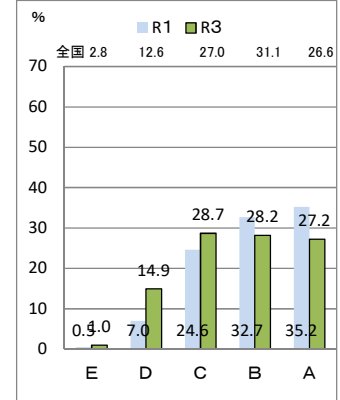
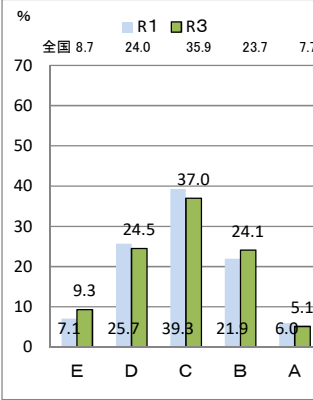
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

### 〈現状及び課題〉

- ・男子は、Cの割合が5.2ポイント低下し、Dの割合が、7.1ポイント上昇した。
- ・女子は、全体的に昨年度とほぼ変わらない状況である。
- ・特に男子は、C、Dの児童の体力及び運動への興味・関心を高め、B、Aへ引き上げる取組が必要である。

### 〈現状及び課題〉

- ・男子は、Bの割合が微増したが、全体的には昨年度より低下傾向である。全体的に生徒の体力及び運動への興味・関心を高め、引き上げていく取組が必要である。
- ・女子は、A、Bの割合が低下し、C、Dの割合が上昇した。特にCの生徒の体力及び運動への興味・関心を高め、B、Aへと引き上げる取組が必要である。

## 【小学校 運動実施時間】

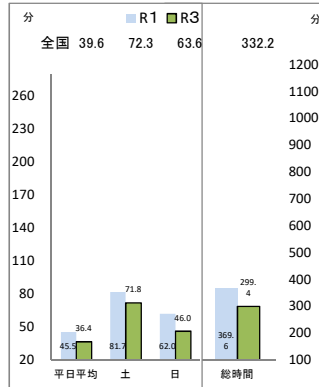
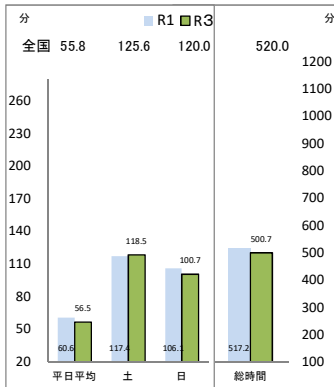
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。



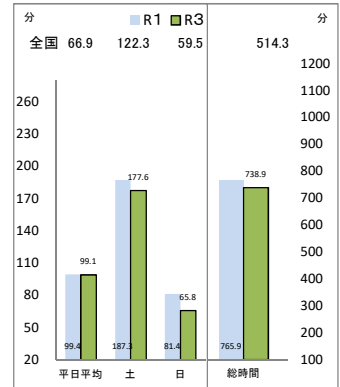
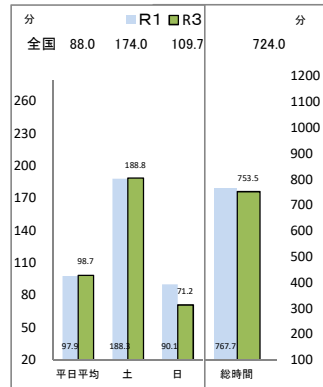
## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

### 〈現状及び課題〉

- ・男子は、昨年度より土曜日は微増しているが、平日、日曜日ともに減少している。
- ・女子は、昨年度より平日、土日ともに大幅に減少している。小学生期からの運動時間の確保が、中学生期以降に与える影響が大きいことを認識させ、家庭と連携して呼びかける等の取組が必要である。

### 〈現状及び課題〉

- ・男子は、昨年度より日曜日は大幅に減少しているが、平日、土曜日ともに微増している。
- ・女子は、平日はあまり変化がないが、土日ともに大幅に減少している。
- ・部活動では、短時間で効率的な練習が実施されるよう啓発していく必要がある。また運動部活動生以外に対する呼びかけも重要である。

## 【改善策】

- 【小学校】・児童の運動時間の確保。運動の習慣化に向けた家庭との連携。
- 【中学校】・体育授業の指導法改善。運動部活動生以外への運動時間確保の啓発。

### 【共通・その他】

- ・「チェスト行けひおきっ子Ⅱ」事業(小中一貫教育による体力向上)による、9年間を見据えた体力向上策の策定
- ・「一校一運動」の工夫・改善及び継続的な実践
- ・体力ナビによる児童生徒の体力面の課題の自覚化を図る取組の推進

# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

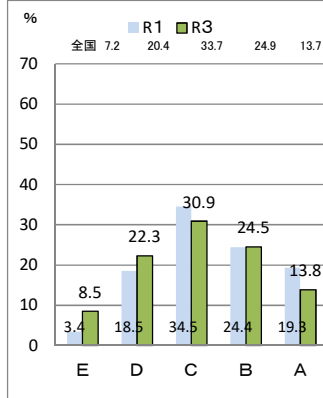
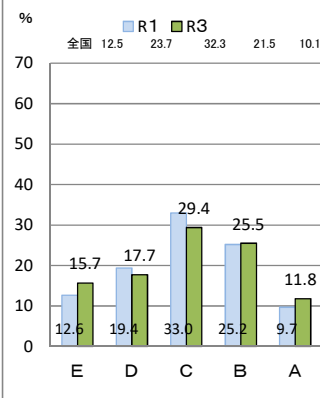
いちき串木野市教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

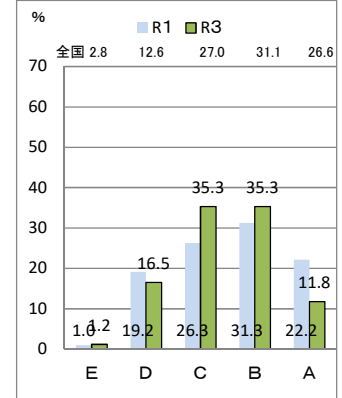
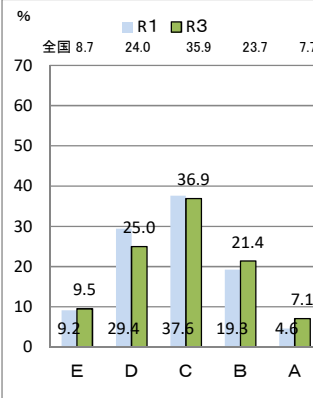
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

### 〈現状及び課題〉

- 男子はEの割合が3.2ポイント増加し、Aの割合も2.1ポイント増加している。
- 女子はEの割合が5.1ポイント増加し、Aの割合は5.5ポイント減少している。
- 男女とも、E、D、Cの児童の体力及び運動への興味・関心を高め、B、Aへ引き上げる取組が必要である。

### 〈現状及び課題〉

- 男子はAの割合が2.5ポイント、Bの割合が2.1ポイント増加するとともに、Dの割合が4.4ポイント減少し、体力の向上が伺える。しかし、Aの割合が少ないため、Cの生徒をB、Aへ引き上げる取組が必要である。
- 女子はAの割合が10.4ポイント減少し、Bの割合が4ポイント、Cの割合が9ポイント増加している。Cの生徒の体力及び運動への興味・関心を高めるとともに、Cの生徒をB、Aに引き上げる取組が必要である。

## 【小学校 運動実施時間】

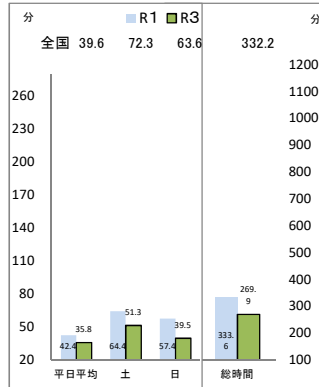
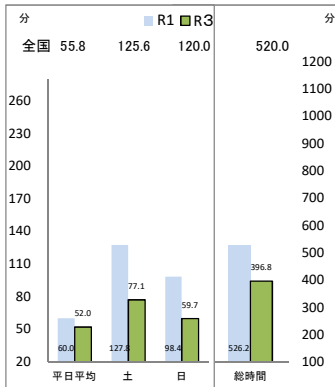
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。



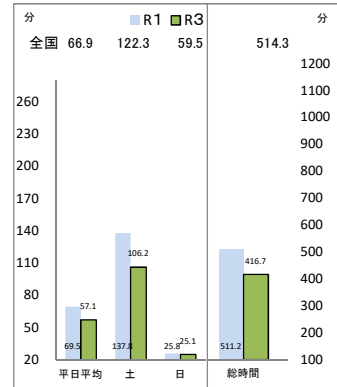
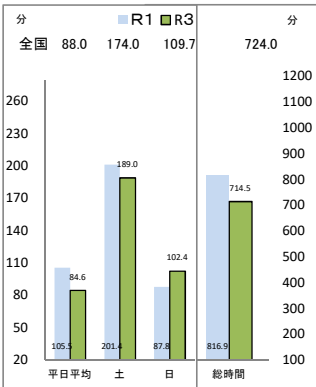
## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

### 〈現状及び課題〉

- R1年度と比較すると、男女ともに平日や土日の運動実施時間が短くなっている。
- 全国平均と比較すると、男女ともに平日や土日の運動実施時間が短く、特に男子の総運動時間は123.2分も差がある。

### 〈現状及び課題〉

- R1年度と比較すると、男子の日曜日の運動時間を除き、男女ともに平日や土日の運動実施時間が短くなっている。
- 全国平均と比較すると、男子については土曜日の運動時間が長く、土曜日以外の運動時間もほとんど差はないが、女子については全ての運動時間が短く、総運動時間も97.6分の差がある。

## 【改善策】

- 学校に対し、一単位時間の授業において、児童生徒の運動実施時間を確保し、運動好きな児童生徒を目指した授業を展開するとともに、授業で取り扱う補助運動等に家庭でも取り組めるような手立てを講じるよう指導する。
- 児童生徒の運動実施時間を増加させるために、体育主任研修会や管理職研修会において、休日における運動やスポーツを促す具体的資料を活用するなど、児童生徒の自主的・主体的な体力づくりにつながるよう指導する。
- 各学校のPTAや家庭教育学級において、本調査の結果(市と国の運動実施時間等)に基づいた各学校の体力・運動能力の課題や課題解決に向けた取組を共有し、家庭との連携を図ることができるよう促す。

# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

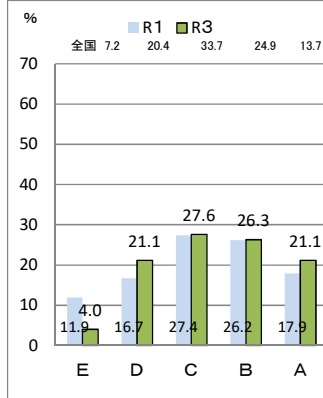
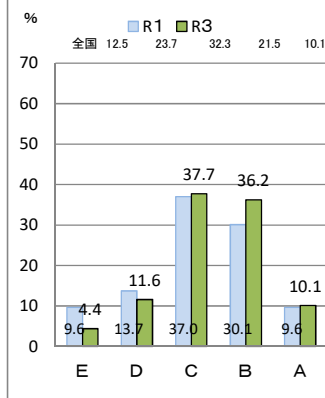
枕崎市 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

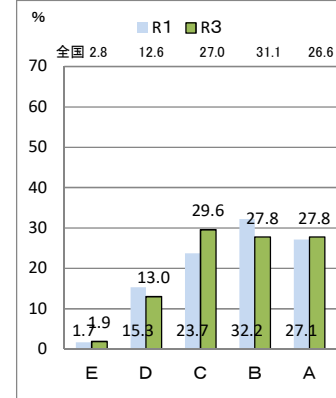
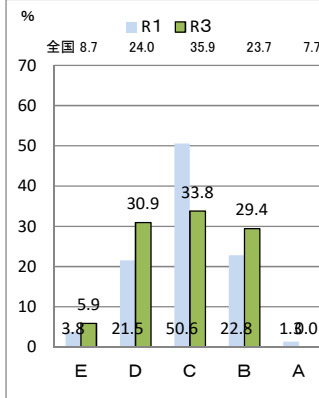
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

### 〈現状及び課題〉

- 男子は、全国比で、A・Bの割合が高く、D・Eの割合が低い傾向にあり、全体的に運動能力は高い結果となった。令和元年度の本市の結果と比較すると、全体的に運動能力は向上している。
- 女子は、全国と比較して、Aの児童の割合が7.4ポイント高く、Eの割合が3.2ポイント低い。男子同様全体的に運動能力は高い結果となった。令和元年度の本市の結果と比較すると、Eの児童が減り、上位層に人数が増える形となった。
- 女子は、特にDの児童の割合を減少させる取組が必要である。

### 〈現状及び課題〉

- 男子は、Aの児童の割合が0ポイントで、Bの割合が高い結果となった。Eの割合は2.8ポイント低いDの割合が6.9ポイント高い。令和元年度の本市の結果と比較すると、全体的に運動能力は中位層に集中している。
- 女子は、全国と比較して、Aの児童の割合が、1.2ポイント高く、Eの割合も0.9ポイント低い。令和元年度と比較しても、下位の児童が減り、上位の人数が増える形となった。
- 男子は、DEの児童の割合を減少させる取組が必要である。

## 【小学校 運動実施時間】

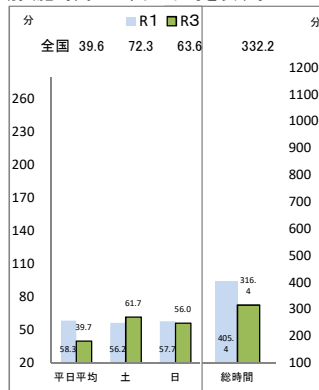
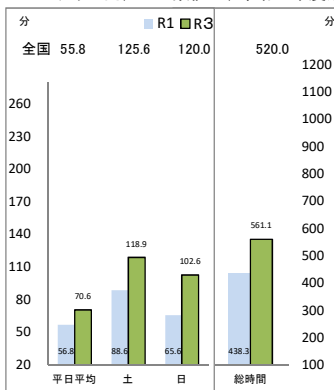
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。



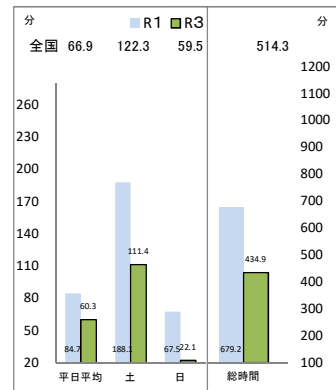
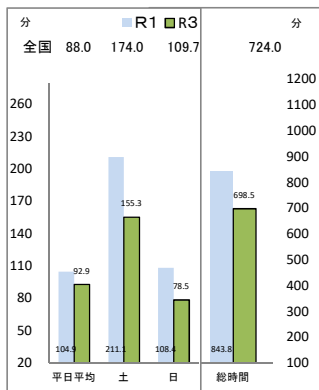
## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

### 〈現状及び課題〉

- 男子は1週間の総運動時間が、全国より長く、女子は短い。
- 平日の運動時間の平均は、男子は全国より長く、女子は短い。
- 土日の運動時間は、男女とも全国より短い。
- 平日の運動時間は、市の前回調査の令和元年度と比較すると、男子は長く、女子は短い。土日の運動時間も、同様の結果となった。

### 〈現状及び課題〉

- 1週間の総運動時間は、男女ともに全国よりも短い。
- 平日の運動時間は、男子は全国より長く、女子は短い。
- 土曜日の運動時間は男女ともに全国よりも短い。
- 令和元年度と比較すると、平日、休日の運動時間は、男女ともに短い結果となった。

## 【改善策】

### 【小学校】

- 運動が苦手な子ども積極的に運動に関わることができるような指導法の改善
- 課題解決的な授業の実践及び運動量の確保

### 【中学校】

- 体育学習における運動量の確保や対話的活動の工夫
- 課題となる運動に応じた体力向上の手立て(継続した補強運動, 体育指導等)

### 【共通・その他】

- 児童生徒に運動の楽しさや喜びを味わわせるような、指導法の工夫(授業力向上, 場の設定, 効果的なICTの活用, 教科部会の充実化等)
- 「体力アップ! チャレンジかごしま」への継続的な取組(小・中とも全学級申告, 複数種目挑戦, 実施する時間や場の工夫等)



# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

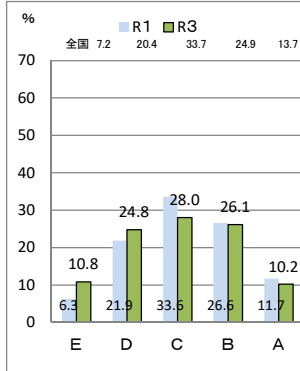
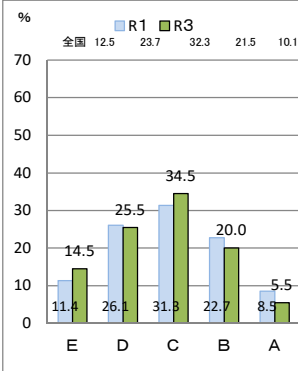
指宿市 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

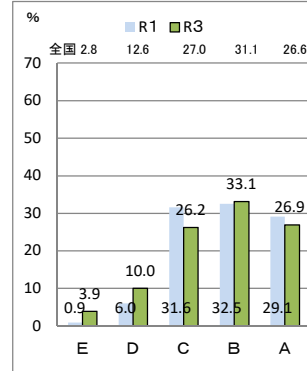
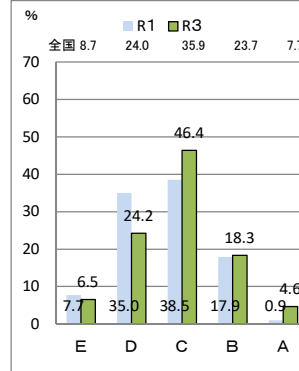
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男子は、Cの割合が3.2ポイント、Eの割合が3.1ポイント増加し、Aの割合が3.0ポイント、Bの割合が2.7ポイント、Dの割合が0.6ポイント減少している。
- ・女子は、Dの割合が2.9ポイント、Eの割合が4.5ポイント増加し、Aの割合が1.5ポイント、Bの割合が0.4ポイント、Cの割合が5.6ポイント減少している。
- ・全国と比較して、Aの割合が男子は4.6ポイント、女子は3.5ポイント低く、課題である。児童の体力及び運動への興味・関心を高め、男女とも、E、D、Cの児童をB、Aへ引き上げる取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、Aの割合が3.7ポイント、Bの割合が0.4ポイント、Cの割合が7.9ポイント増加し、Dの割合が10.8ポイント、Eの割合が1.2ポイント減少している。
- ・女子は、Bの割合が0.6ポイント、Dの割合が4.0ポイント、Eの割合が3.0ポイント増加し、Aの割合が2.2ポイント、Cの割合が5.4ポイント減少している。
- ・全国と比較して、男子はAの割合が3.1ポイント、Bの割合が5.4ポイント低い。女子はAの割合が0.3ポイント、Eの割合が1.1ポイント高い。生徒の体力及び運動への興味・関心を高め、特に男子は、Cの生徒をB、Aへ引き上げる取組が必要である。

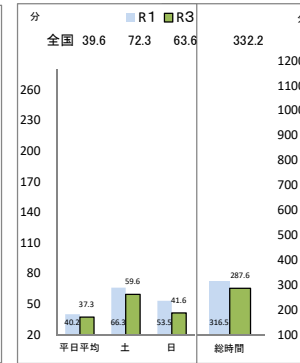
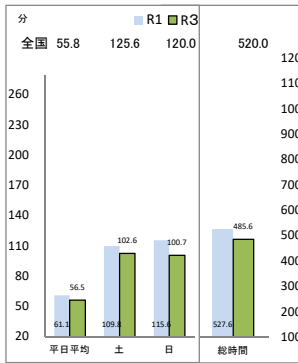
## 【小学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。

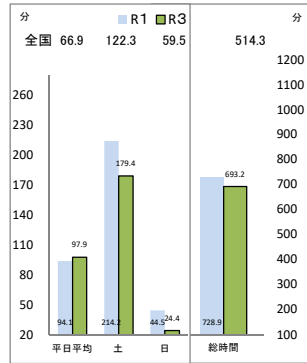
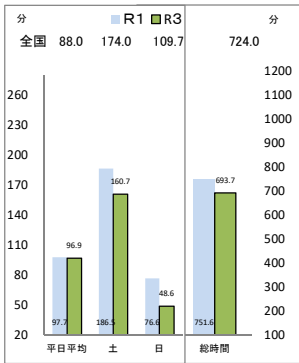


## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜~金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国と比較すると、男子が「34分短い」、女子が「44分短い」結果であった。
- ・平日は、全国平均と比較して男女とも大きな差は見られない。
- ・土・日曜日は、男子において、全国平均より土曜日で約23分、日曜日で約19分短い。女子においては、土曜日で約12分、日曜日で約22分短い。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国と比較すると、男子が「30分短い」、女子が「178分長い」結果であった。
- ・平日は、全国平均と比較して男子は9分、女子は31分長い。
- ・土・日曜日は、男子において、全国平均より土曜日で約13分、日曜日で約61分短い。女子においては、土曜日で約57分長く、日曜日で約35分短い。

## 【改善策】

【小学校】

・体づくり運動タイムの設定による、児童の運動実施時間の確保

【共通・その他】

・市教委作成「運動好きな子供を育てる授業ポイント」の周知、実践

・小中一貫教育を通じた体力向上(専門性を生かした授業実践) ・副読本や学習カード等を活用し、ねらいや目標を明確にした授業実践の促進

・市教委「体育実技授業」及び「指導法研修会」の実施

・運動大好き「かごしまっ子」育成推進プランの定期的な点検・修正による推進プランの促進(結果を検証し対策について話し合う研修の場)

・「チャレンジかごしま」への積極的取組の推進(敏捷性を高める運動等)

【中学校】

・体育実技講習会等への積極的参加の促進

# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

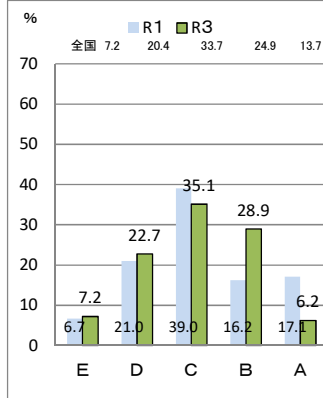
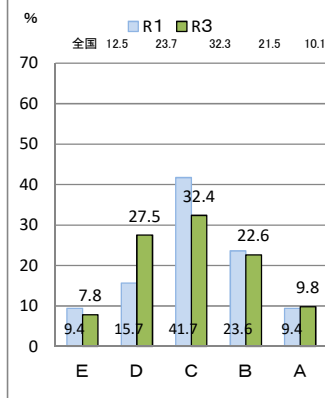
南さつま市 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

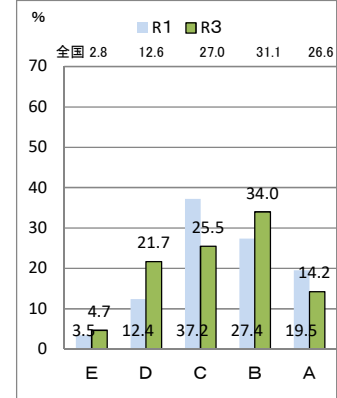
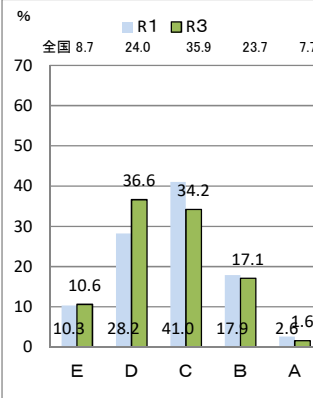
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

### 〈現状及び課題〉

- 男子は、Cの割合が9.3ポイント減少し、Dの割合が11.8ポイント増加している。
- 女子は、Aの割合が10.9ポイント、Cの割合が3.9ポイント減少し、Bの割合が12.7ポイント増加している。
- 男女とも、前年と比較すると、体力が低下している。
- 今後は、E、Dの児童の体力及び運動への興味・関心を高め、BやAへ引き上げる取組が必要である。

### 〈現状及び課題〉

- 男子は、Cの割合が6.8ポイント減少し、Dの割合が8.4ポイント増加している。
- 女子は、Aの割合が5.3ポイント、Cの割合が11.7ポイント減少し、Bの割合が6.6ポイント、Dの割合が9.3ポイント増加している。
- 男女とも、前年度と比較すると体力が低下している。
- 今後は、E、Dの生徒の体力及び運動への興味・関心を高め、BやAへ引き上げる取組が必要である。

## 【小学校 運動実施時間】

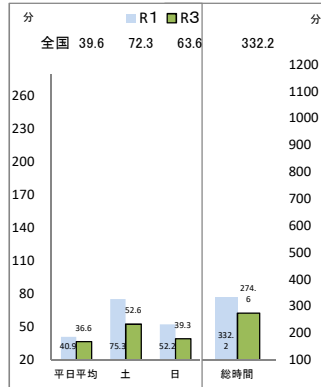
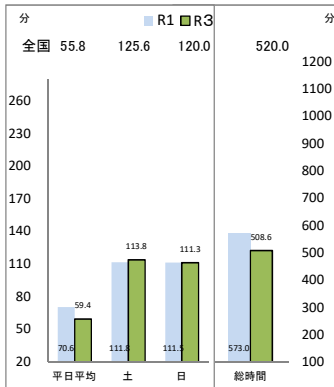
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

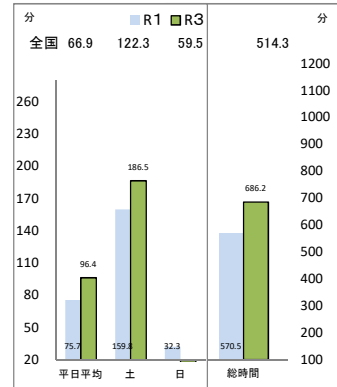
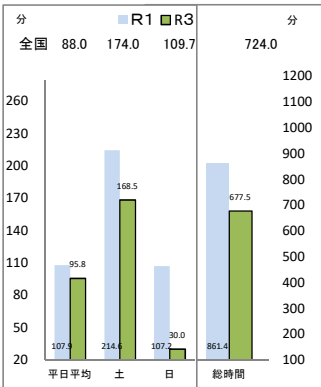
## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

### 〈現状及び課題〉

- 男子は、平日と土日はほとんど差がないが、総時間が64.4分短くなっている。
- 女子は、平日と日曜はほとんど差がないが、土曜は22.7分とわずかに短く、総時間は、57.6分短くなっている。
- 男女とも、全国より運動実施時間は下回っている。

### 〈現状及び課題〉

- 男子は、全ての項目で運動実施時間が短くなっている。総時間は、183.9分短くなっている。
- 女子は、日曜で運動実施時間が減少しているが、平日及び土曜は増加している。総時間も、115.7分増加している。
- 女子は運動時間が前年度を上回っているが、男子は下回っている。

## 【改善策】

### 【小学校】

- 小学校・義務教育学校前期課程において「チャレンジかごしま」を活用し、運動の日常化への取組を工夫する。

### 【中学校】

- 中学校・義務教育学校後期課程において、運動部活動の指導の工夫改善を図ったり運動部活動に所属していない生徒の運動実施時間を増やす取組を進める。

### 【共通・その他】

- 体力ナビ等を活用して、分析等を行い、自校の課題を明確にする。

# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

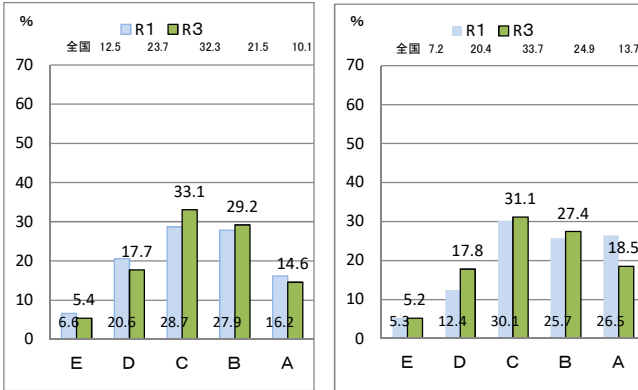
南九州市 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

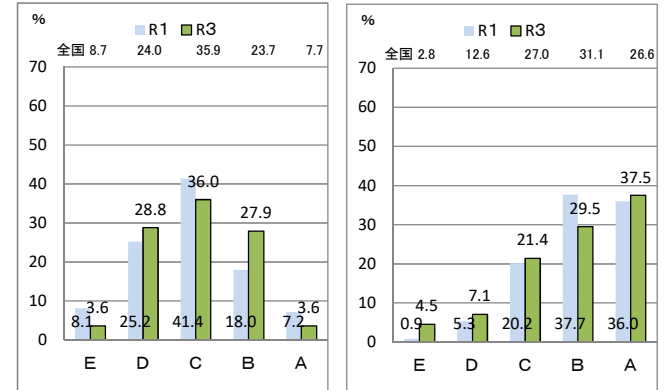
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

### 〈現状及び課題〉

- ・男女ともに、全国平均と比較して、A+Bの割合が高く、D+Eの割合が低くなっており、体力の向上が伺える。
- ・昨年度と比較すると、男子はCが増加し、Dが減少しており、女子はAが減少し、Dが増加しているため、男子は上位層が増加し、女子は上位層が減少しているといえる。
- ・男女とも、下位層の運動への興味・関心を高めるとともに、体力の向上を図る取組を行っていく。

### 〈現状及び課題〉

- ・全国平均と比較して、男子はほぼ同じであり、女子はA+Bの割合が高く、D+Eの割合が低くなっており、女子は更なる体力の向上が伺える。
- ・男子は、20mシャトルラン、持久走、反復横跳びに高い結果を残した一方で、長座体前屈は非常に悪い(女子も同様)。柔軟性に係る継続した取組が不足していると考えられる。
- ・女子は、長座体前屈以外、多くの種目で全国平均を大きく上回った。これは、生徒質問紙の結果を見ると、体育学習の充実が起因しているようである。しかしながら、3中学校に学校差があるため注意が必要である。

## 【小学校 運動実施時間】

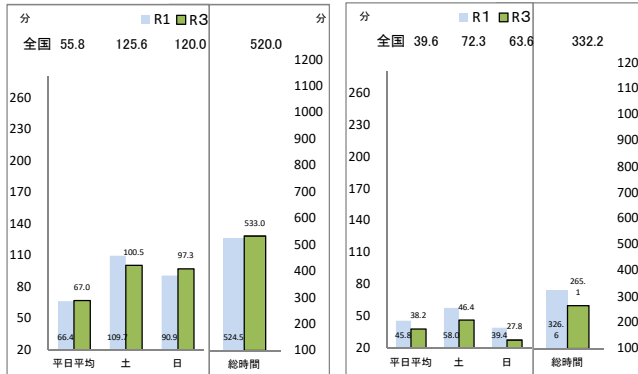
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。



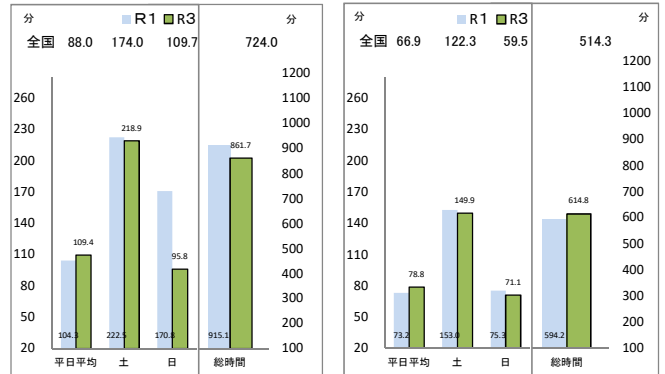
## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜~金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

### 〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間については、全国平均との比較において、男子は長く、女子は短い。
- ・平日及び土日については、全国平均との比較において、平日は男子は長く、女子は短かったが、土日は男女共に短かった。
- ・昨年度との比較では、男子はほぼ同じだったが、女子は総運動時間が減少した。

### 〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間については、全国平均との比較において、男女ともに長い。
- ・平日及び土日については、全国平均との比較において、男子はほぼ同じだったが、女子は全て長かった。女子の体力の向上つなげられていると思われるので、今後も継続的な取組を行いたい。
- ・昨年度との比較では、男子は土日ははじめ総運動時間が減少したが、女子はほぼ同じだった。

## 【改善策】

### 【小学校】

- ・1週間の総運動時間が、男子は長いと女子は短いことから、男女ともに「チャレンジかごしま」や「一校一運動」の取組を推奨するものの、特に女子については、積極的に運動の機会の確保について働きかけるとともに、家庭への運動機会の確保に向けた啓発を図る。

### 【中学校】

- ・男女ともに1週間の総運動時間が長いことから、現在の取組を継続しながら、柔軟性を高める運動を中心とした、継続的な運動機会を意図的に設定する。

### 【共通】

- ・体育授業の準備運動において「課題となる運動の1分間補強運動」を位置付け、確実に実践することにより、各学校において体力・運動能力調査において課題となった運動の改善を図る。体育授業において、体育黒板を使用し、「目標の提示、課題を解決する活動、振り返りの活動」を確実に位置付け、問題解決的な学習が展開されるような授業改善を図る。
- ・本市では、体育学習の充実と運動実施時間が確保されていることが体力向上につながっていると考えられるので、新型コロナウイルス感染症対策を十分に取しながら、一単位時間の授業を始め、家庭の協力も得ながら、学校全体及び、生活全般での運動時間の確保に今後もより一層の取組を行う。



# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

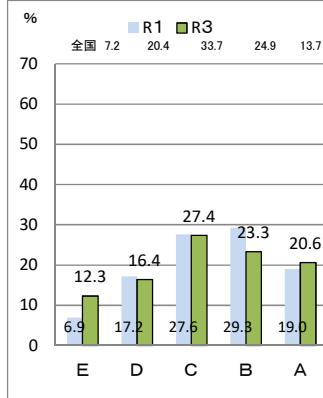
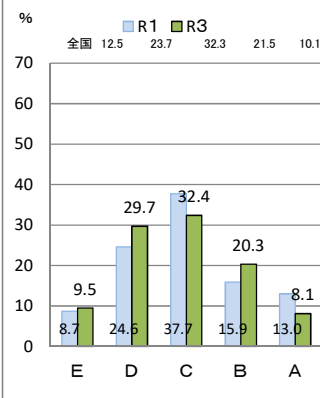
阿久根市 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

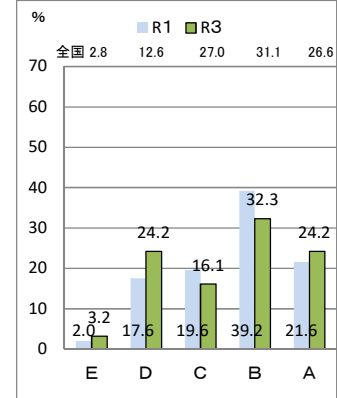
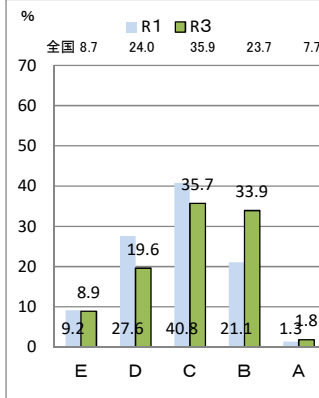
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

### 〈現状及び課題〉

- 男子は、全体的にR1年度よりも下回っている。D、Eの児童の割合が全体の39.2%であり、R1年度から6ポイント増加している。これは、上体起こしと長座体前屈において、全国平均を下回っていることが要因である。
- 女子は、全体的にR1年度よりも下回っている。特に、Eの児童の割合が5.4ポイント増加している。これは、握力、長座体前屈において、全国平均を下回っていることが要因である。

### 〈現状及び課題〉

- 男子は、全体的にR1年度より上回っている。A、Bの生徒の割合が全体の35.7%であり、R1年度から13.3ポイント増加している。これは、全国平均と比較して大きく落ち込んだ種目がなく、20mシャトルランにおいては、全国平均を上回っていることが要因である。
- 女子は、Cの生徒の割合が減少するとともに、A、D、Eの生徒が増加している。このことから、体力・運動能力の二極化が進んでいる。特に長座体前屈と50m走が、全国平均を下回っていることが要因である。

## 【小学校 運動実施時間】

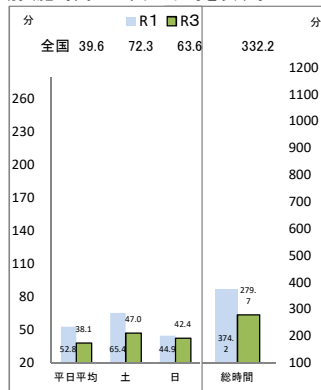
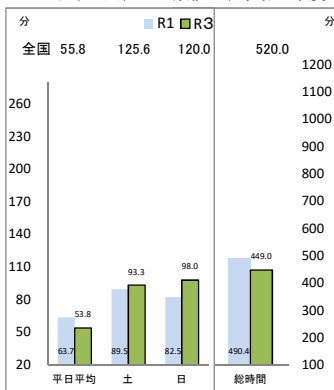
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。



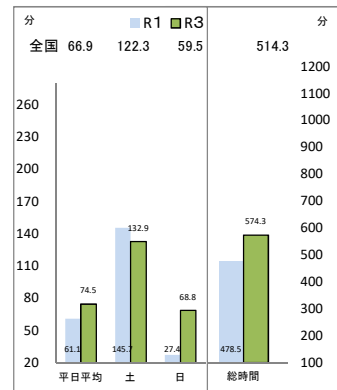
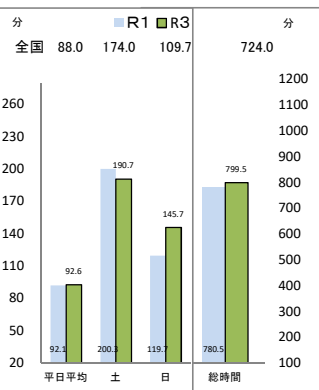
## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

### 〈現状及び課題〉

- 男子は、土日の運動時間がR1年度よりも増加しているが、平日の時間が減少しているため、総時間数はR1年度より減少している。
- 女子は、1週間を通してR1年度よりも運動時間が減少している。
- 全国や県との比較でも、総時間数は、男女ともに大きく下回っており、運動時間の確保に向けた手立てが必要である。

### 〈現状及び課題〉

- 男女ともに、土曜日の運動時間がR1年度より減っているものの、平日と日曜日の運動時間が増えているため、結果的に総時間数は、R1年度より増加している。
- 全国や県との比較でも、総時間数は、男女ともに大きく上回っており、特に、日曜日の運動時間がしっかりと確保されている。

## 【改善策】

### 【小学校】

- 本調査の結果分析を行い、体育の授業を工夫、改善するとともに、児童の一単位時間の運動量を増やす。

### 【中学校】

- 本調査の結果分析を行い、それを基にした保健体育科の指導計画を立てるとともに、計画的に補強運動等で強化を図る。

### 【共通・その他】

- 「チャレンジかごしま」に計画的に取り組むとともに、「運動大好き「かごしまっ子」育成推進プラン」の立案と評価を行う。
- 「筋力」「筋パワー・筋持久力」「柔軟性」等、強化の目的に応じた補強運動を計画し、体育の時間に毎回確実に実施する。
- 学校保健委員会や家庭教育学級等で、土日の過ごし方を含めた児童生徒の運動習慣、生活習慣に関する研修を行う。

# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

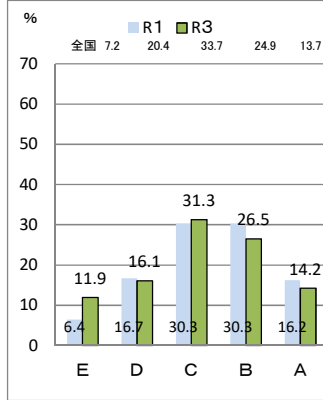
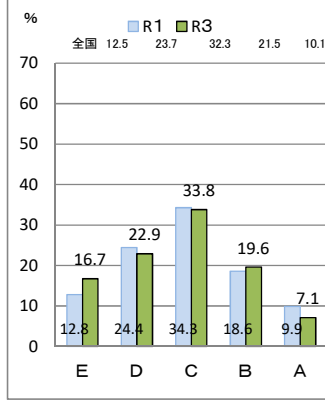
出水市 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

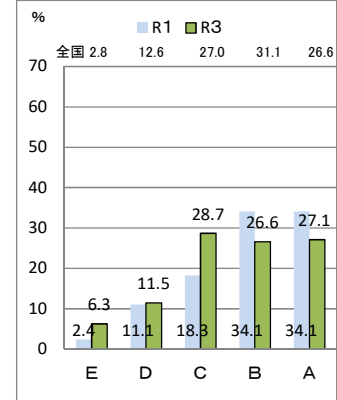
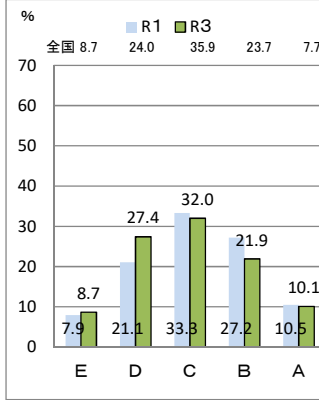
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

### 〈現状及び課題〉

- ・グラフから、令和元年度と比較すると、令和3年度は男女ともに上位層が減少し、中・下位層が増加している。
- ・別紙の実技集計表から、男女共に立ち幅跳びは全国・県平均を上回っている。また、反復横跳び・50m走は、ほぼ全国・県並みである。走・跳力は身に付いているものと考えられる。
- ・長座体前屈・20mシャトルランは、男女ともに全国・県平均を下回っている。本市小学生の課題は、柔軟性・持久力であると捉えることができる。

### 〈現状及び課題〉

- ・グラフから、令和元年度と比較すると、男子は中位層が減少し、下位層が増加している。女子は、上位層が減少し、中位・下位層が増加している。
- ・別紙の実技集計表から、男女共にハンドボール投げは全国・県平均を上回っている。また、握力・反復横跳びは、ほぼ全国・県並みである。筋力や瞬発力は身に付いているものと考えられる。
- ・長座体前屈・50m走は、男女ともに全国・県平均を下回っている。本市中学生の課題は、柔軟性・走力であると捉えることができる。

## 【小学校 運動実施時間】

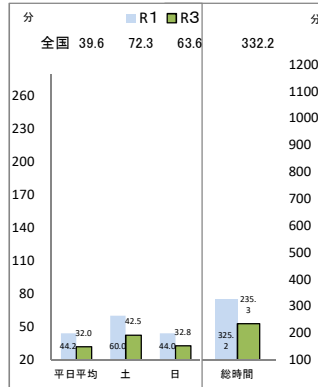
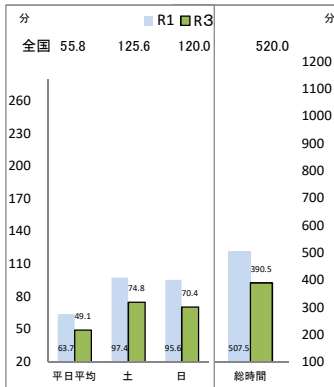
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。



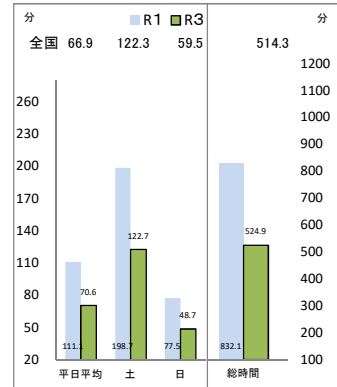
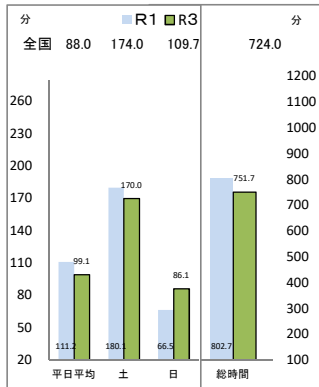
## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

### 〈現状及び課題〉

- ・グラフから、令和元年と比較すると、男女共に令和3年度は運動実施時間が減少している。国・県も同様に、令和元年度と比較すると減少している傾向にあるため、新型コロナにより、運動機会が減少しているものと考えられる。
- ・男女別に見ると、男子の運動実施時間が長く、女子は短いことが分かる。

### 〈現状及び課題〉

- ・グラフから、令和元年と比較すると、男子の日曜日の運動実施時間を除いて、令和3年度は運動実施時間が減少している。国・県も同様に、令和元年度と比較すると減少している傾向にあるため、新型コロナにより、運動機会が減少しているものと考えられる。
- ・男女別に見ると、男子の運動実施時間が長く、女子は短いことが分かる。

## 【改善策】

本市では、授業開始5分間の帯学習として、走力・跳力の向上をねらいとして、「チャレ・トレタイム」を設定することとしている。昨年度からの実施であるが、上記の結果より、これまで本市の課題であった走力・跳力については、改善の兆しが見えてきている。

一方、各学校の取組として、「一部の学年・学級のみが取り組んでおり、学校全体の取組となっていないこと」「長期的な取組ではなく、短期的な取組で終わっていること」が課題として挙げられる。

次年度、課題の改善に向けて、以下のような改善策を図る。

○ 管理職研修会等において、学校全体の取組となるよう一単位時間の学習過程のモデルを示すとともに、活動のアイデア例を提示する。

(「チャレンジかごしま」等の取組と連動、令和3年度課題となった柔軟性を高める運動例)

○ 教科外体育については、コロナ禍でも家庭で実施できる運動例の紹介を行う。

# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

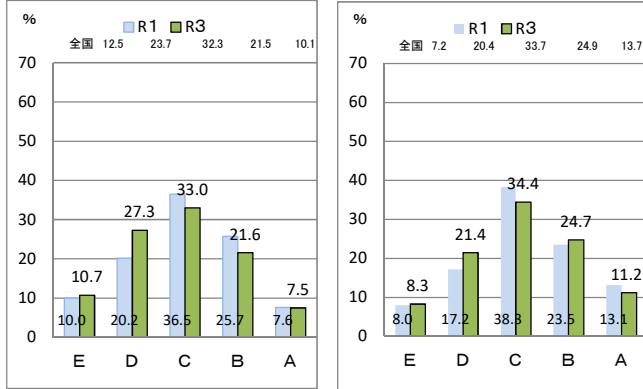
薩摩川内市 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

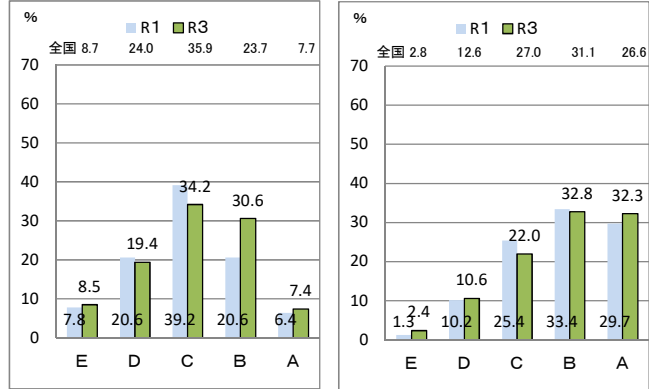
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

### 〈現状及び課題〉

- ・全国平均と比較すると、男子はDの割合が3.6ポイント高く、Aの割合が2.6ポイント低い。女子は、C+D+Eの割合が2.8ポイント高く、A+Bの割合が2.7ポイント低い。
- ・R元年度と比較すると、男子はDとEの割合が増加し、AとB、Cの割合が減少している。女子は、B、DとEの割合が増加し、AとCの割合が減少している。
- ・男女ともに下位層の割合が高いことから、1つ上に引き上げるために運動への興味関心を高め、体力向上を図る取組が必要である。

### 〈現状及び課題〉

- ・全国平均と比較すると、男子はBの割合が6.9ポイント高く、D+Eの割合が4.8ポイント低い。女子はA+Bの割合が7.4ポイント高く、D+Eの割合が2.4ポイント低い。
- ・R元年度と比較すると、男子はAとB、Eの割合が増加し、CとDの割合が減少している。女子はA、DとEの割合が増加し、Cの割合が減少している。
- ・中位層が減少し、上位層と下位層が増加していることから、特に下位層を中間層へ引き上げるための体力向上の取組が必要である。

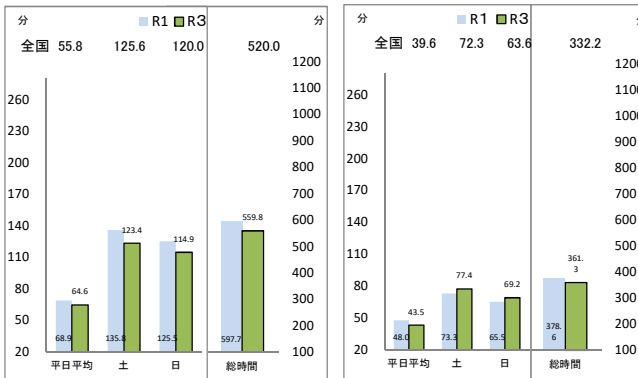
## 【小学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜~金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

### 〈現状及び課題〉

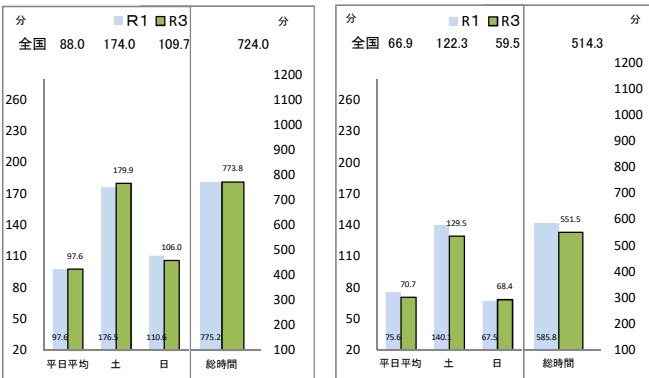
- ・全国平均と比較すると、1週間の総運動時間は男子で39.8分、女子で29.1分上回っている。また、男子は平日に長く、土・日に短い傾向があり、女子は平日、土・日のいずれも長い傾向にある。
- ・R元年度と比較すると、男子では全体的に減少し、女子では土・日で増加し、平日と1週間の総運動時間は減少している。
- ・男女ともに平日の運動時間の確保、また、男子の土・日の運動時間確保の手立てが必要である。

## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

### 〈現状及び課題〉

- ・全国平均と比較すると、1週間の総運動時間は男子で49.8分、女子で37.2分上回っている。また、男子は、平日と土曜日で、女子は平日、土・日に長い傾向にある。
- ・R元年度と比較すると、男子では日曜日で減少し、その他では大きな変化はなく、女子では平日、土曜日、1週間の総運動時間が減少している。
- ・特に女子は、平日や土曜日の運動時間を確保する手立てが必要である。

## 【改善策】

### 【小学校】

- ・タブレット端末での動画撮影等を活用した問題解決型学習の充実と1単位時間の運動時間の確保

### 【中学校】

- ・全校での「体力アップ! チャレンジかごしま」「一校一運動」の取組の推奨と取組時間の確保

### 【共通、その他】

- ・各校の「運動大好き「かごしまっ子」育成推進プラン」に基づいた年間を通した取組の見直しと推進
- ・各家庭への「プラス5分運動」「一家庭一運動」の啓発と強調期間等の設定

# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

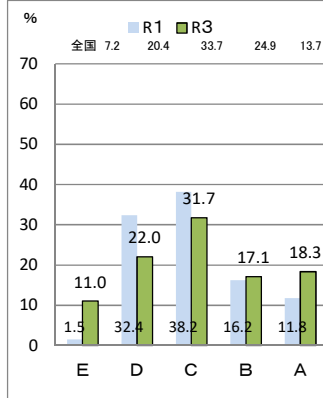
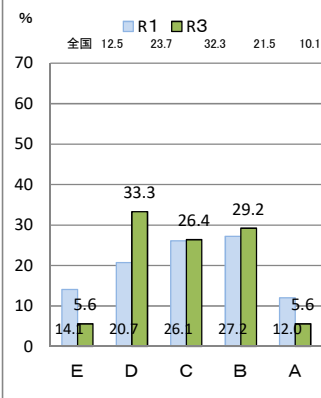
さつま町 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

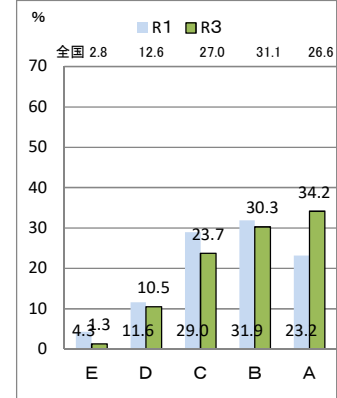
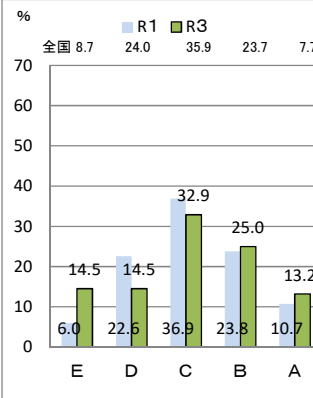
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

### 〈現状及び課題〉

- ・男子は、Aの割合が6.4ポイント、Eの割合も8.5ポイントしている。一方で、Dの割合も12.6ポイント増加と、低い層が増えている。
- ・女子は、A、Bの割合が増え、C、Dの割合が大幅に減少している。ただ、Eの割合の児童は9.5ポイント増えている。
- ・男子はD、女子はD・Eの層を引き上げるために、体力及び運動への興味・関心を高め、継続して運動させることが必要である。

### 〈現状及び課題〉

- ・男子は、A・Bの層が昨年度より増加しているが、Eの層も増えており、二極化が進んでいる。
- ・女子は、Aの層が増加し、C及びD・Eの層が減少していることから、全体的に体力等が改善してきている。
- ・男子のD及びEの層の体力及び運動への興味・関心を高めるとともに、上位層へ引き上げるための支援が必要である。

## 【小学校 運動実施時間】

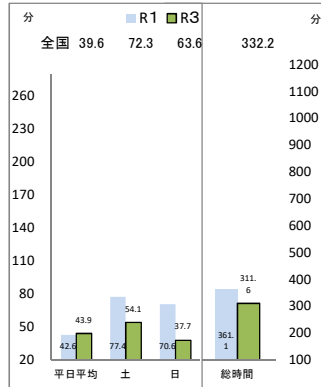
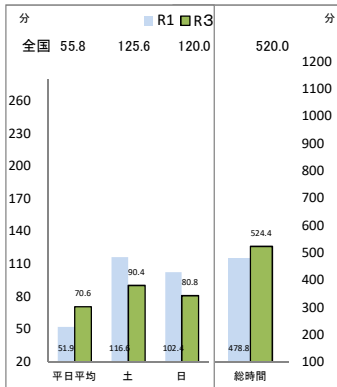
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。



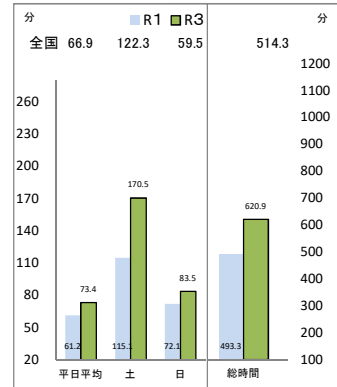
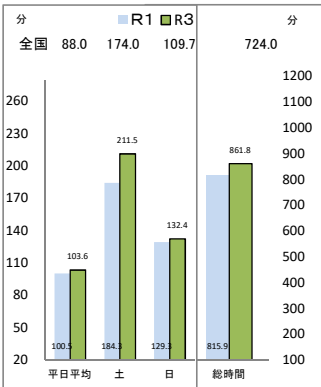
## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

### 〈現状及び課題〉

- ・男子は、昨年度に比べ、総運動時間は、増加しているが、土・日曜日の運動時間は、全国平均を大幅に下回っている。
- ・女子は、平日の運動時間は、昨年度よりやや増えているが、土・日曜日の運動時間は、全国平均を大幅に下回っている。
- ・男女共に、土・日曜日の運動時間の確保に向けた手立てが必要である。

### 〈現状及び課題〉

- ・男子は、昨年度と比較すると、大幅に運動実施時間が増えており、全国平均よりも上回っている。
- ・女子も、昨年度と比較すると、男子よりも更に大幅に運動実施時間は増えており、全国平均よりも上回っている。
- ・男子の土・日の運動時間の確保に向けた手立てが必要である。

## 【改善策】

### 【小学校】

- ・教科体育において、課題となっている体力や運動能力に関する補強運動の実施
- ・家庭での体力づくりの必要性の啓発と、週休日の運動時間の確保

### 【中学校】

- ・運動部活動に加入していない生徒や、バス通学の生徒の運動量の確保(教科体育及び教科外体育の充実)

### 【共通】

- ・「体力アップ! チャレンジかごしま」に併せた、本町主催の「さつまランキング」の実施と運動機会の確保
- ・社会教育課と連携した「睡眠&メディア日誌」(睡眠やメディア使用の記録)の取組による生活習慣の見直し

# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

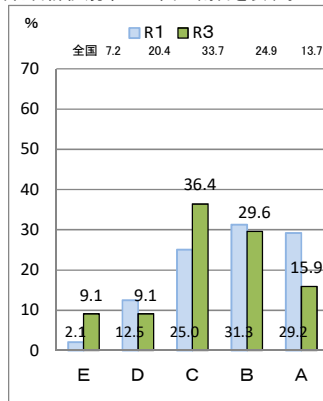
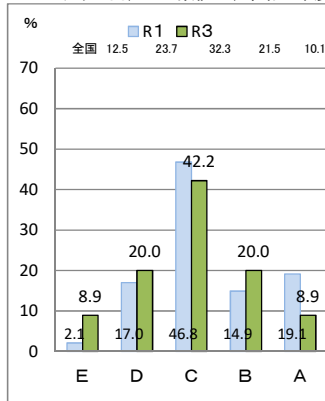
長島町 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

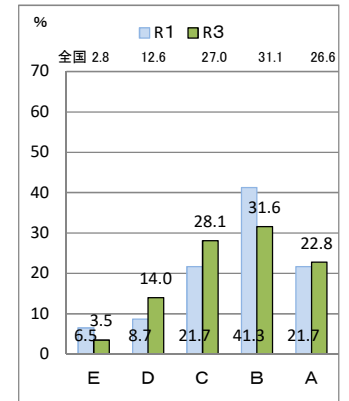
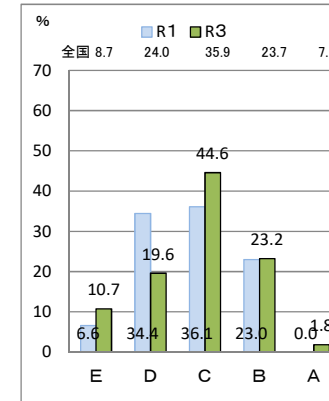
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

### 〈現状及び課題〉

- ・R1年度と比較すると、A+Bの割合が、男子は5.1ポイント、女子は15ポイント減少している。また、D+Eの割合が、男子が9.8ポイント、女子が3.6ポイント増加している。
- ・全国平均と比較すると、A+Bの割合が、男子は2.7ポイント下回っているが、女子は6.9ポイント上回っている。
- ・男女とも、E、D、Cの児童の体力及び運動への興味・関心を高め、Cの児童をB、Aへ引き上げる取組が必要である。

### 〈現状及び課題〉

- ・R1年度と比較すると、A+Bの割合が、男子は2ポイント増加し、女子は8.6ポイント減少している。D+Eの割合が、男子が10.7ポイント減少し、女子が2.3ポイント増加している。
- ・全国平均と比較すると、A+Bの割合が、男子は6.4ポイント、女子は3.3ポイント下回っている。
- ・男女とも、E、D、Cの児童の体力及び運動への興味・関心を高め、Cの児童をB、Aへ引き上げる取組が必要である。

## 【小学校 運動実施時間】

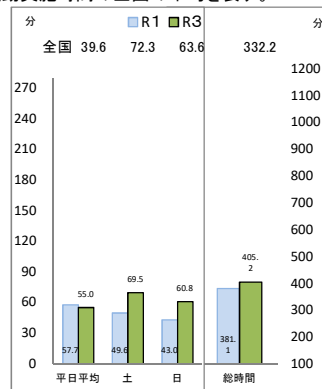
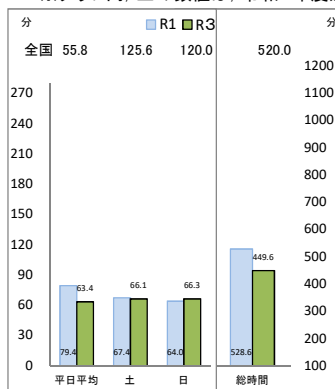
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。



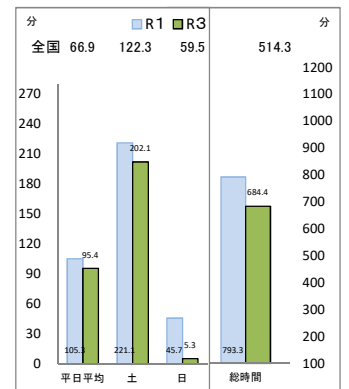
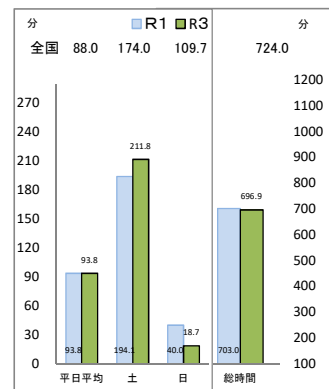
## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜~金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

### 〈現状及び課題〉

- ・R1年度と比較すると、1週間の総運動時間は、男子は79分減少し、女子は24.1分増加している。女子は、土・日とも増加している。
- ・全国平均と比較すると、1週間の総運動時間は、男子は70.4分短く、女子は73分長くなっている。
- ・男子は、特に土日の運動時間が全国平均の半分程度のため、週休日における運動時間の確保に向けた手立てが必要である。

### 〈現状及び課題〉

- ・R1年度と比較すると、1週間の総運動時間は、男子は6.1分、女子は108.9分減少している。女子は、平日、土・日とも減少している。
- ・全国平均と比較すると、1週間の総運動時間は、男子は27.1分短く、女子は170.1分長くなっている。
- ・男子は、特に日曜日の運動時間が全国平均の20%に満たないため、週休日における運動時間の確保に向けた手立てが必要である。

## 【改善策】

### 【小学校】

- ・「一校一運動」及び「体力アップ! チャレンジかごしま」への取組により、児童の運動に対する興味・関心の向上、運動に親しむ習慣の形成
- ・教科体育で運動量の十分な確保(特に、走力を高める運動や柔軟性を高める運動の継続的な取組)

### 【中学校】

- ・「一校一運動」及び「体力アップ! チャレンジかごしま」への取組の継続により、運動に対する興味・関心の向上。
- ・教科体育で運動量の十分な確保(特に、運動部活動に入っていない生徒への運動に親しむ習慣の形成に向けた取組)

### 【共通】

- ・学校、家庭、地域と連携を図り、地域で開催されるスポーツ行事や町主催行事への積極的な参加の呼び掛け



# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

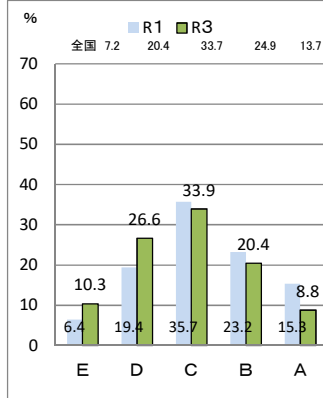
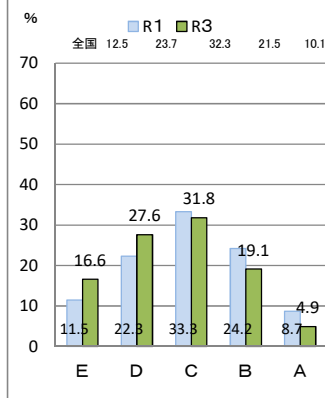
霧島市 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

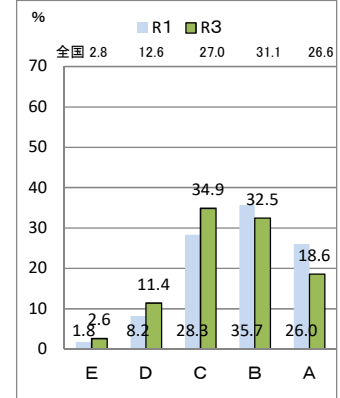
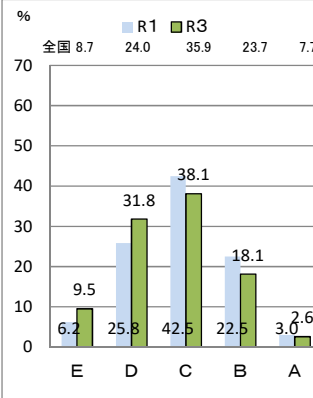
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉  
 ・男子は、A・Bの割合の合計が8.9ポイント減少して24.0ポイント、D・Eの割合の合計が10.4ポイント増加して44.2ポイントとなり、上位層と下位層との差が-20.2ポイントと体力の低下傾向が極めて顕著である。  
 ・女子は、A・Bの割合の合計が9.3ポイント減少して29.2ポイント、D・Eの割合の合計が11.1ポイント増加して36.9ポイントとなり、上位層と下位層との差が-7.7ポイントと体力の低下傾向が顕著である。  
 ・男女とも下位層を中位層に引き上げ、A・Bのポイントの和とD・Eのポイントの和を等しくする必要がある。

〈現状及び課題〉  
 ・男子は、A・Bの割合の合計が4.8ポイント減少して20.7ポイント、D・Eの割合の合計が9.3ポイント増加して41.3ポイントとなり、上位層と下位層との差が-20.6ポイントと体力の低下傾向が極めて顕著である。  
 ・女子は、A・Bの割合の合計が10.6ポイント減少して51.1ポイント、D・Eの割合の合計が4.0ポイント増加して14.0ポイントとなり、体力の低下傾向がみられる。  
 ・男子は、下位層・中位層を引き上げてA・Bのポイントの和とD・Eのポイントの和を等しくし、女子は、中位層を上位層に引き戻し、全体的な底上げを図る必要がある。

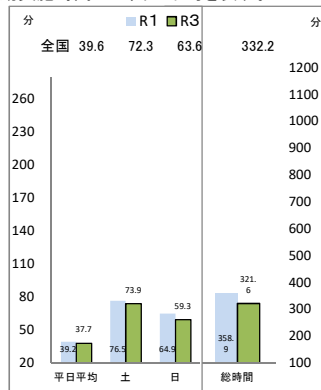
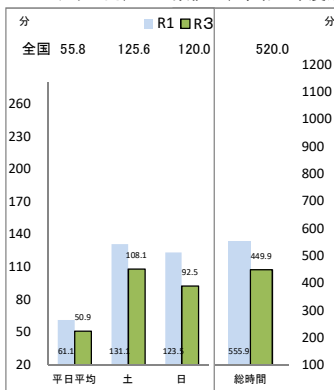
## 【小学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。

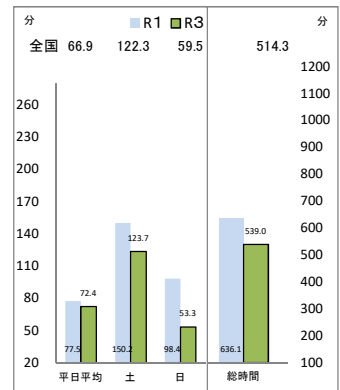
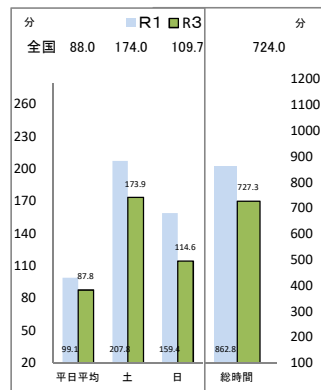


## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉  
 ・男子は、土・日の運動実施時間が大幅に減少している。外遊びやスポーツ少年団活動等の制限など、コロナ禍の影響も考えられるが、感染症対策を踏まえた家庭での運動習慣の育成を図る必要がある。  
 ・女子は、平日、土・日の運動実施時間にほとんど差はみられないが、曜日を問わず運動実施時間が短く、日常的に運動に親しむ習慣づくりが必要である。

〈現状及び課題〉  
 ・男子は約79分、女子は約72分と、土・日の運動実施時間が大幅に減少している。コロナ禍の影響も考えられるが、感染症対策を踏まえた家庭での運動習慣の育成を図る必要がある。  
 ・運動実施時間は曜日を問わず全国平均並みであるが、体力合計点は全国平均に比べて大きく劣っていることから、体力向上に向けた授業改善を一層図る必要がある。

## 【改善策】

- ・体力向上委員会、教科部会等を明確に位置付けて推進体制を確立するよう各学校に指導し、継続的な取組を促す。
- ・食に関する指導や生活習慣の確立に向けた指導、メディアの適切な利用に関する指導などと関連付けた教育活動全体を通じた実践を促す。
- ・運動習慣の育成に向けた学校・家庭が連携した「家庭一運動」の取組を推進する。
- ・管理職研修会や体育主任研修会など、各種研修会等で具体的な実践的指導を行い、指導力の向上と授業改善を図る。
- ・1回のスポーツテストで児童生徒が最大限の能力を発揮できるよう、「もっている力を引き出す指導のポイント」を活用し指導体制を確立させる。
- ・前回の記録を確認させるなどして児童生徒を意欲付け、「1」にこだわる取組を通して最大限の能力を発揮できる実施環境を整える。

# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

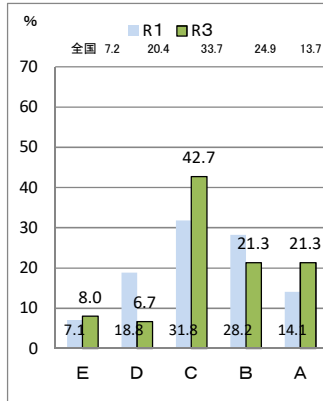
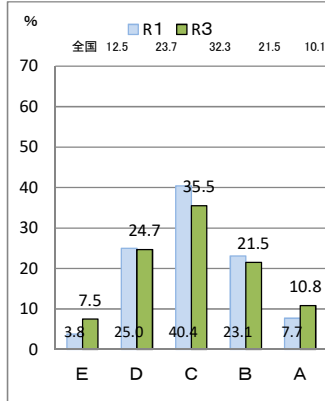
伊佐市 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

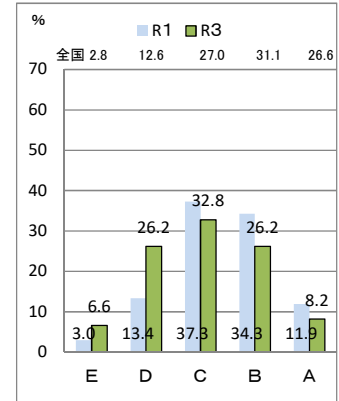
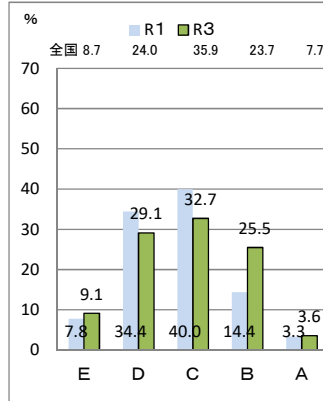
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

### 〈現状及び課題〉

- ・男子は、C層が減少し、A層及びE層の割合が増加した。多くの実技種目で全国・県を上回ったが、長座体前屈(柔軟性)については、下回るようになった。
- ・女子は、B層やD層が減少したが、A層及びC層の割合が増加し、体力合計点も全国・県を上回る結果となった。しかし、長座体前屈(柔軟性)、立ち幅跳び(跳躍能力)については、下回る結果となった。
- ・男女とも継続的に運動に親しむ態度を育てるため、人と関わり汗いっぱい達成感を味わう授業づくりが必要である。

### 〈現状及び課題〉

- ・男子は、C層及びD層が減少し、A層及びB層の割合が増加したものの、多くの実技種目で全国又は県を下回る結果となった。特に、50m走(疾走能力)や持久走(全身持久力)の差が大きい。
- ・女子は、A～C層が減少し、D層及びE層の割合が増加した。多くの種目で全国・県を下回る結果となった。50m走(疾走能力)や持久走(全身持久力)、反復横跳び(俊敏性)の差が特に大きい。
- ・男女とも小学校就学時を含め、継続的に運動に親しむ態度を育てるため、人と関わり汗いっぱい達成感を味わう授業づくりが必要である。

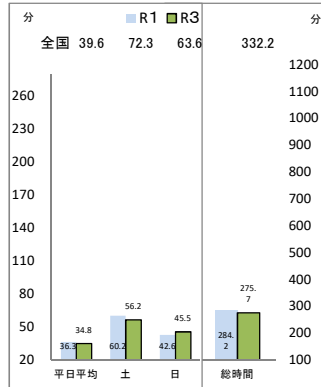
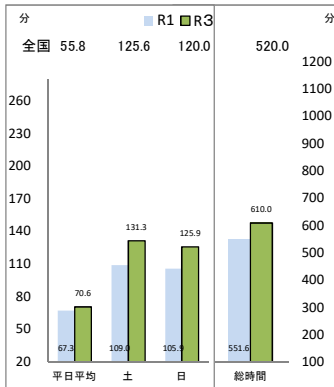
## 【小学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。

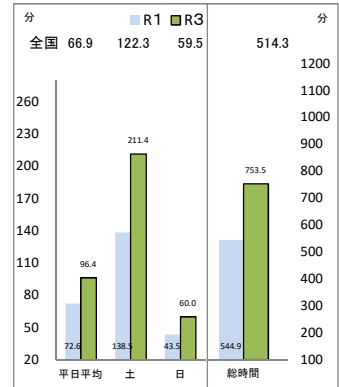
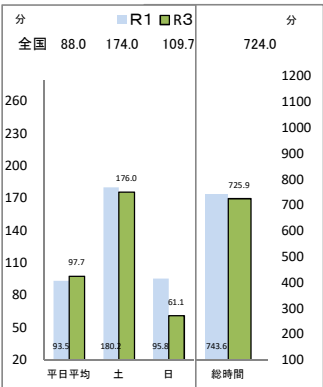


## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

### 〈現状及び課題〉

- ・男子は、平日、土日ともに運動時間が昨年度より増加し、全国・県平均を上回っている。女子は、逆に全国又は県を下回る日が多く見られた。
- ・児童質問紙の中で、体育の授業がうまくできないと答える女子が6割おり、運動の必要性は感じつつも日常的に親しむ意欲を育てることが課題と言える。

### 〈現状及び課題〉

- ・男女とも平日、土日を含めた運動時間が全国・全県平均に比べて下回っている。特に女子生徒の運動量の差が大きい。
- ・部活の休業日である水曜日と日曜日の運動時間の落ち込みが大きく、自主的に運動に親しむ態度を日々の授業や部活動で育成することが必要である。

## 【改善策】

### 【小学校】

- ・今後も朝の活動や業間の活動に、運動に親しむ時間を設定し、チャレンジかごしまに取り組んだり、運動に親しむ態度を育てる達成感・充実感を味わえる授業づくりを進めたりする必要がある。
- ・定期的な学校訪問を行い、体育の一単位時間の授業モデルを検討し授業充実を図り、授業を通じた体力向上を図っていく。

### 【中学校】

- ・運動部活動指導者の指導方法改善を行うために、各種研修会等への積極的な参加を促す。また、学校を訪問した際に、情報交換を行い授業充実を通じた運動への興味・関心を高めることにより、体力向上を図っていく。
- ・生徒質問紙の内容を改めて確認させ、「運動大好き“かごしまっ子”育成推進プラン」を核に、人との関わりや達成感を伴う汗いっぴいの保健体育の授業づくりを進めるようにする。

# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

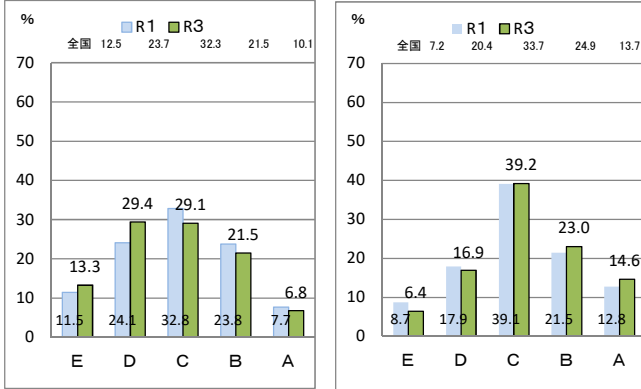
始良市 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

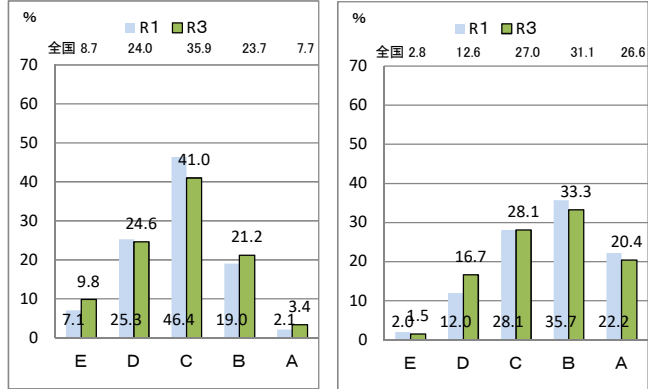
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

### 〈現状及び課題〉

- ・男子は前年度と比較して、(A+B)の児童が3.2ポイント減少し、(D+E)の児童が7.1ポイント増加しており、全体的な体力の低下が見られる。特に、D、Eの下位層の引き上げが必要である。
- ・女子は前年度と比較して(A+B)の児童が3.3ポイント増加し、(D+E)の児童が3.3ポイント減少していることから、全体的な体力の向上が見られる。

### 〈現状及び課題〉

- ・男子は前年度と比較して(A+B)の生徒が3.5ポイント増加し、(D+E)の生徒が2.0ポイント増加している。Aの児童が増加し、Eの児童も増加していることから、二極化が進んだものと考えられる。
- ・女子は前年度と比較して、(A+B)の生徒が4.2ポイント減少し、(D+E)の生徒が4.2ポイント増加しており、全体的な体力の低下が見られる。特に、A、Bの上位層の伸び悩みが見られる。
- ・男女ともに(D+E)の生徒が増加している。下位層及び中間層の引き上げが必要である。

## 【小学校 運動実施時間】

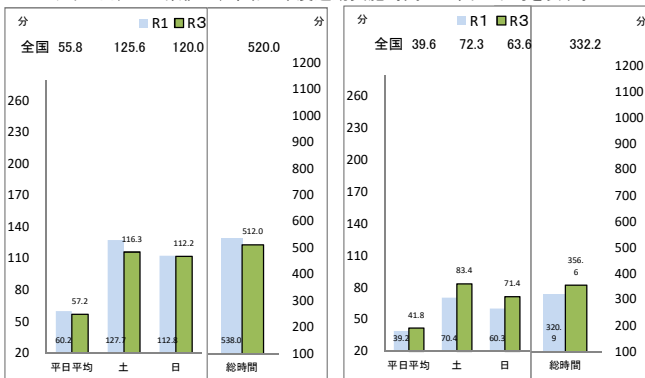
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜~金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

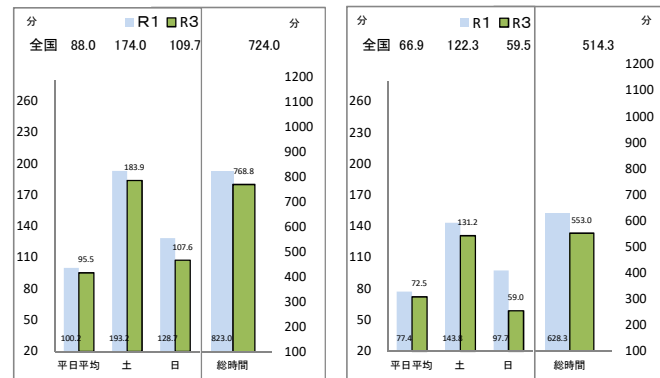
## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

### 〈現状及び課題〉

- ・全国と比較した一週間の総運動時間は、男子が「ほとんど差がない」女子が「わずかに長い」結果であった。
- ・前年度と比較すると、総時間で、男子が「わずかに短い」女子が「わずかに長い」結果となった。男子は、全ての曜日において運動実施時間が減少しており、日常生活の中で運動する時間の確保と外遊びの機会の増加を図る手立てが必要である。

### 〈現状及び課題〉

- ・全国と比較した一週間の総運動時間は男女ともに「わずかに長い」結果であった。
- ・前年度と比較すると、男女ともにほとんどの曜日において減少している。運動離れの傾向やスマートフォン等の遊びの多様化、新型コロナウイルス感染症の影響等によって、減少が見られたものと考えられる。今後、原因を分析し、運動の量と質の向上を図る指導に努めたい。

## 【改善策】

- ・調査結果の分析に基づいた、教科体育、一校一運動等での補強運動の設定と、継続的な取組の推進。
- ・学習内容を明確にした授業実践と一単位時間の運動量の確保、毎時間の体育授業内での補強、柔軟運動の継続した取組。
- ・「体力アップ! チャレンジかごしま」への市内全学校での取組の推進等による、運動の楽しさ、意欲を高める指導の充実。
- ・教師の指導力向上を図る「体力・気力アップ始良っ子育成研修会」、「小・中学校体育主任研修会」等の実施。
- ・運動の日常化を目指す「家庭一運動」の推進。
- ・幼児期運動指針を活用した幼児期からの運動習慣の基盤づくりの充実。



# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

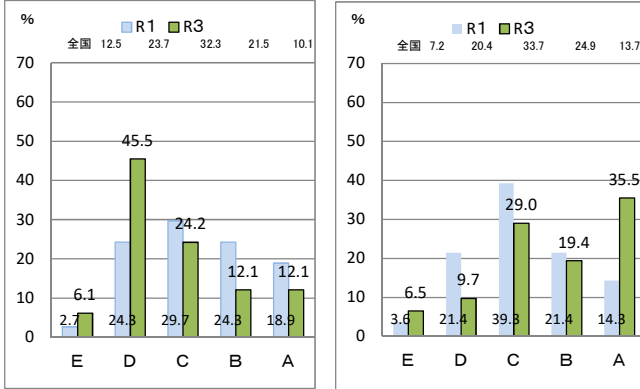
湧水町 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

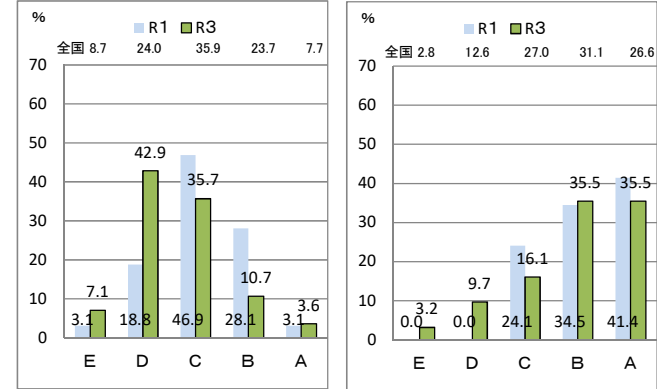
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉  
 ・男子は上位層が減少し、下位層、特にDの割合が大きく増加し、全体的に体力の低下が見られた。  
 ・女子は、Eの割合が微増であるが、Aの割合が大きく増加し、全体的に体力の向上が見られる。

〈現状及び課題〉  
 ・男子は、B・Cの割合が減少し、反対に下位層のD・Eの割合が大きく増加し、全体的に体力の低下が見られる。  
 ・女子は、前回、0%であった下位層のD・Eが今回は見られるが、全体的には上位層が多く、好成績を維持している。

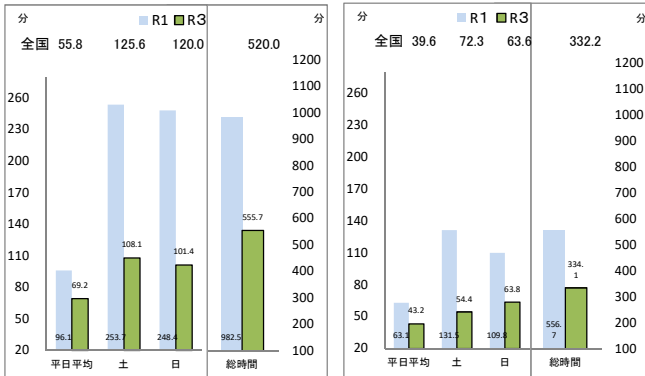
## 【小学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。

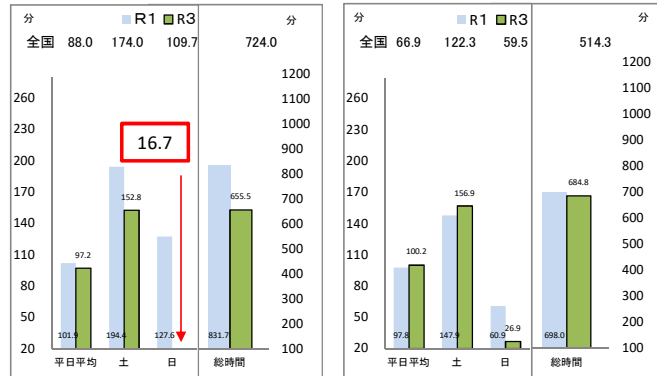


## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜~金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉  
 ・男女ともに1週間の総運動実施時間は、令和元年度に比べて大きく減少している。これは新型コロナウイルス感染防止対策による活動自粛の影響が大きいと思われる。  
 ・結果的には、運動実施時間は全国平均並であるが、外出自粛等のある中での運動時間の確保、運動の質の向上が課題である。

〈現状及び課題〉  
 ・小学校と同じように男子は、令和元年と比べて運動実施時間は減少し、特に日曜日に運動時間は極端に少なく、総時間は全国平均を下回っている。  
 ・ただし、女子は日曜日を除いて、ほぼ、令和元年と同じ程度の運動を実施し、時間数は全国平均を大きく上回っている。

## 【改善策】

- ＜小学校＞
  - ・少人数学級(複式学級)等の実態に応じた体育授業の展開、体力づくりの工夫・改善(運動量の確保・ルールの工夫等)
- ＜中学校＞
  - ・町内2校の連携による授業研究の実施、体育的行事・部活動等の合同実施の推進
- ＜共通＞
  - ・授業の工夫・改善
    - ◇授業の導入時→目標(めあて・ねらい等)を児童・生徒にしっかり示す。
    - ◇授業の展開時→児童・生徒同士で話し合い、助け合う活動を積極的に取り入れる。(タブレットの活用等)
    - ◇授業の終末時→授業で学習したことを振り返る活動を実践に行う。
  - ・教科外の取組
    - ◇各校の特色を活かした朝の体力づくりの推進(県=「チャレンジかごしま」、町=「遊・友・湧水島」)
    - ◇地域の行事と連携した体力づくりの推進(町内一周駅伝・豊祭相撲大会・子ども会ウォーキング等)

# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

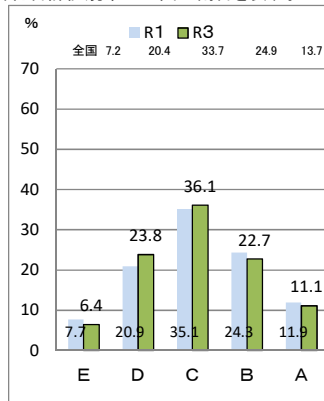
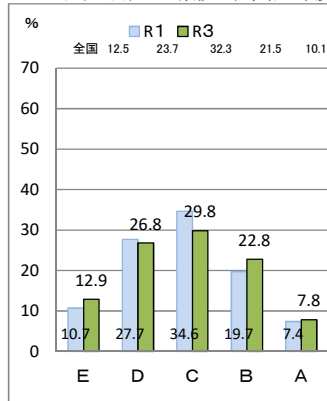
鹿屋市 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

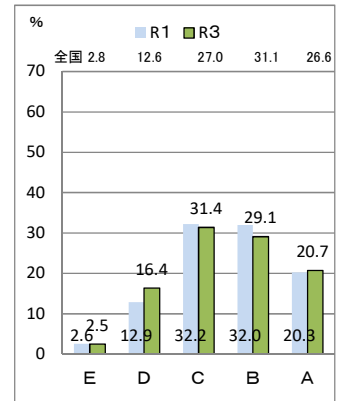
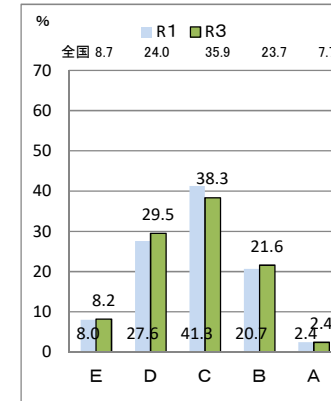
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

### 〈現状及び課題〉

- ・男子はA, Bの割合がともに増加し、特にBの割合は3.1ポイント増加しており、体力の向上が伺えるが、Eの割合も2.2ポイント増加している。
- ・女子はA, Bの割合が減少し、C, Dの割合が増加している。Eの割合が1.3ポイント減少し、EからDへの引き上げがみられる。
- ・男子はE, 女子はD, Cの児童の運動への興味・関心を高め、授業改善や業間体育等の教科外体育を充実させる取組が必要である。

### 〈現状及び課題〉

- ・男子はAの割合が変わらず、Cの割合が3.0ポイント減少し、B, Dの割合が増加しており、上位層と下位層の差が広がっている。
- ・女子はAの割合が少し増加しているが、B, Cの割合が減少し、Dの割合が3.5ポイント増加しており、下位層の増加がみられる。
- ・男女ともA, Bへ引き上げるため、運動への興味・関心を高め、授業改善や生徒会活動による運動の推進など教科外体育の取組が必要である。

## 【小学校 運動実施時間】

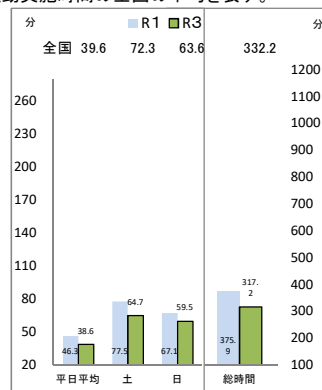
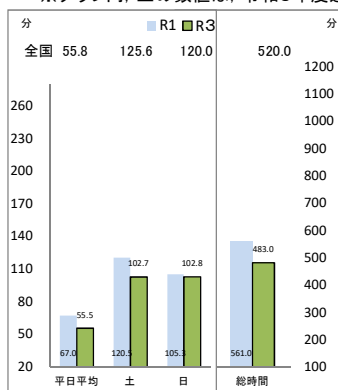
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。



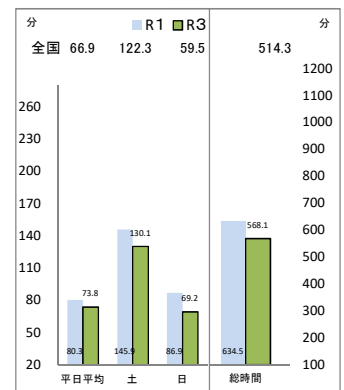
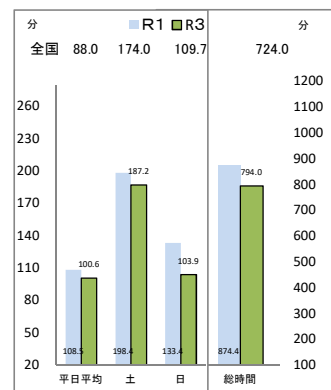
## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

### 〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国と比較して男子は短く、女子はほとんど差がないが、一昨年度より男女ともに減少している。
- ・平日及び土日の運動時間は、男女ともに全国と比較してほとんど差がないが、一昨年度より減少している。
- ・土日の運動促進のため、家庭へ啓発をする必要がある。

### 〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国と比較して男女ともに長いですが、一昨年度より減少している。
- ・平日及び土日の運動時間は、男女ともに全国と比較してほとんど差がないが、一昨年度より減少している。
- ・運動に興味をもち、自発的に運動を行う手立てが必要である。

## 【改善策】

### 【共通】

- ・学校や家庭において日頃から児童生徒に、運動やスポーツをすることの大切さを伝えるとともに、運動の楽しさを実感し、工夫しながら運動する習慣の定着に努めるよう、体育、保健体育の授業や体力向上に係る研修会への積極的な参加を通して、教員の指導力向上を図る。
- ・授業において目標の提示や振り返りの活動を徹底するとともに、ICTを活用し、「できる」(達成感)を味わえる授業づくりや、仲間と一緒に活動をしたり話し合い活動をしたりするなど友達と関わる活動を取り入れた授業改善を行い、教科体育、保健体育の充実を図る。
- ・家庭、地域との連携を図り、資料配布等により、睡眠、食事、運動習慣など健康に係る意識を高め、徒歩での登下校や昼休みに外で遊ぶことなど運動の生活化や日常化を推奨し、体力の向上を図る。また、調査の個人データ分析により、目標を設定し、家庭での運動を促進する。
- ・本市の課題である「上体起こし(筋力・筋持久力)」、「反復横跳び(敏しょう性)」を向上させる補強運動等の取組(鹿屋体育大学が推進している5分間運動「エクシード」やチャレンジかごしま)を年間通じて実践する。また、児童会、生徒会活動による主体的な取組を推進する。

# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

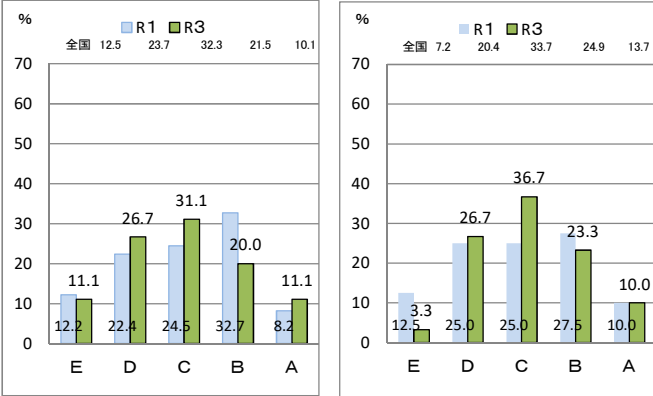
垂水市 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

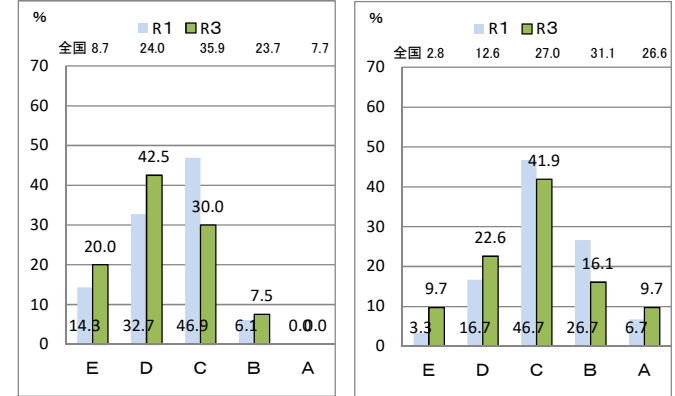
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉  
 ・男子は、令和元年度と比べてBの割合が12.7ポイント減少し、Cの割合が6.6ポイント、Dの割合が4.3ポイント増加している。  
 ・女子は、Eの割合が9.2ポイント減少し、Cの割合が11.7ポイント増加している。  
 ・男女ともA、Bを合わせた割合は減少している。Eの割合は減少しているものの、C～Eの全体に占める割合が高い。C、Dの児童をBへ引き上げる取組の工夫が必要である。

〈現状及び課題〉  
 ・男子は、令和元年度に続きAの生徒がいない。Cの割合が16.9ポイント減り、D、Eの割合が増えている。D、Eの割合だけで62.5%となり、運動への興味・関心を高めるとともに、Dの生徒をCへ引き上げる取組が必要である。  
 ・女子は、Aの割合がわずかに増加したが、B、Cの割合が減り、D、Eの割合が増えている。どの段階も一つ上に引き上げる取組が必要である。

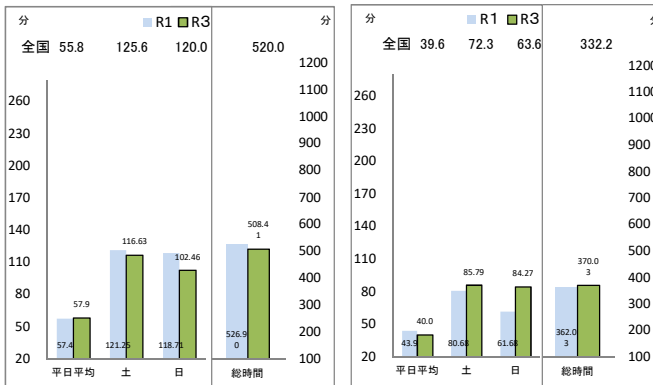
## 【小学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

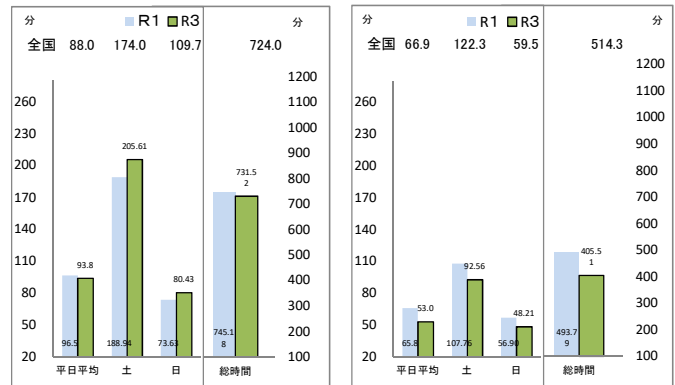
〈現状及び課題〉  
 ・1週間の総運動時間を全国平均と比較すると、男子がほとんど差がなく、女子が長い。  
 ・男女とも、全国平均と比較すると、平日の運動時間がほとんど差がない。土・日の運動時間は、男子が全国平均とほとんど差がなく、女子がわずかに長くなっている。

## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉  
 ・1週間の総運動時間を全国平均と比較すると、男子はわずかに長く、女子は100分以上短い。  
 ・男子は、全国平均と比較して、土曜日の運動時間がわずかに長く、日曜日の運動時間はわずかに短い。女子は、全国平均と比較して、土曜日の運動時間がわずかに短い。

## 【改善策】

### 【小学校】

・固定道具の活用や運動遊びの推奨、高学年における教科担任制による体育授業改善などの体力向上策の推進

### 【中学校】

・体育的行事を核として、生徒の体力及び運動への興味・関心を高め、運動習慣を育成する体力向上策の推進

### 【共通】

・「体力アップ！チャレンジかごしま」への年間を通じた取組

・ICT機器を効果的に活用した体育授業改善

・「一校一運動」の推進、家庭や地域と連携した「一家庭一運動」等の推進による運動習慣育成

# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

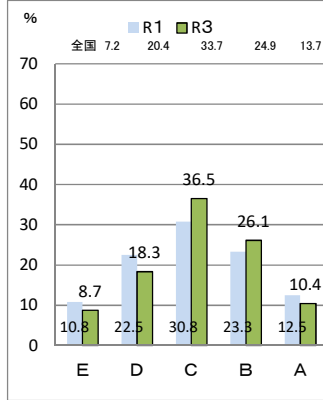
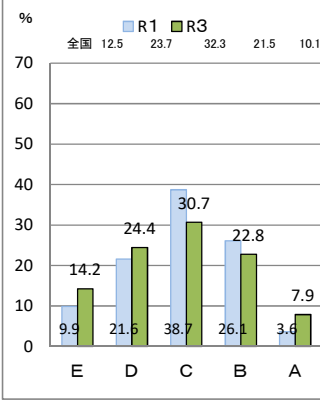
曾於市 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

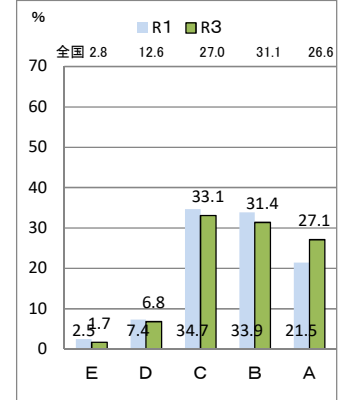
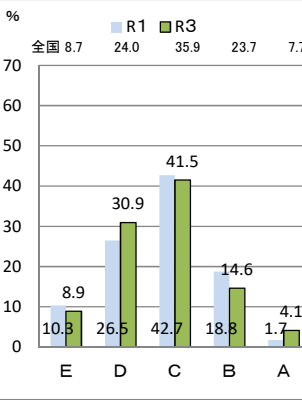
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

### 〈現状及び課題〉

・男子は中位層が減って、A, D, Eがそれぞれ増加しており、2極化が進む結果となった。種目別にみると、全国平均以上の種目が6/9種目と全体的には良好だが、長座体前屈のみ全国平均を下回り、課題が明確である。  
・女子はA, D, Eが減少し、C, Bが増加している。中・上位層に若干厚みが出る結果となった。種目別では、4/9種目が全国平均をT得点で2ポイント前後上回るものの、上体起こしや長座体前屈が全国平均を大きく下回るなど、男子以上に柔軟性に課題が見られる。

### 〈現状及び課題〉

・男子は一昨年度と比較して、Aが微増、Eは微減となったものの、Bが減少してDが増加するなど、全体で見ると大きな変化は見られなかった。全国平均と比べると、体格・運動能力の両面で課題が継続する結果となった。  
・女子は一昨年度と比較して、Aが5ポイント以上伸び、他が全て減少しており、全体的に良好な結果を見せた。また、種目別で見ても、全国平均を超えている種目が6/9と比較的良好な水準を保っている。

## 【小学校 運動実施時間】

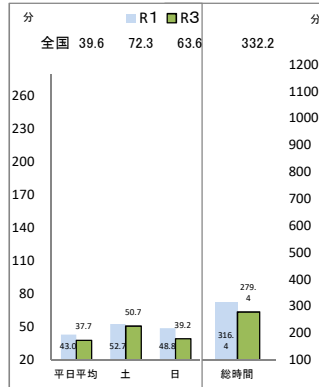
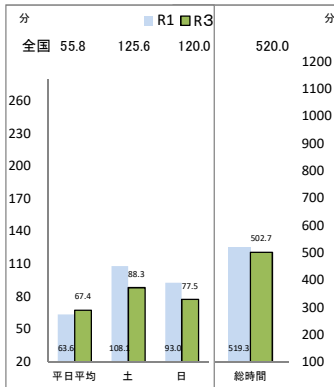
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。



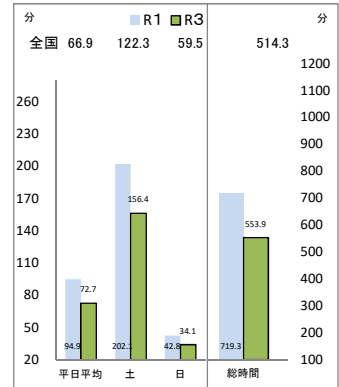
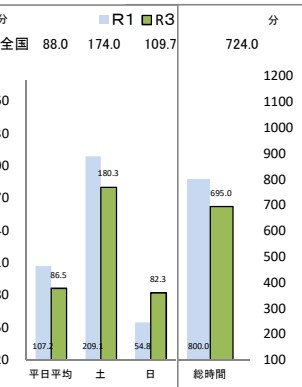
## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

### 〈現状及び課題〉

・男子は平日平均は一昨年度よりも若干増加しているものの、週末の運動時間は減少している。  
・女子は一昨年度も男子と比較して運動時間の少なさが目立っていたが、本年度はその水準から更に減少している。コロナ禍の影響もあるのか、運動に親しむ機会が以前より少なくなっている。

### 〈現状及び課題〉

・男子は一昨年度との比較では、日曜日のみ増加しているものの、総時間も含め、ほかは減少傾向にある。  
・女子は曜日に限らず、全体的に減少傾向がみられる。  
・小学生と同様、男女ともに新型コロナウイルス感染症の発生以前と比較すると、運動不足が心配される状況にある。

## 【改善策】

### 【小学校】

- ・一校一運動の取組を充実させ、年度ごとにポイントを絞って重点的に強化させ、指導のノウハウを深化・共有化させる。
- ・男女ともに柔軟性に課題が大きい。柔軟性を高める指導を継続的に行い、日常的にストレッチ等を行う習慣を身に付けさせる。

### 【中学校】

- ・昨年度、「たくましい“かごしまっ子”育成推進研究」推進校として、2年間の研究内容をまとめた末吉中学校の研究・実践の成果を市内各校に還元させる。
- ・夏季・冬季オリンピックイヤーから国体が延期開催される流れを生かし、コロナ禍で低下した運動に親しむ意識を再度高めるようにする。

# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

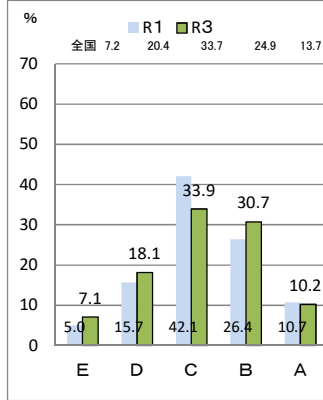
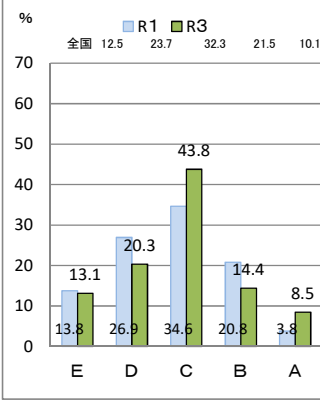
志布志市 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

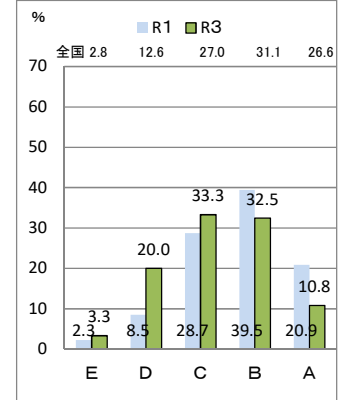
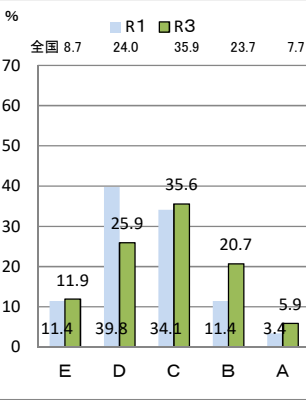
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

### 〈現状及び課題〉

- ・男子はD、Bの割合が減少し、C、Aの割合が増加している。全体的に体力向上の兆しが伺えるが、更にCの児童をBまで高める取組も必要である。
- ・女子は、Bの割合は増加しているものの、E、Dの割合も2ポイント程度増加している。E、Dの児童の体力及び運動への興味・関心を高め、体力向上に取り組む意欲を高める取組が必要である。

### 〈現状及び課題〉

- ・男子は、Dの割合が13.9ポイント減少し、C、B、Aの割合が増加しており、体力の向上が伺える。引き続き取組の充実を図るとともに、Eの生徒をDへ引き上げる取組の工夫が必要である。
- ・女子は、B、Aの割合がそれぞれ7ポイント、10.1ポイント減少しており、E、D、Cが増加している。生徒の体力及び運動への興味・関心を高め、全体的な底上げを図る必要がある。

## 【小学校 運動実施時間】

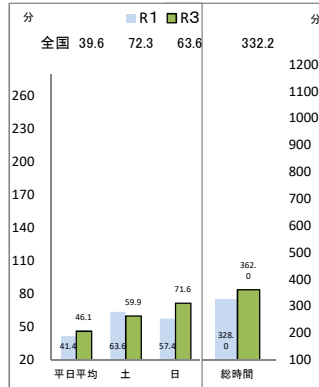
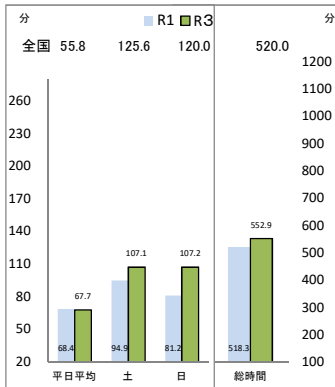
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。



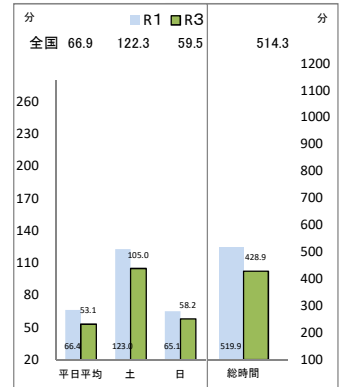
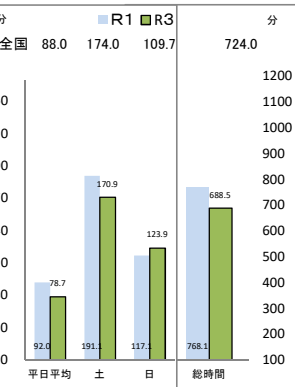
## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

### 〈現状及び課題〉

- ・令和元年度と比較すると、1週間の総運動時間は男女ともに増加し、全国平均と比較しても30時間程度多い。
- ・平日は、全国平均と比較して男女とも運動時間が長い。
- ・男子は、土・日ともに全国平均より運動時間が短い。女子は、日曜日は全国平均より長い、土曜日の運動時間は短くなっている。

### 〈現状及び課題〉

- ・令和元年度と比較すると、1週間の総運動時間は男女とも短くなっており、全国平均と比較しても短い。
- ・平日は、全国平均と比較して男子で10時間程度、女子で13時間以上短くなっているが、男子の土曜日、女子の日曜日の運動時間は全国平均程度である。男子の日曜日は全国より運動時間が長い。

## 【改善策】

### 【小学校】

- ・家族と一緒に運動する「一家庭一運動」の取組を推進することによる、土・日の運動時間の確保
- ・朝の活動や体育授業において筋力、筋持久力、柔軟性を高める補強運動の実施(上体起こし、長座体前屈が課題)

### 【中学校】

- ・一校一運動と関連させた「体力アップ！チャレンジかごしま」への更なる取組の推進
- ・運動への興味・関心を高め、運動時間の確保につながる保健体育授業や学校行事の工夫

### 【共通】

- ・体力向上アドバイザー(鹿児島大学より招聘)の指導・助言をもとにした体力向上策の検討



# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

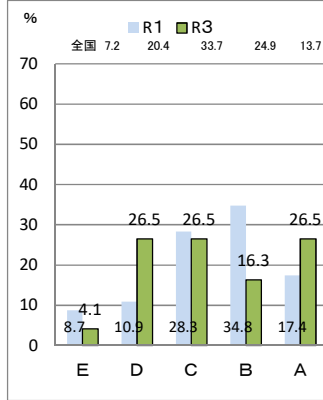
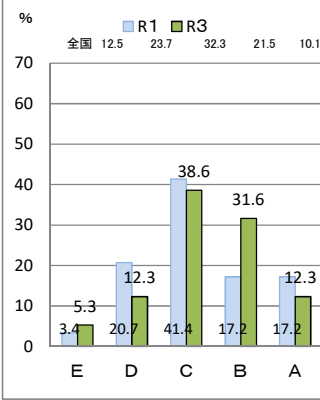
大崎町 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

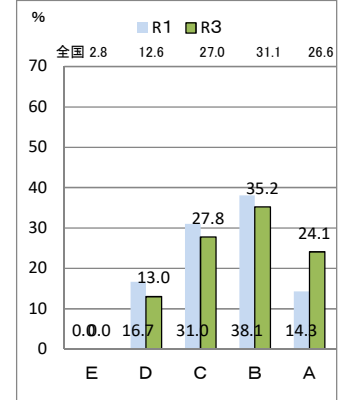
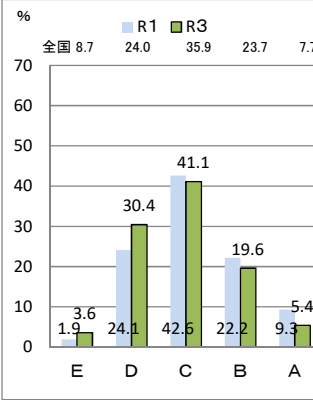
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

### 〈現状及び課題〉

- ・男子は、令和元年度と比較し、Bが14.4ポイント増加したものの、Aが4.8ポイント減少している。BをAに上げる取組の工夫が必要である。
- ・女子は、令和元年度と比較し、Aが9.1ポイント増加したものの、Bが18.5ポイント減少している。C、Dの児童に対して運動に取り組む意欲付けが必要である。

### 〈現状及び課題〉

- ・男子は、令和元年度と比較し、A、Bが6.5ポイント減少し、D、Eが8.0ポイント増加している。全体的に運動の機会を増やし、体力合計点を5点引き上げる取組が必要である。
- ・女子は、令和元年度と比較し、A、Bの合計が6.9ポイント増加し、E、Dの合計が3.7ポイント減少しており、今後も継続的に取組を行っていく。

## 【小学校 運動実施時間】

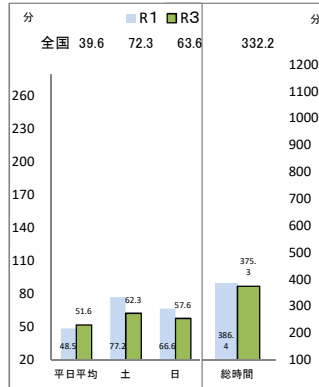
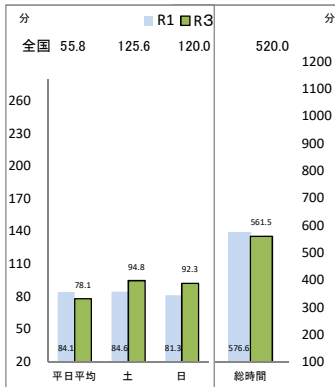
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。



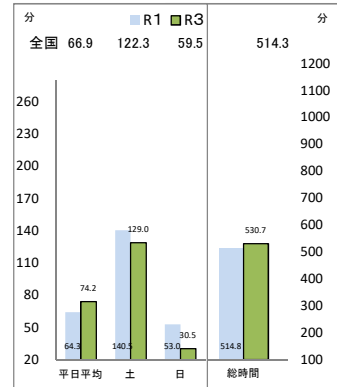
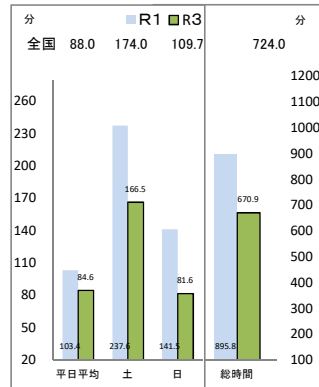
## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

### 〈現状及び課題〉

- ・土日の運動実施時間は、全国平均と比較すると男子が短く女子がわずかに短い、総運動実施時間では、男女とも長くなっている。
- ・男女とも、令和元年度と比較するとほとんど差がない結果であった。

### 〈現状及び課題〉

- ・男子は、令和元年度と比較し、総運動実施時間が220時間以上減少している。また、全国平均と比較しても短い結果となった。
- ・女子の総運動実施時間は、全国平均と比較すると、令和元年度は短かったが、令和3年度はほとんど差がない結果であった。
- ・男女とも、土日の運動時間の確保に向けた手立てが必要である。

## 【改善策】

- 【小学校】
  - ・「体力アップ！チャレンジかごしま」の継続的な取組の指導
- 【中学校】
  - ・生徒が自分の動きの高まりを実感する授業の改善に向けた指導
- 【共通】
  - ・各家庭へ、1km～500mは歩いて登下校を奨励
  - ・町の広報誌で体力の現状と体力向上に向けた取組を掲載
  - ・教科外体育の時間設定の指導

# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

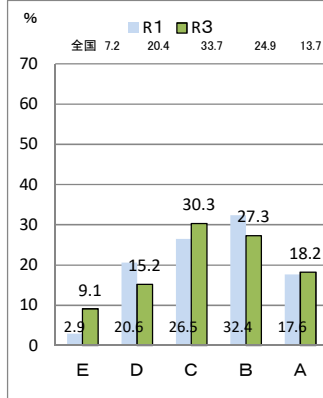
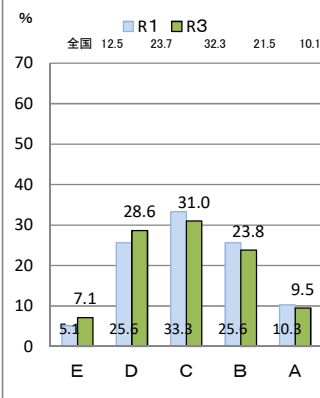
東串良町 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

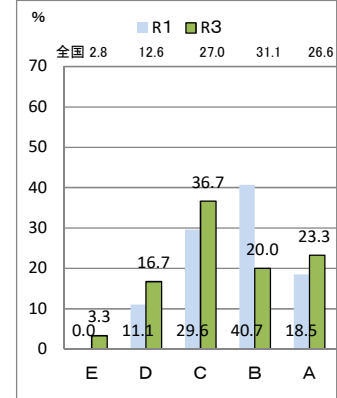
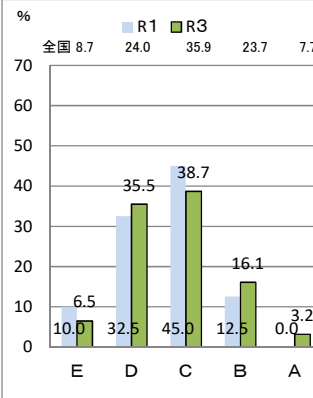
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

### 〈現状及び課題〉

- ・男子は、A+Bの割合が2.5ポイント減少し、D+Eの割合が5.1ポイント増加している。
- ・女子は、A+Bの割合が4.4ポイント減少し、D+Eの割合が0.9ポイント増加している。
- ・男女ともに一昨年度と比較して低下傾向にある。授業における意識的な取組はもちろん、家庭での体力向上の取組を一層推進していく必要がある。

### 〈現状及び課題〉

- ・男子は、A+Bの割合が6.8ポイント増加し、D+Eの割合が0.5ポイント減少している。
- ・女子は、A+Bの割合が15.9ポイント減少し、D+Eの割合が8.9ポイント増加している。
- ・男子は一昨年度と比較して改善傾向にあるが、全国と比べると大きな差が見られる。女子は上位層が減って下位層が増えており、一昨年度と比較して全体的に体力が落ちている。男女とも、全体的な数値の引き上げが必要である。

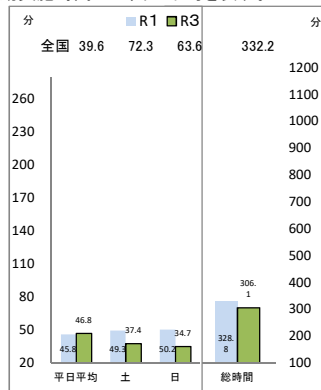
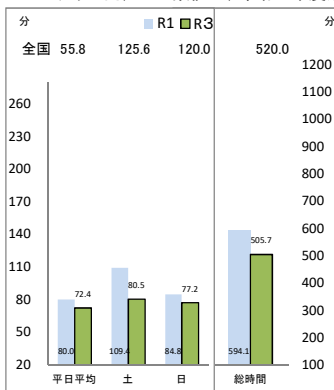
## 【小学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。

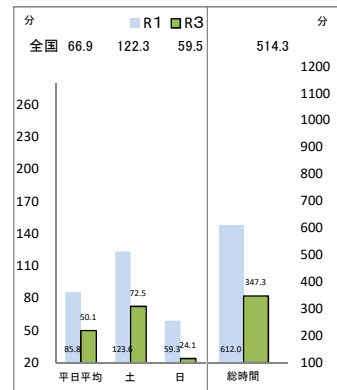
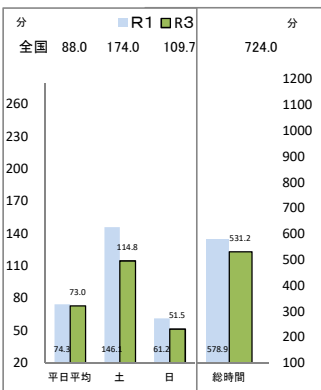


## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

### 〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、男女とも一昨年度よりも少なくなっている。全国と比較すると、男子は14.3分、女子は26.1分下回っている。
- ・女子の平日だけが全国をやや上回っているが、男子の平日、男女の土日については、全国を最大35分程度下回っている。

### 〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、男女とも一昨年度よりも少なくなっている。全国と比較すると、男子は192.8分、女子は167.0分下回っている。
- ・男女とも、平日については全国平均とほぼ同じだが、土日になると全国よりかなり短いという結果となっている。

## 【改善策】

### 【小学校】

- ・教科体育における「運動量の確保」、「朝のかけ足」の推進、「昼休みは外遊び」の推進、「一校一運動(なわとび、かけ足等)」の継続

### 【中学校】

- ・教科体育や運動部活動等における「運動量の確保」、「コロナ禍における体力低下」の意識化

### 【共通】

- ・コロナ禍における意識的な体力向上の取組の推進
- ・管理職研修会での継続的な啓発及び児童生徒の体力向上を促進する町小中体育主任研修会の開催
- ・町PTA連絡協議会における小中一貫共通実践事項「歩育」の充実及び一層の推進



# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

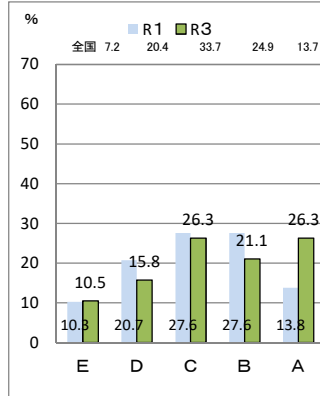
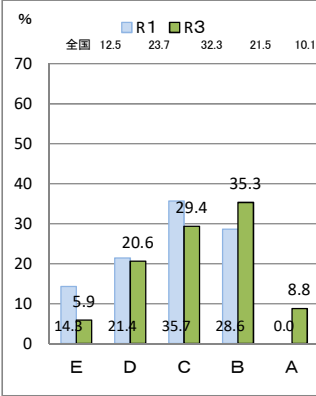
錦江町 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

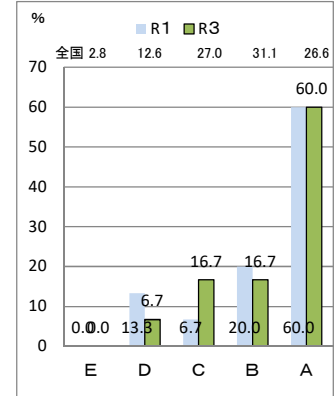
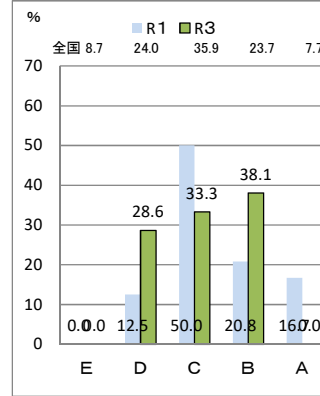
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- 男子は、E, D, Cの割合が減少し、A, Bの割合が増えていることから全体的に体力が向上している。
- 女子は、D, C, Bの割合が減少し、Aの割合が増加していることから、全体的には、体力が向上している。
- 男女ともにE, D, Cの子供の体力及び運動への興味・関心を高め、A, Bへ引き上げる取組が今後も必要である。

〈現状及び課題〉

- 男子は、Dの割合が16.1ポイント増加し、Aの割合が16ポイント減少しており、全体的には、体力低下が見られる。
- 女子は、Cが10ポイント増加し、DからCへと引き上げられている。全体的には大きな変化は見られないが、体力は高い状態である。
- 男子に関しては、運動への興味・関心を高め、D, Cからそれ以上に引き上げる手立てが必要である。

## 【小学校 運動実施時間】

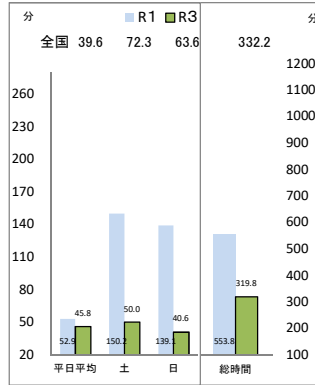
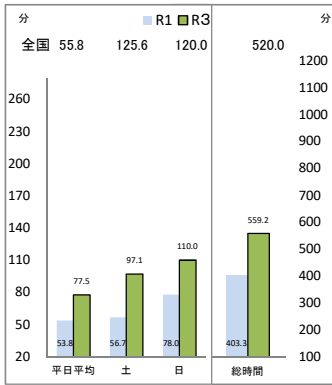
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。



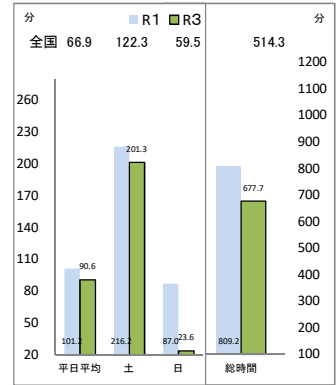
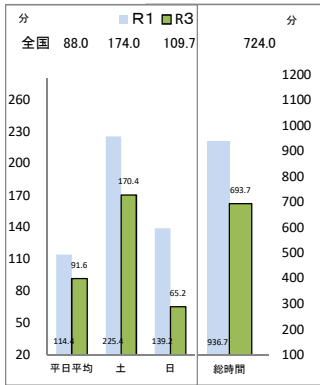
## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- 運動時間については、令和元年度と比較して、男子は増加しているが、女子は減少している。
- 女子については、平日は全国平均を上回っているが、土日の減少傾向が大きい。
- 子供たちに運動への関心を高め、日常的に運動に親しませる手立てが必要である。

〈現状及び課題〉

- 男女とも令和元年よりも運動時間が減少した。特に、日曜日は全国平均と比較しても大きく減少している。
- 男女とも平日、土曜日については、全国平均並みまたは上回っている。女子は、総時間が全国平均を上回った。
- 日曜日については、地域での自主的な運動時間の確保など、地域行事等と絡めた手立てが必要である。

## 【改善策】

【小学校】

・運動への関心を高め、体力向上を図る必要がある。「チャレンジかごしま」等の取組を通して、進んで運動を楽しむ子供の育成を推進する。また、体育の授業などで、日常的に柔軟性を高める運動を取り入れる等指導方法を工夫する。

【中学校】

・教科体育の充実及び運動部活動の運営・指導方法の工夫改善を行う。また、家庭や地域社会での運動に関する行事に参加する等、運動を楽しませたい。

【共通】

・児童生徒が「運動は楽しい」と感じる授業づくりや年間を通して継続的に行う長縄などの一校一運動などの設定を行う。

・各学校において、児童生徒の実態に応じた体力向上に向けての具体策の検討や共通実践を図る。

・休日における地域コミュニティスポーツクラブへの積極的な参加により、学校外でも、地域住民と共に運動を楽しむ場の設定を行う。

# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

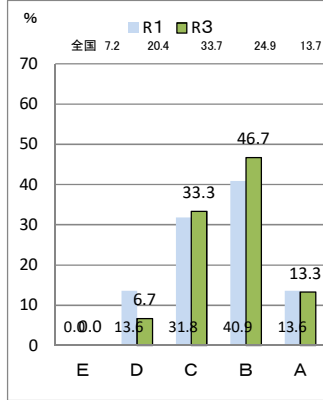
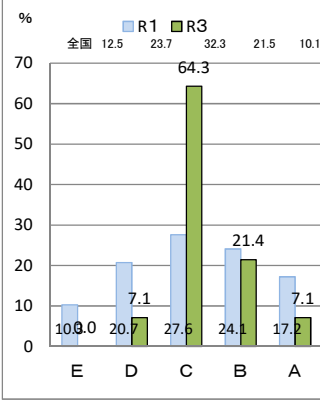
南大隅町 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

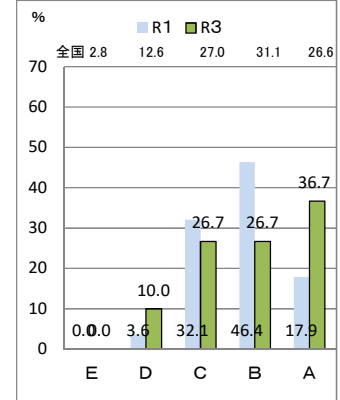
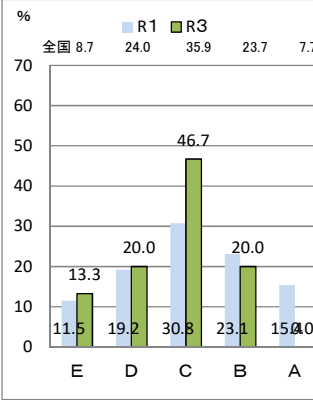
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

### 〈現状及び課題〉

- ・男子はEが10.3ポイント、Dが13.6ポイント減少し、Cが36.7ポイントと大幅に増加している。また、Aが10.1ポイント減少している。Cの児童の体力及び運動への興味・関心を高めるとともに、Cの児童をBやAへ引き上げる取組が必要である。
- ・女子は今回もEはならず、Dが6.8ポイント減少し、Bが5.8ポイント増加している。Bの児童をAに引き上げる取組が必要である。

### 〈現状及び課題〉

- ・男子はCが15.9ポイント増加し、Aがおらず15.4ポイント減少した。E、D、Cの生徒の体力及び運動能力への興味・関心を高めるとともに、BやAへ引き上げる取組が必要である。
- ・女子は今回もEはならず、Aが18.8ポイント増加している。体力及び運動能力の向上が伺えるので、引き続き更なる向上を目指して取り組む必要がある。

## 【小学校 運動実施時間】

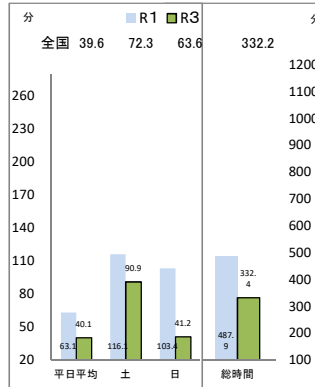
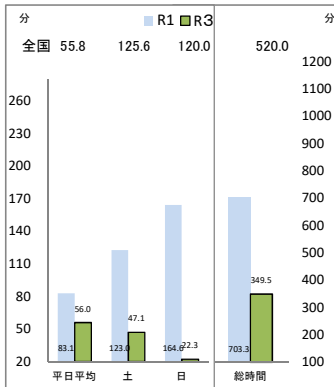
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。



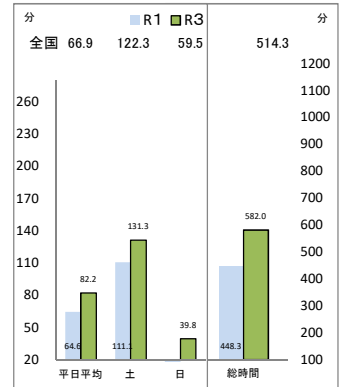
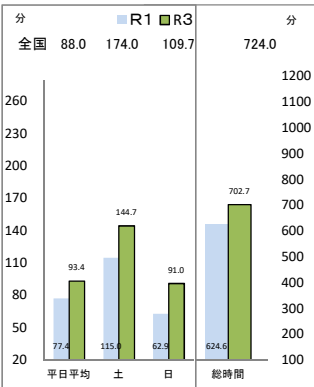
## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

### 〈現状及び課題〉

- ・平日は、全国平均と比較して男女とも運動時間に大きな差はみられない。
- ・土日は、女子はほとんど差がないが、男子は土日の両日において全国平均より大幅に短い。
- ・1週間の総運動時間は、女子は全国平均とほとんど差がないが、男子は大幅に短い。

### 〈現状及び課題〉

- ・平日は、全国平均と比較して、男女ともに運動時間に大きな差はみられない。
- ・土日は、女子は全国平均とほとんど差がないが、男子は土曜日がわずかに短い。
- ・1週間の総運動時間は、男子は全国平均よりわずかに短い、女子は67.7分長い。

## 【改善策】

### 【小学校】

- ・学校における運動機会の確保と運動に親しむ活動の計画的・継続的な実施(家庭での運動の習慣化につなげる手立て)

### 【中学校】

- ・部活動以外の運動機会の確保及び運動の充実に向けた体育授業改善、部活動の運営・指導の工夫改善のための研修の実施

### 【共通】

- ・調査結果分析に基づいた課題改善のための年間を通した運動の実施(一校一運動、体育授業導入時の運動等)
- ・PTAや家庭教育学級等での運動啓発活動

# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

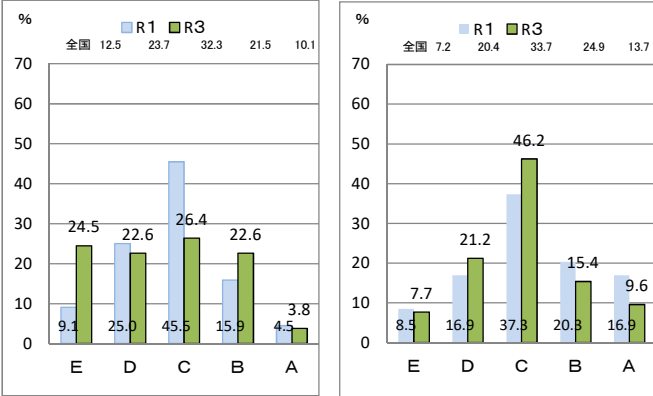
肝付町 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

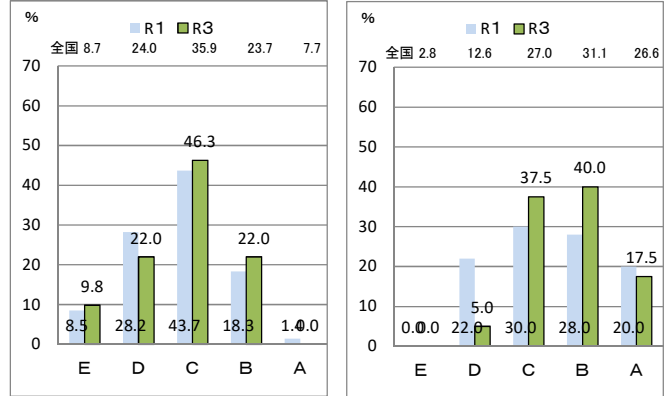
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

### 〈現状及び課題〉

- ・令和元年度と比較すると、男子はBの割合が増加しているものの、A、C、Dの割合が減少し、その分、Eの割合がかなり増加している。女子はA、B、Eの割合が減少し、C、Dの割合が増加しており、中間下位層が約7割を占めている。
- ・全国と比較すると、男子はEの割合が高く、女子はCの割合が高い。
- ・児童の体力及び運動への興味・関心を高め、日常的に運動する習慣を付け、基礎体力を高めていく取組が必要である。

### 〈現状及び課題〉

- ・令和元年度と比較すると、男子はB、C、Eの割合が少し増えているが、Aの該当者がいなくなり、Dの割合が少し低くなっている。女子はEの該当者がいなくなり、A、Dの割合が少し減ってきているが、B、Cの割合が増加している。
- ・全国と比較すると、男子は中間層以下がほとんどであり、女子は中間層以上が増加してきている。特に男子は、中間層以下をどのように引き上げていくかが課題である。

## 【小学校 運動実施時間】

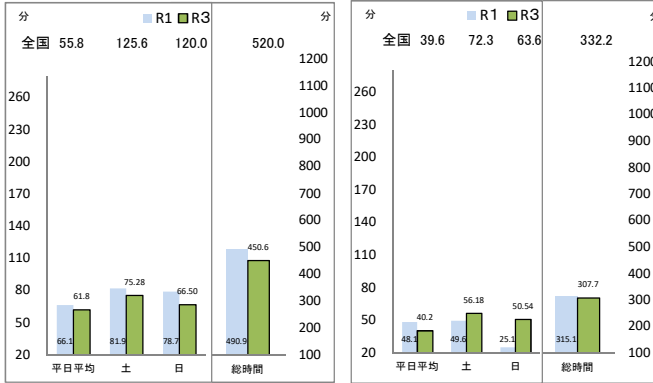
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。



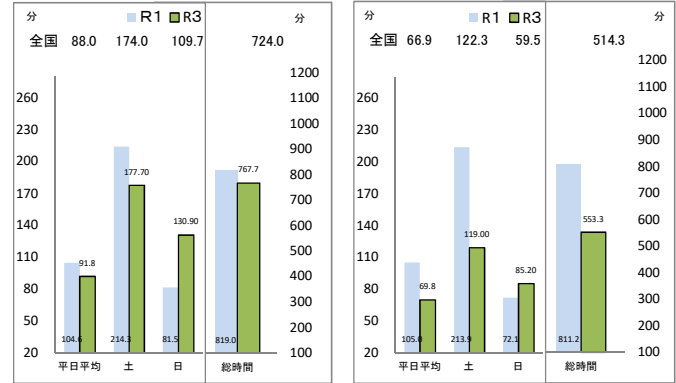
## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

### 〈現状及び課題〉

- ・令和元年度と運動時間を比較すると、男子は全て減少しており、女子は土日に増加している。
- ・全国と比較すると、男女とも平日は上回っているが、土日が少ないため、総時間も少なくなっている。週末に家庭で過ごす中で、どのようにして運動する機会を確保していくかが課題である。

### 〈現状及び課題〉

- ・令和元年度と比較すると、男女ともに平日と土曜日は減少しているが、日曜日は大きく増加している。部活動等における活動時間の減少が原因と推測される。
- ・全国と比較すると平日の運動時間が概ね短くなっていることから、新型コロナウイルス感染症予防のための運動量の減少が推察される。

## 【改善策】

### 【小学校】

- ・体育の授業時におけるチャレンジタイム(体力向上を目指した5分間運動)の推進

### 【中学校】

- ・保健体育の授業時における個人・学校の課題解決運動の推進

### 【共通】

- ・チャレンジかごしまのより一層の取組推進
- ・朝の時間や休み時間を活用した外遊びの推進
- ・学校だよりやホームページ等の活用による休日における運動やスポーツ体験を促す周知の充実

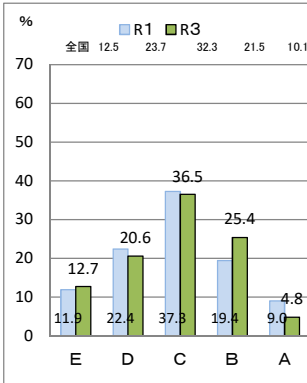
# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

西之表市 教育委員会

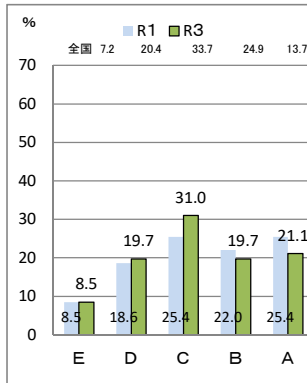
## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。

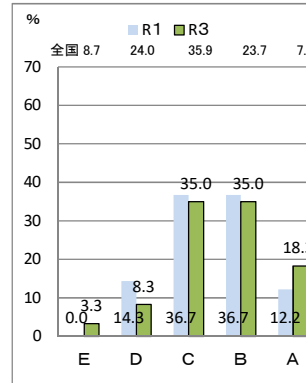


〔女子〕

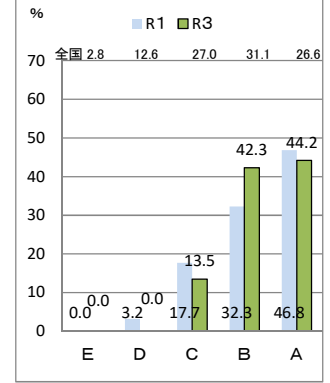


## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕



〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

### 〈現状及び課題〉

- ・男子は、Aの割合が4.2ポイント、C・Dの割合が0.8~1.8ポイント減少し、Bの割合が6.0ポイント上昇した。また、Eの割合も0.8ポイント上昇している。
- ・女子は、A・Bの割合は2.3~4.3ポイント減少し、C・Dの割合が1.1~5.6ポイント上昇しており、体力の低下がみられる。
- ・男女ともにC・D・Eの児童への体力及び運動への興味・関心を高めていく取組が必要である。

### 〈現状及び課題〉

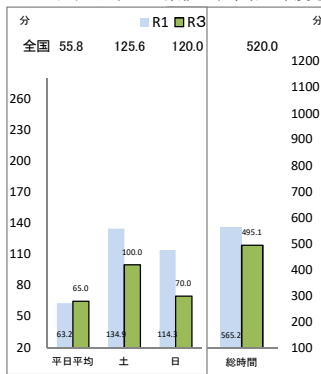
- ・男子は、Aの割合が6.1ポイント上昇したが、Eの割合も3.3ポイント上昇しており、体力運動能力の二極化がみられる。
- ・女子は、Aの割合が2.6ポイント減少しているが、Bの割合は10.0ポイント上昇した。Cの割合も減少しており、D・Eは0ポイントで体力が向上している。
- ・男女ともにA・Bは全国平均を上回っているが、男子のD・Eの生徒への体力向上に向けた支援が必要である。

## 【小学校 運動実施時間】

〔男子〕

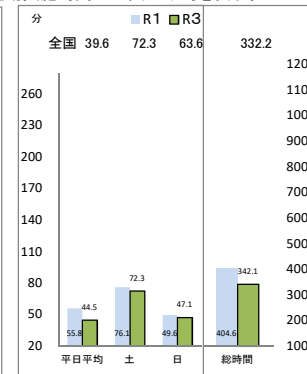
(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。



〔女子〕

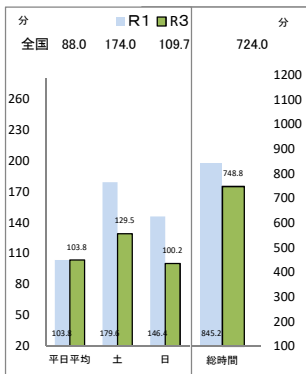
(平日の平均及び土日)(1週間)



## 【中学校 運動実施時間】

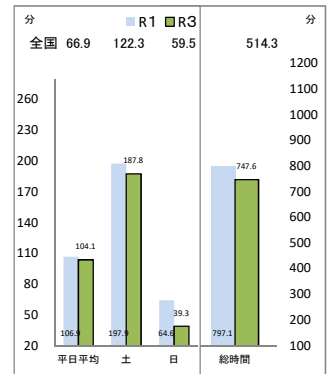
〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)



〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜~金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

### 〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、市のR1年度と比較すると、男女ともに短くなっている。全国平均との比較では、男子が「わずかに短い」、女子が「ほとんど差がない」という結果であった。
- ・平日は基本的な運動習慣が身に付いており、男女ともに全国平均と比較して運動時間にほとんど差はない。
- ・週休日は、男子の運動時間に課題があるため、家庭での運動習慣の改善が必要である。

### 〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、市のR1年度と比較すると、男女ともに短くなっている。全国平均との比較では、男子が「わずかに長い」、女子が「長い」という結果であった。
- ・平日の運動時間は、全国平均と比較すると、男子はほとんど差はなく、女子は長い。
- ・週休日の運動時間を全国平均と比較すると、土曜日は男子が「短い」、女子が「長い」、日曜日は男女ともに「ほとんど差はない」結果となっている。

## 【改善策】

### 【小学校】

- ・「1校1運動」、「体力づくりカード」、「チャレンジかごしま」を活用した運動の実践による児童の運動実施時間の確保

### 【中学校】

- ・体力・運動能力テストの結果をふまえた個人の目標設定と取組への声かけや見取り、教科体育における運動時間の確保、「チャレンジかごしま」への参加

### 【共通、その他】

- ・タブレット端末で自己分析を行うなど、ICT機器の効果的な活用
- ・PTAや家庭教育学級での運動に関する研修の実施や、運動の日常化に向けた休日の運動及び外遊びに関する家庭との連携
- ・地域スポーツ大会等への積極的参加の促進、スポーツ行事や運動関連の情報発信による広報・啓発

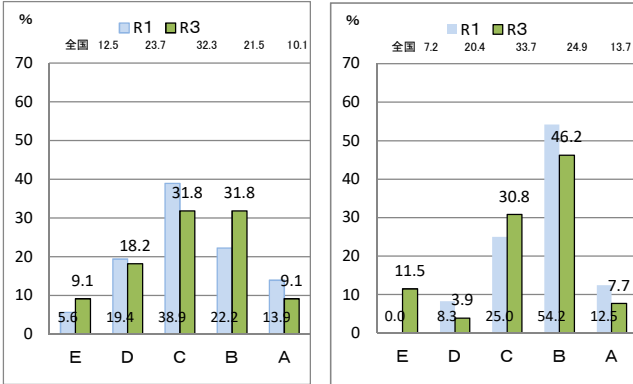
# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

中種子町 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】 〔男子〕

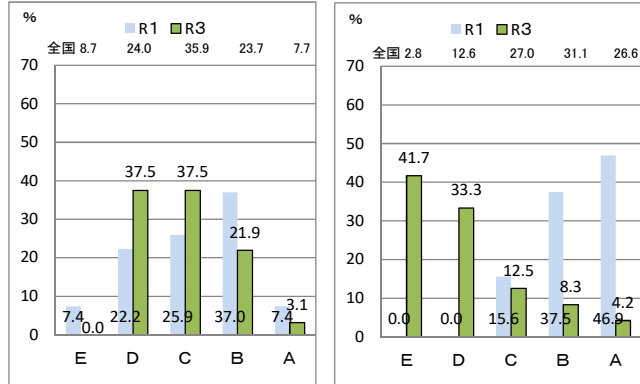
## 〔女子〕

※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】 〔男子〕

## 〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉  
 ・男子はAの割合が4.8ポイント減少し、Bの割合が9.6ポイント増加している。Eのポイントが3.5増加しており、下位層の増加が見られる。  
 ・女子はEが11.5ポイントと増加し、AやBが減少しており、全体的に体力・運動能力の低下が見られる。  
 ・男女ともにC、D、Eの児童の体力及び運動への興味・関心を高め、C以上に引き上げるとともに、Cの児童をB以上に引き上げる取組が必要である。

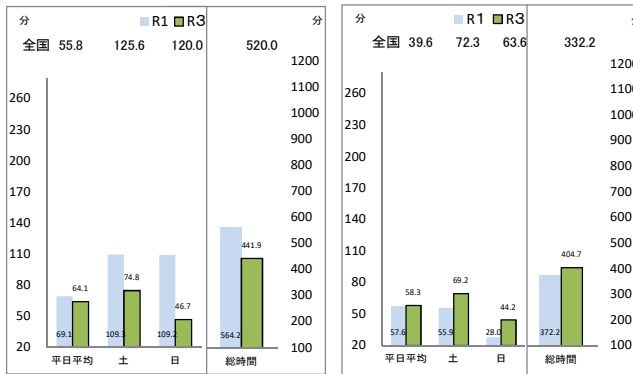
〈現状及び課題〉  
 ・男子はEが0となったもののA、Bが減少し、C、Dが増加している。  
 ・女子はA、Bが大幅に減少し、R1ではいずれも0であったD、E層が大幅に増加し、全体の75%を占めている。  
 ・男子はC、DをB以上に引き上げるために取組を進める必要がある。女子は、下位層の女子のCへの引き上げを図る必要が急務である。D、Eの女子生徒の体力・運動への興味・関心を高めるため、学校での運動への取組を全校的に進めるとともに、家庭と協力した取組も進める必要がある。

## 【小学校 運動実施時間】 〔男子〕

## 〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)

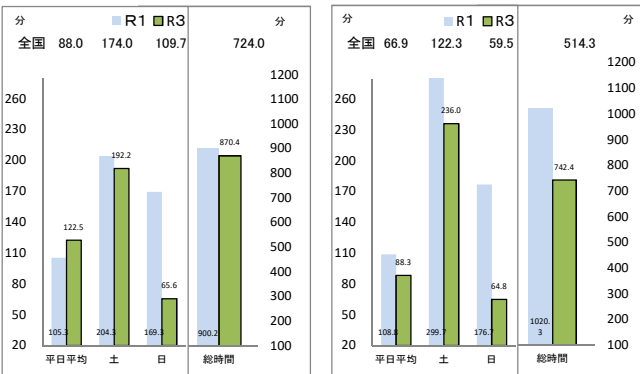
※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。



## 【中学校 運動実施時間】 〔男子〕

## 〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜~金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉  
 ・1週間の運動時間は、男子は全国平均を下回っているが、女子は上回っている。  
 ・R3は小学校男子はR1の結果を大きく下回っており、コロナ禍により運動する機会が少なくなったことが原因と思われる。  
 ・毎日、平均的に運動しているが、男女ともに土日の運動時間が短いことから、学校だけでなく、家庭の協力も得た取組を進める必要がある。

〈現状及び課題〉  
 ・1週間の運動時間は、男女ともに全国平均を大幅に上回っている。  
 ・R1に比べ、R3では、平日・休日のいずれも運動時間が少なくなっており、学校だけでなく家庭での運動にも取り組む必要がある。  
 ・男女を問わず一層の運動時間の確保のための手立てが必要である。

## 【改善策】

### 【小学校】

- ・休み時間に外遊びを推奨するとともに、運動カード等を工夫し、児童自らが運動に取り組もうとする意識を高めようとする。
- ・家庭と連携し、休日に家族で親しむ運動等を紹介することで、休日の運動時間・運動量の確保を図る。

### 【中学校】

- ・コロナ禍での部活動制限の影響もあると思われるが、運動時間の確保と運動に親しもうとする意識を高めるようにする。

### 【共通】

- ・休日に児童生徒が自ら運動に親しむような具体的な資料の作成・配付を行う。



# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

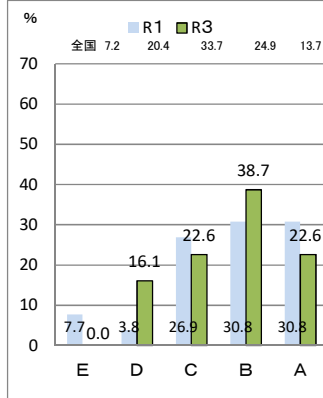
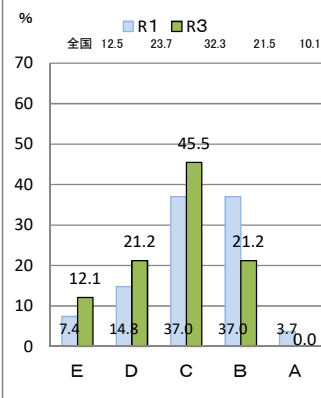
南種子町 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

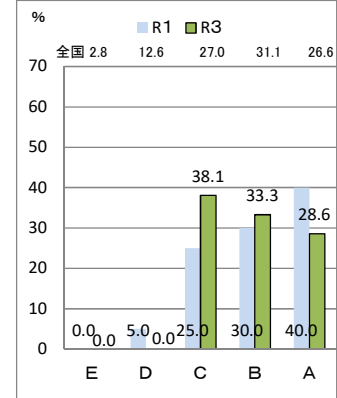
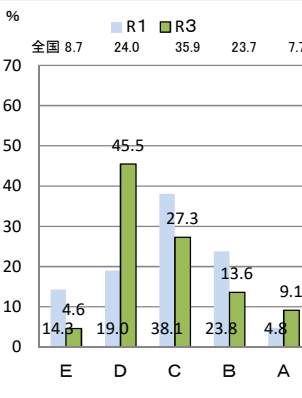
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

### 〈現状及び課題〉

- ・男子はEの割合が4.7ポイント増加し、Aの割合が3.7ポイント減少している。
- ・女子はEの割合が7.7ポイント減少し、Aの割合が8.2ポイント減少している。
- ・男女とも、E、D、Cの児童の体力及び運動への興味・関心を高め、Cの児童をB、Aへ、Bの児童をAへ引き上げる取組が必要である。

### 〈現状及び課題〉

- ・男子はEの割合が9.7ポイント減少し、Aの割合が4.3ポイント増加しているが、Dの生徒が26.5ポイント増加している。Dの生徒の体力及び運動への興味・関心を高めるとともに、C、Bへの引き上げる取組が必要である。
- ・女子はD、Eの生徒はいなかった。Cの生徒の体力及び運動への興味・関心を高め、A、Bへ引き上げる取組が必要である。

## 【小学校 運動実施時間】

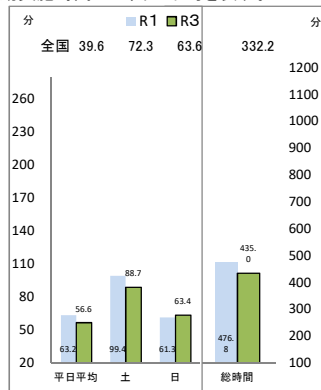
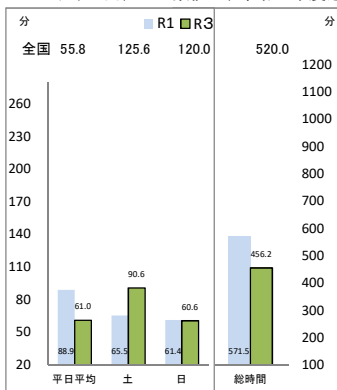
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。



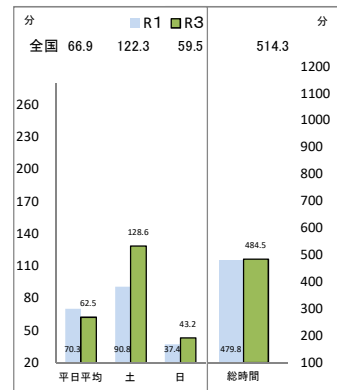
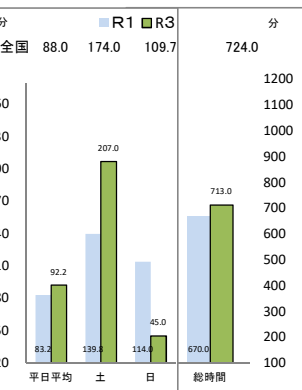
## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

### 〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男子が「長い」女子が「短い」結果であった。
- ・平日は、全国平均と比較して男女とも運動時間に大きな差はない。
- ・土・日曜日は、男子において、全国平均より短くなっており、女子においてはほとんど差がない。

### 〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男子が「ほとんど差がない」女子が「わずかに長い」結果であった。
- ・平日は、全国平均と比較して男女とも運動時間に大きな差はない。
- ・土・日曜日は、男子において、全国平均より長くなっており、女子においてはほとんど差がない。

## 【改善策】

### 【小学校】

- ・「チャレンジかごしま」への積極的な取組を推進。

### 【中学校】

- ・「チャレンジかごしま」や単元指導・朝の活動を通して生徒自らが運動に取り組もうとする姿勢の醸成。
- ・体力・運動能力を高めるため、体育授業における指導方法改善。

### 【共通、その他】

- ・週末も体を動かす雰囲気醸成するための家庭との連携を充実させる。(家庭教育学級、学校保健委員会、PTAの活用等)
- ・授業時間外を含む運動習慣定着に向けた取組の充実(朝の体力づくり推進等)

# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

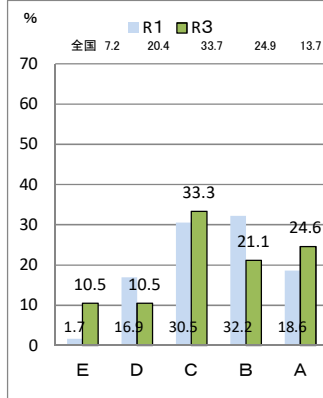
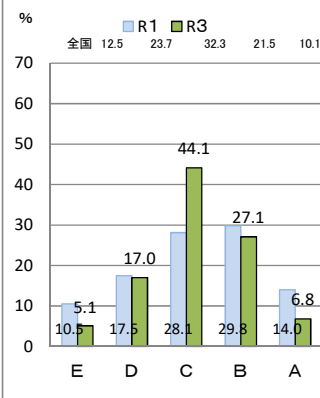
屋久島町 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

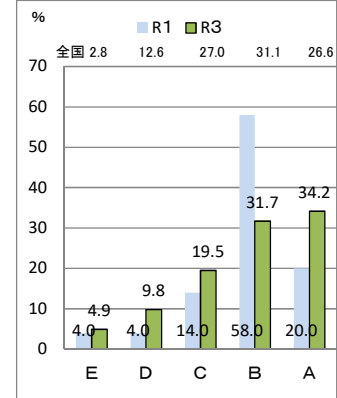
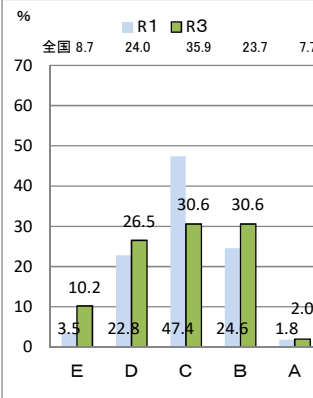
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

### 〈現状及び課題〉

・男子は、Eの割合が約5ポイント低下してはいるが、A、Bの割合も低下しており、以前に比べCの割合が急激に増加している。コロナ禍において、運動が制限され、運動の機会が減少していることが原因と考えられる。  
・女子はEの割合が約9ポイント増加し、Aの割合も増加している。男子同様にCの割合が高くなっており、Eの児童の数が増加していることは、課題であり、コロナ禍ではあるが、取組の工夫が必要である。

### 〈現状及び課題〉

・男子は、Bの割合が約6ポイント増加しているがEの割合が約7ポイント増加している。A、Bの上位層は、改善が見られるが、Eの増加については、課題であるため引き上げる取組が必要である。  
・女子は、Aの割合がとて高い。特に、Aは約14ポイント増加し、上位層の改善が見られる。BをAに高めるための取組を強化した成果が表れている。割合的には少ないが、D、Eの生徒の割合も増加しており、体力及び運動への興味・関心を高める必要がある。

## 【小学校 運動実施時間】

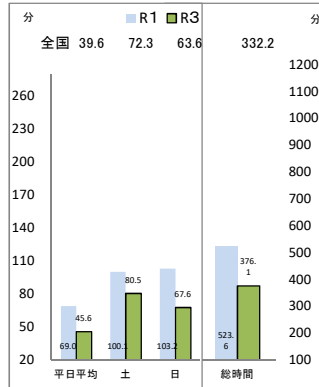
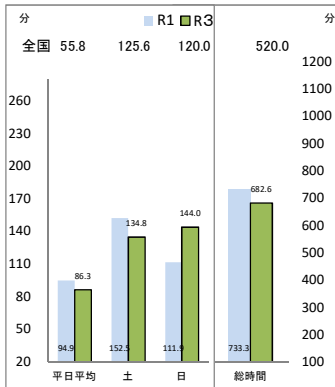
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。



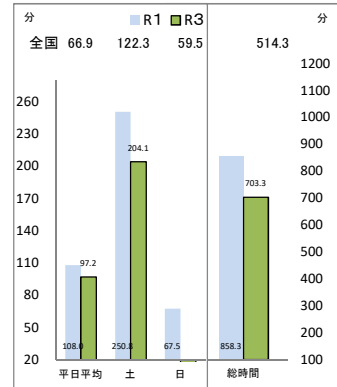
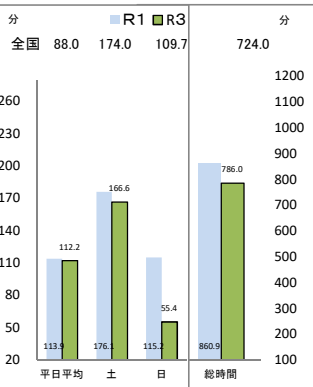
## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

### 〈現状及び課題〉

・男子の運動時間は、平日、週末ともに、全国平均と比較して、大きく上回った。多少減少しているが、コロナ禍でも、運動時間は十分確保されていると言える。  
・女子の運動時間は、平日、週末ともに、全国平均と比較すると、上回っているが、大きく減少している。室内での運動時間の確保に向けた工夫が必要である。

### 〈現状及び課題〉

・男子は、全国平均と比較して上回る結果であった。総運動時間の増加に伴い、バランスよく今後も運動時間を確保する必要があるが、以前に比べ減少しているため、室内での運動時間の確保が課題である。  
・女子の運動時間は、平日、週末ともに、全て減少傾向であった。平日の運動時間や週末日の運動時間を確保するため、個人での運動時間の確保をどう行うかが課題である。

## 【改善策】

### 【小学校】

・〇〇タイムや休み時間等を利用した屋久島チャレンジの継続した取組  
(体力アップ!チャレンジかごしま、長縄エイトマン、屋久島1周マラソン、外遊びや昔遊び等)

### 【中学校】

・部活動未所属者や文化系部活動部員の運動時間確保に向けた取組の強化(生徒会主体の体力向上イベント等)

### 【共通、その他】

・教科体育における十分な運動時間の確保及び運動の特性に応じた指導法の導入、課題種目強化のための補強運動の実施(年間を通して)  
・コロナ禍における感染対策を踏まえた運動習慣定着、運動時間確保のための取組の強化(家庭と連携した「一家庭一運動」の推進)



# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

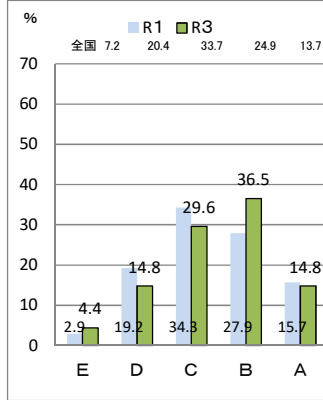
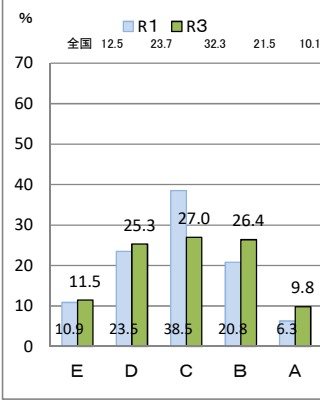
奄美市 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

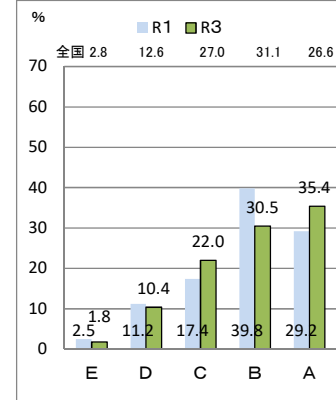
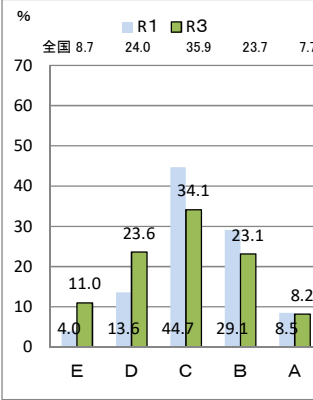
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

### 〈現状及び課題〉

- ・男子はE+Dの割合が2.4ポイント増加し、Cの割合が11.5ポイント減少した。B+Aの割合は9.1ポイント増加している。
- ・女子はE+Dの割合が2.9ポイント減少し、B+Aの割合は7.7ポイント増加している。
- ・男女とも、E+Dの割合が減少し、B+Aの割合が増加した。体力向上に向けた個に応じた課題設定を行うなど、更なる工夫が必要である。

### 〈現状及び課題〉

- ・男子はE+Dの割合が17.0ポイント増加し、B+Aの割合は6.3ポイント減少している。
- ・女子はE+Dの割合が1.5ポイント減少し、B+Aの割合も3.1ポイント減少している。
- ・男女とも、B+Aの割合が減少している。限られた状況の中で、運動する時間、空間、仲間を積極的に提供するなど対策が必要である。

## 【小学校 運動実施時間】

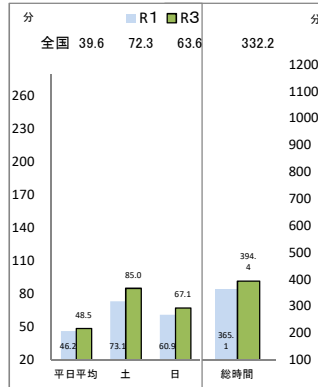
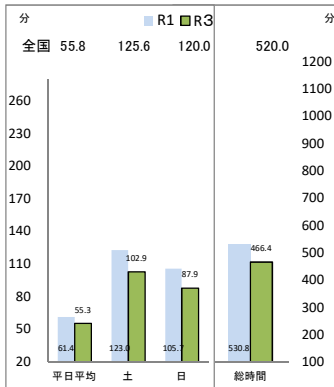
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。



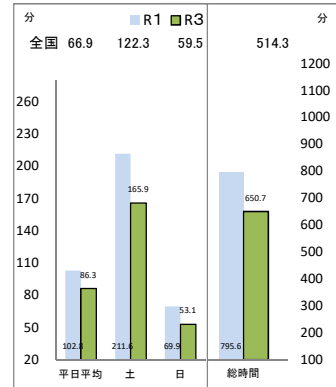
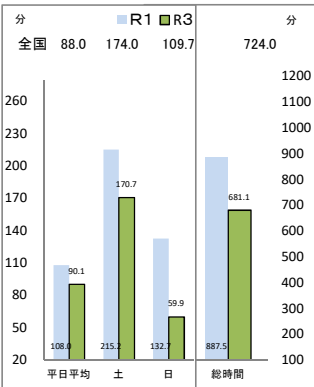
## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

### 〈現状及び課題〉

- ・男子の平日の総運動時間及び土日の総運動時間は、いずれも前回より下回り、全国平均よりも短い。
- ・女子の平日の総運動時間及び土日の総運動時間は、いずれも前回より上回り、全国平均よりも長い。
- ・外遊びの奨励など、家庭・地域と連携した取組が必要である。

### 〈現状及び課題〉

- ・平日の運動時間は、男女ともに全国平均より長い。
- ・総運動時間は、男子は全国平均より短く、女子は長い。
- ・前回と比較すると、男女ともに運動時間が短い。
- ・前回より総運動時間が短くなった。限られた状況の中で、生徒の運動時間を確保していく工夫が必要である。

## 【改善策】

### 【小学校】

- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果に基づく実態把握と体力向上策の設定を行う。

### 【中学校】

- ・「運動大好き“かごしまっ子”育成推進プラン」の共通理解と共通実践を行う。

### 【共通、その他】

- ・一校一運動の推進及び教科体育の充実を図る。(めあての提示、運動時間の確保、課題解決型学習の推進、まとめの時間の設定)
- ・奄美市体力向上推進会議において児童生徒の体力向上策を検討・実践するとともにPTAと協力した休日の運動や外遊びを奨励する。

# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

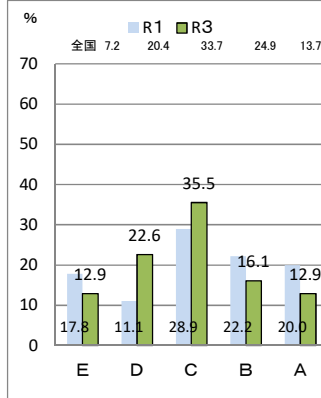
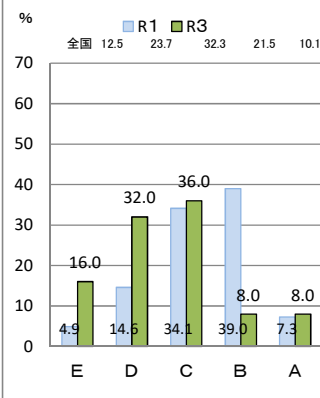
瀬戸内町 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

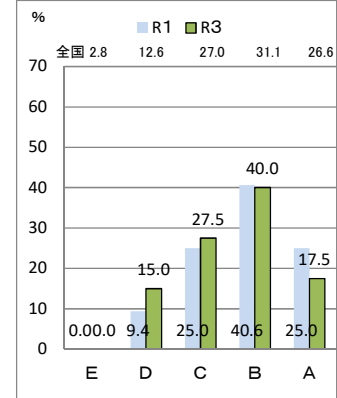
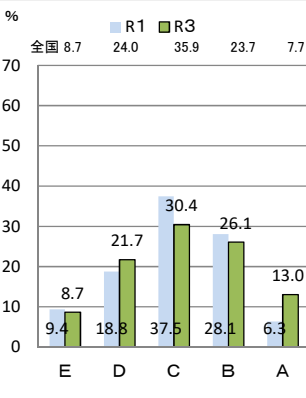
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

### 〈現状及び課題〉

- ・男子はAの割合が0.7ポイント増加し、Bの割合が31ポイント減少している。女子はAの割合が7.1ポイント減少し、Cの割合が6.6ポイント増加している。
- ・男子はD、Cの児童の運動に対する興味・関心を高め、D、Cの児童をBへ、Bの児童をAへ引き上げる取組が必要である。
- ・女子はA、Bが減少し、低下傾向にあるが、Cの児童に対するはたらかきかけを強化し、BやAへ高める取組が必要である。

### 〈現状及び課題〉

- ・男子はAの割合が6.7ポイント増加している一方で、Dの割合が高くなっている。女子はC、Dの割合が増加しており、A、Bの割合が減少している。
- ・男子はA、Bの割合が低いため、引き続きCやBの生徒への働き掛けを強化し、AやBへ高める取組が必要である。
- ・女子はC、Dの生徒をAやBに引き上げるための取組を継続的に行う必要がある。

## 【小学校 運動実施時間】

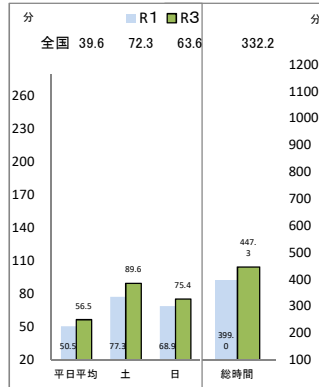
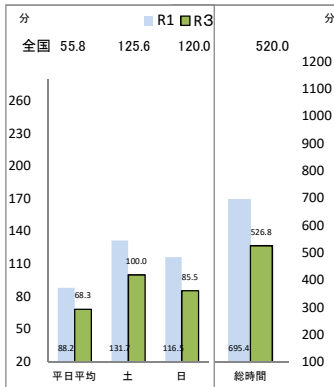
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。



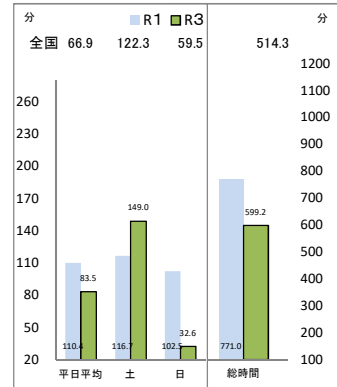
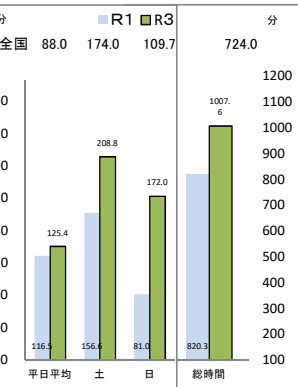
## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

### 〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると男女ともに「長い」結果であった。
- ・平日は、全国平均と比較して男女ともに「長い」結果であった。
- ・土・日曜日は、男子は全国平均より短い、女子は長い。

### 〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較して男女ともに「長い」結果であった。
- ・平日の運動時間は、全国平均と比較して男女ともに「長い」結果であった。
- ・日曜日の運動時間は全国平均より男子は長い、女子は27分短い。
- ・休日の運動時間の確保、増加に向けた手立てが必要である。

## 【改善策】

### 【小学校】

・「体力アップ！チャレンジかごしま」の積極的推進による運動への興味・関心を喚起し、運動時間を拡充して楽しみながら運動に取り組む子供を育成する。

### 【中学校】

・一校一運動や体力づくりタイム等を推進する。(運動実施時間の拡充と「体力アップ！チャレンジかごしま」への積極的な参加を促す。)

### 【共通、その他】

・PTAや家庭教育学級における運動習慣(運動経験)形成の重要性に対する啓発を行う。

・社会教育課との連携による幼少期における体力づくり教室「プレ・ゴールデンエイジ事業」の推進及び充実を図る。

# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

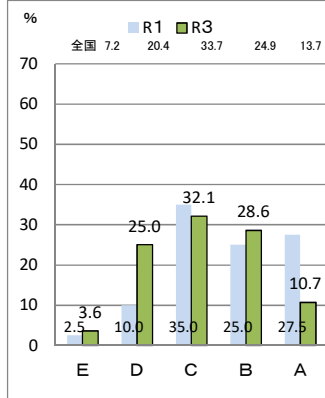
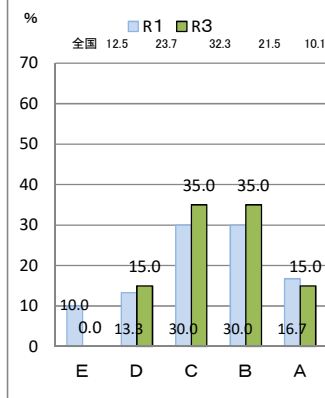
龍郷町 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

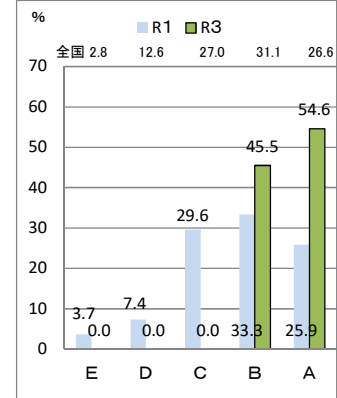
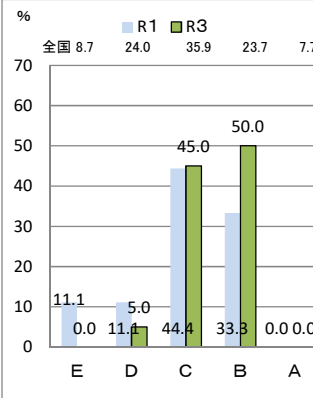
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

### 〈現状及び課題〉

- ・男女ともに、A+Bの割合は全国を上回っており、前回から引き続き改善が図られている。
- ・課題であった柔軟性(長座体前屈)については、男子の改善が図られたものの女子は課題が継続していることから、今後の更なる対応が必要である。
- ・男女ともに、「D+E」の割合は全国より低いものの、今後も引き続き、体力及び運動への興味・関心を高めるための取組が必要である。特に、小学校低学年における運動遊びの学習や生活体験の充実が必要である。

### 〈現状及び課題〉

- ・A+Bの割合について、男子は引き続き全国平均を上回ったもののAが0%となっているが、女子が全国を大きく上回ったことから、運動能力や体力の底上げ・改善がなされている。
- ・持久力については、男子では全国・県を下回り、継続した課題となっていることから、今後更なる取組が必要である。
- ・更なる体力向上に向けて、生徒自ら体力を高めるために運動種目を自己選択できるような環境整備が必要である。

## 【小学校 運動実施時間】

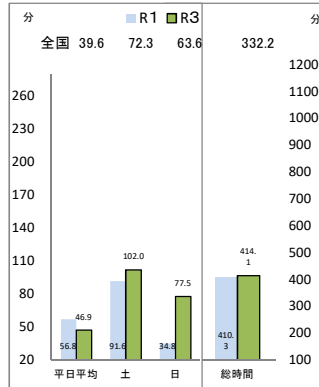
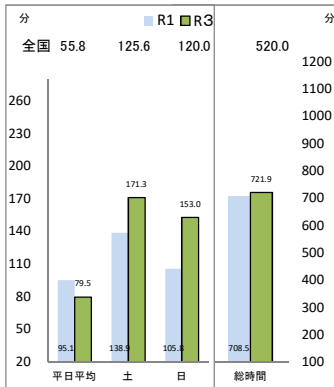
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。



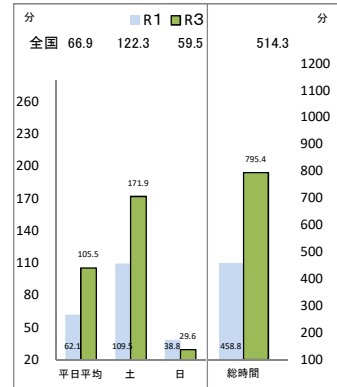
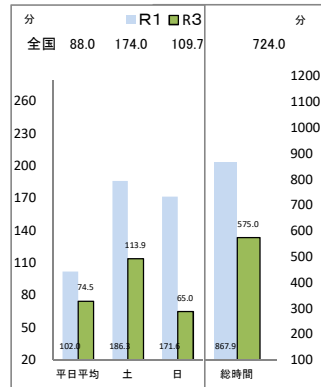
## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

### 〈現状及び課題〉

- ・総運動時間は男女ともに全国より「長く」、前年度よりも運動時間が長くなっている。
- ・土日の運動時間は増加傾向にあったが、前回に比べ、特に女子の運動時間長くなっている。一方で、1週間ほとんど運動をしない女子が6.5%いることから、女子において運動習慣の二極化傾向が見られる。そのため、運動への関心・意欲を高めながら運動の機会をつくる必要がある。

### 〈現状及び課題〉

- ・平日の運動実施時間、総運動時間ともに、女子より男子が前回よりもかなり減少した。一方で、女子は全国より大きく上回る結果であった。
- ・総運動時間について、特に、1週間ほとんど運動をしない男子が13%、女子では7.7%いることから、運動習慣の二極化傾向が見られる。そのため、運動への関心・意欲を高めながら運動の機会をつくる必要がある。

## 【改善策】

### 【小学校】

・体育科学習指導の充実(運動の特性に触れる、主運動の基礎となる感覚や柔軟性を取り入れた感覚づくりの設定)及び運動実施時間の確保を行う。(一校一運動の充実)

### 【中学校】

・運動の特性に触れ、十分な運動量を確保しながら、課題解決に取り組むことができる授業、持久力の向上につながる授業の充実を図る。

・運動への関心・意欲を高め、継続した運動習慣を図るために、「体力アップ! チャレンジかごしま」の活用(学級での取組としての確実な教育課程への位置付けを行う。)

### 【共通、その他】

・「主運動の基礎となる感覚や類似した動きを経験させるための時間」を意図的に設定する。

・学校訪問、町主催PTA行事、研修会等での現状説明・改善策等を含めた広報の充実を図る。

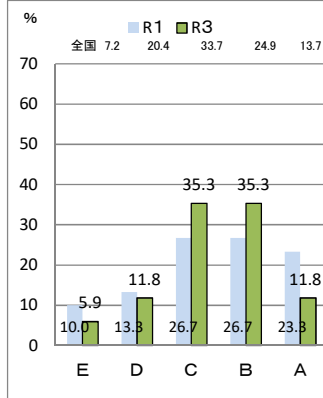
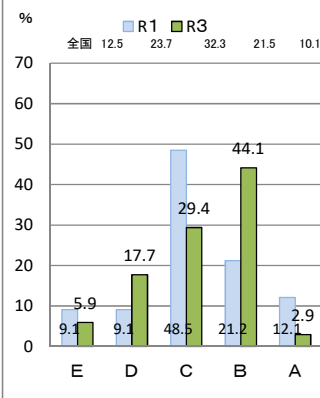
# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

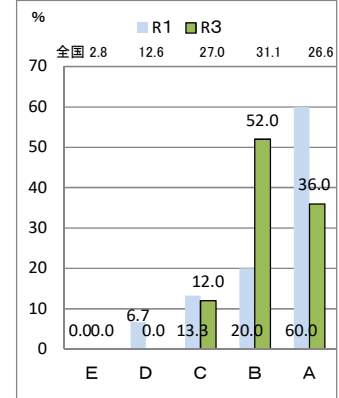
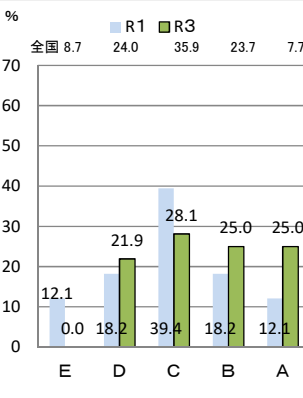
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

### 〈現状及び課題〉

- ・男子は、Bの割合が22.9ポイント増加し、Aの割合が9.2ポイント減少している。また、Eの割合が、3.2ポイント減少している。
- ・女子は、B、Cの割合がともに8.6ポイント増加しているが、Aの割合が11.5ポイント減少している。
- ・男女ともにAの割合が減少していることから、目標をもたせ運動への興味・関心を高め、B、CをAに引き上げる取組が必要である。

### 〈現状及び課題〉

- ・男子は、A、B、Dの割合が増加するとともに、Eの割合が0ポイントとなり、体力の向上が伺える。
- ・女子は、Aの割合が24ポイント減少したが依然として高い割合であり、Bの割合は32ポイント増加している。
- ・男女ともにD、Cの生徒の体力及び運動への興味・関心を高め、B、Aに引き上げる取組が必要である。

## 【小学校 運動実施時間】

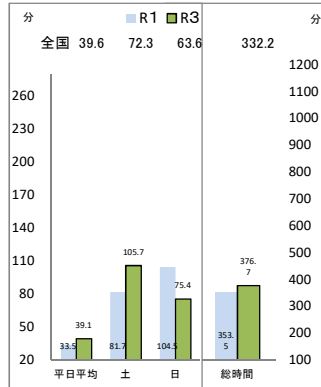
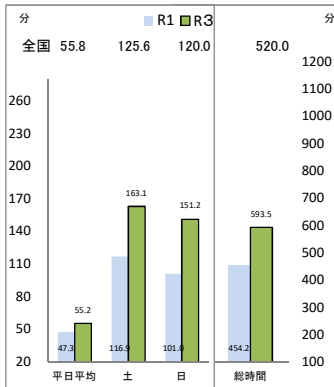
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。



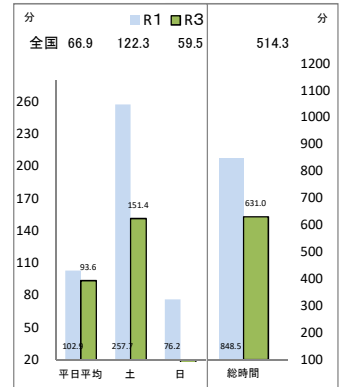
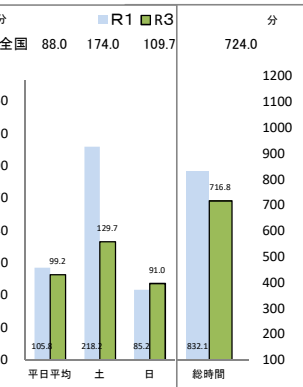
## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

### 〈現状及び課題〉

- ・1週間の総時間が、男子で139.3分、女子で23.2分増加している。全国と比較しても「長い」という結果であった。
- ・平日は、男女ともに全国平均とほとんど差がないが、女子の日曜日以外は、土日の運動時間が全国平均を上回っている。
- ・平日の一層の運動時間の増加に向けた取組が必要である。

### 〈現状及び課題〉

- ・男女ともに前回と比較して1週間の総時間が減少している。
- ・女子の平日、休日ともに前回と比較すると運動時間の減少が顕著であるが、特に、週休日における運動時間数が全国と比較して低い状況である。
- ・女子の運動実施時間の増加が必要である。特に、週休日における運動時間の確保に向けた手立てが必要である。

## 【改善策】

### 【小学校】

- ・家庭との連携を図りながら、児童が積極的に運動できる環境を整える。

### 【中学校】

- ・体力・運動能力調査の結果などを基に、生徒自身の課題を把握させ、体力向上に向けた取組を自主的に行える働きかけを行う。

### 【共通】

- ・「体力アップ！チャレンジかごしま」への積極的な参加など、子供達が意欲的に運動に取組むことのできる場を設定する。
- ・「きかい100スポーツクラブ」等の関係団体と連携を図り、家庭で継続してできる運動の紹介を行う。

# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

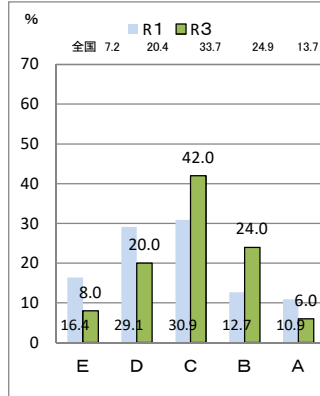
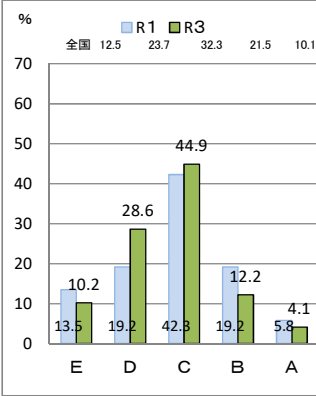
徳之島町 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

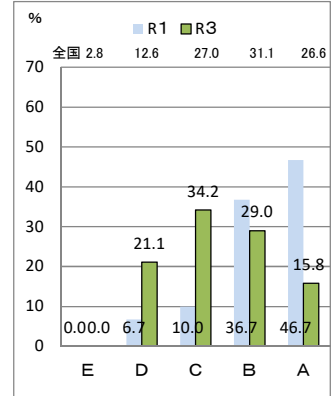
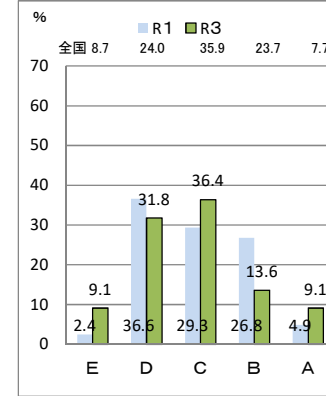
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

### 〈現状及び課題〉

- ・男子は、A、Bの割合が減少し、C、Dの割合が増加している。
- ・女子は、Aが減少したが、BやCの割合が増加している。
- ・男女ともに、Eの割合が減少している。
- ・男子については、D、Cの児童の体力及び運動への興味・関心を高め、B、Aへ引き上げる取組が必要である。
- ・女子については、C、Bの児童の割合が高いため、AやBへ引き上げるための取組が必要である。

### 〈現状及び課題〉

- ・男子は、AとEの割合が増加するとともに、BとDの割合が減少していることから、体力・運動能力の二極化が進んでいる。全国と比較してもBの割合が低いので、D、Cの生徒をBへ引き上げる取組が必要である。
- ・女子は、A、Bの割合が減少し、C、Dの割合が増加していることから、全体的に体力・運動能力に落ち込みが見られる。そのために、D、Cの生徒を、Bへ引き上げる取組が必要である。

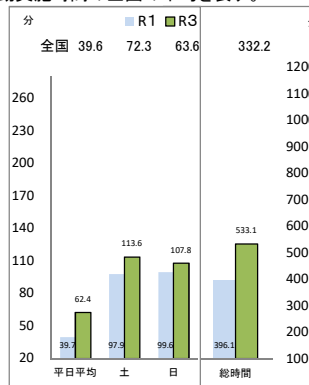
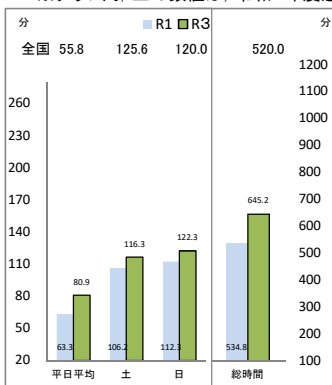
## 【小学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。

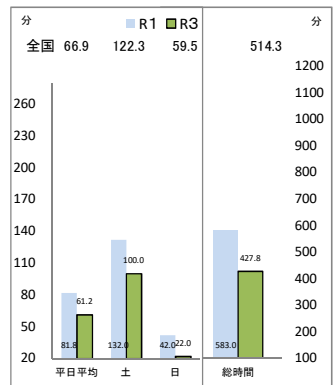
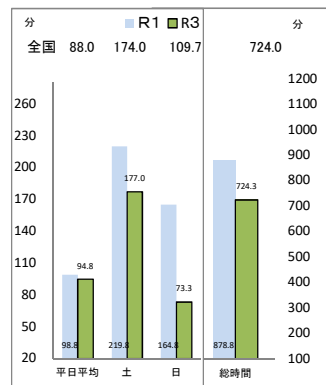


## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

### 〈現状及び課題〉

- ・男女ともに、前回よりも運動時間が全てにおいて増加している。
- ・男子は、平日の平均時間が全国よりも25分長い。
- ・女子は、全てにおいて全国よりも運動時間が長い。
- ・男女ともに、コロナ禍で制限はあるものの、一定の運動時間を確保している。

### 〈現状及び課題〉

- ・男女ともに、前回よりも運動時間が減少している。特に、土曜日、日曜日の減少が著しい。
- ・男子は全国と比べ、日曜日の運動時間が30分以上短い。総時間では、あまり差が見られなかった。
- ・女子は、一層の運動時間確保のための手立てが必要であり、特に、日曜日については、課題がある。

## 【改善策】

### 【小学校】

- ・「体力アップ！チャレンジかごしま」の積極的な取組の推進を図る。
- ・一定の運動時間が確保できているので、教科体育の充実を通して更に体力・運動能力の向上を図る。

### 【中学校】

- ・「体力アップ！チャレンジかごしま」の積極的な取組の推進を図る。
- ・運動時間の確保に向けて、家庭で取り組む自主的な運動を推進する。

### 【共通、その他】

- ・社会教育課と連携を図り、コロナ禍でも自主的に取り組める運動や遊びを紹介する。



# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

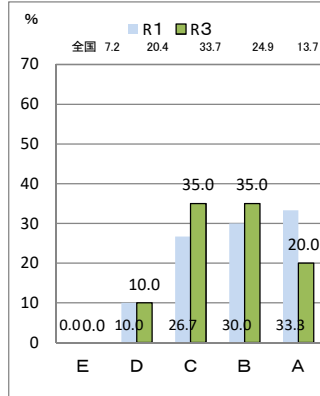
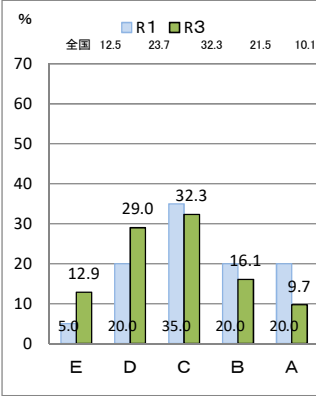
天城町 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

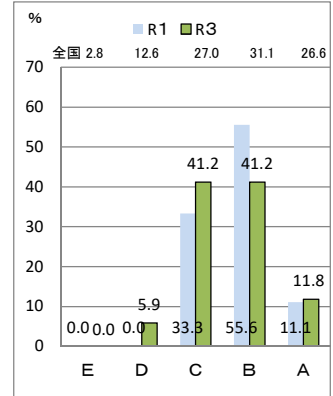
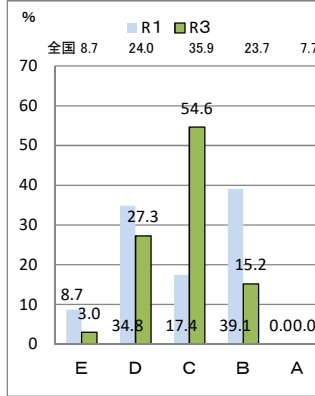
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

### 〈現状及び課題〉

- ・男子はAとBの割合が14.2ポイント減少し、CとDの割合が16.9ポイント増加している。
- ・女子はAの割合が13.3ポイント減少したが、C以上の割合は同じである。
- ・課題としては男子はD、Eが増加傾向にあるので、各種目の補助運動等を強化していく必要がある。また、男女とも、Cの児童をB、Aへ引き上げるための授業改善や運動量の確保等が必要である。

### 〈現状及び課題〉

- ・男子は、AとBの割合が15.2ポイントと非常に低く、R元年度より大きく減少している。C、D、Eの生徒の体力及び運動への興味・関心を高め、運動の習慣化を図り、各種目における基本的な体の動かし方等を指導していく必要がある。
- ・女子は、AとBの割合が53.0ポイントと5割を超えている。継続的に運動量の確保等をして、更に体力・運動能力を高めていきたい。

## 【小学校 運動実施時間】

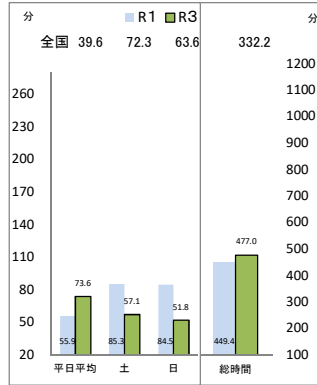
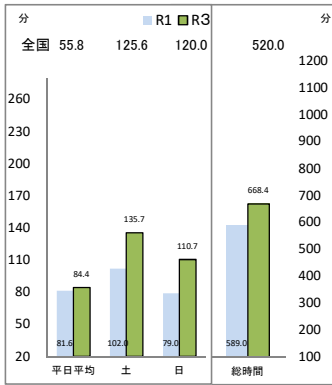
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。



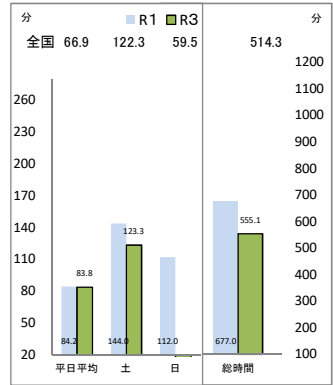
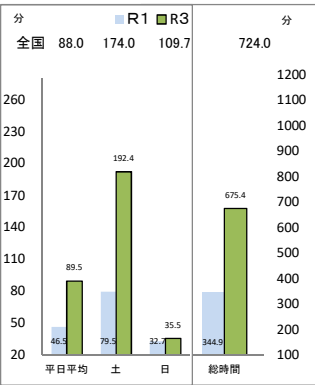
## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

### 〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、男子は、79.4分の大幅な増加が見られる。女子は、27.6分増加している。
- ・男子は、良好な状況であるので、今後も習慣化の維持に努めたい。女子は、週末の運動時間が少ない傾向にあることから、保護者や地域へ積極的に啓発し、土日の運動の習慣化を図っていききたい。

### 〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、男子は前回より大幅に増加している。女子は、121.9分減少している。
- ・男子は、平日と土曜日の運動時間は、全国平均を大きく上回っている。女子については、週末の運動時間が極端に少ない。休日の運動の習慣化を図るために、保護者や地域とも連携していく必要がある。

## 【改善策】

### 【小学校】

- ・「1校1運動」の確実な実施と運動することの楽しさを味わわせる体育の授業等を充実させる。
- ・親子での体力づくりを推進する。

### 【中学校】

- ・学校体育及び部活動の充実と学校外での運動を習慣化させる。
- ・健康づくりとしての運動のよさを啓発するとともに生徒自身の体力の変容を把握する。

### 【共通・その他】

- ・体育の授業においてICT機器等を効果的に活用する。(基本的な体の動かし方の視覚的な把握等)
- ・「体力アップ! チャレンジがこしま」への積極的な取組(小・中ともに実施率100%)を推進する。



# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

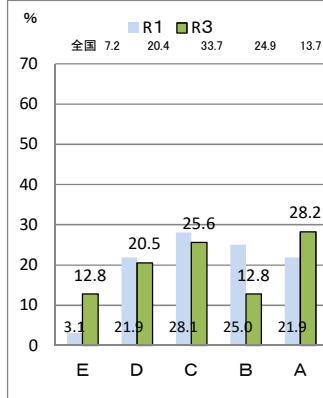
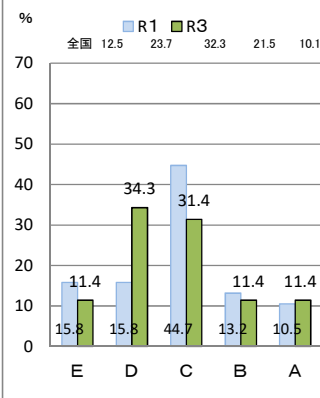
伊仙町 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

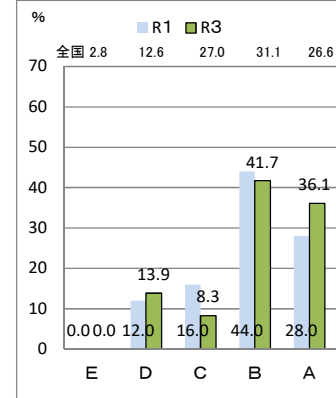
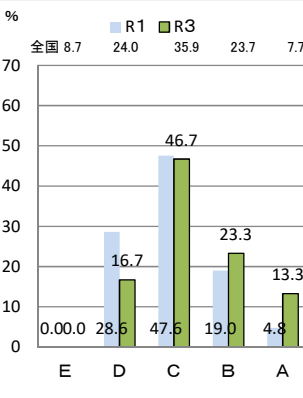
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

### 〈現状及び課題〉

- ・男子は、Dの割合が18.5ポイント増加し、逆にCの割合が13.3ポイント減少している。
- ・女子は、Aの割合が6.3ポイント増加し、逆にBの割合が12.2ポイント減少している。
- ・男子は、Dの児童を、女子はEの児童をそれぞれBやCに高めるために、基礎体力の向上に向けた指導や運動への興味・関心を高める手立てが必要である。

### 〈現状及び課題〉

- ・男子は、Aの割合が8.5ポイント増加し、逆にDの割合が11.9ポイント減少している。
- ・女子は、Aの割合が8.1ポイント増加し、逆にCの割合が7.7ポイント減少している。
- ・男女ともに、改善傾向が見られるため引き続き指導を行いながら、CやDの生徒に対し、体力向上をめざした粘り強い指導を行う必要がある。

## 【小学校 運動実施時間】

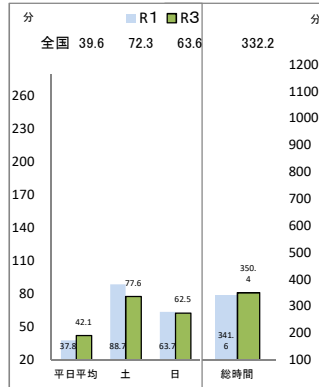
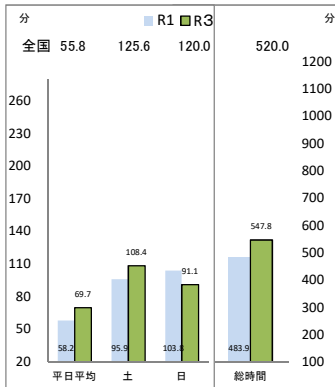
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。



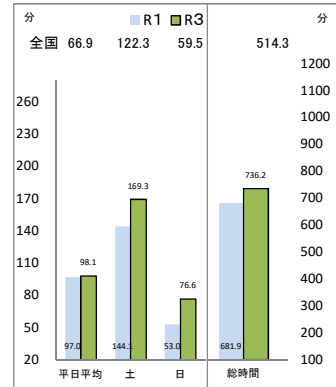
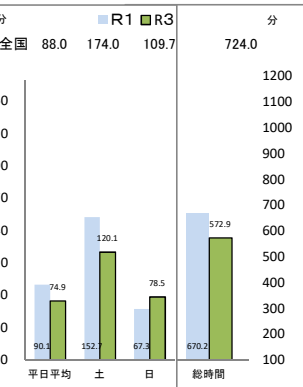
## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

### 〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男女ともにやや長い。
- ・平日は、男女ともにR1より増加しており、全国平均と比較するとやや長い。
- ・土・日曜日は、全国平均と比較するとやや短い。

### 〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男子はかなり短く、女子はかなり多い。
- ・平日は、男子は前回より減少し、また全国平均と比較すると、男子は短く、女子はわずかに多い。
- ・土・日曜日は、男子は前回より減少し、また全国平均と比較すると、男子が短く、女子は多い。

## 【改善策】

### 【小学校】

- ・これまで各学校の実態に沿って取り組んできた朝の体力づくりの時間において、跳躍力や柔軟性を高める指導の重点化と継続的な指導を行う。

### 【中学校】

- ・朝の体力づくりの時間などに全生徒を参加させるために、生徒会が中心となった主体的な活動を推進する。

### 【共通・その他】

- ・外出自粛や部活動がない休日に、家庭で取り組める運動の紹介と継続的な記録による評価を行う。
- ・PTAや家庭教育学級で、各学校の「一校一運動」の紹介と啓発の充実を行う。
- ・体育指導優良校の取組について、授業参観や実践発表を通して町内の学校で共有する機会を設定する。

# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

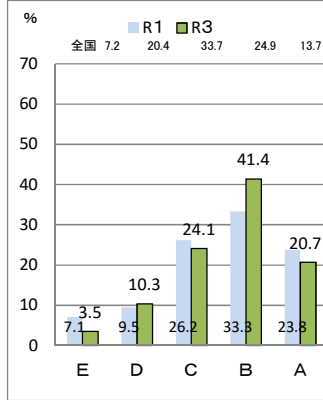
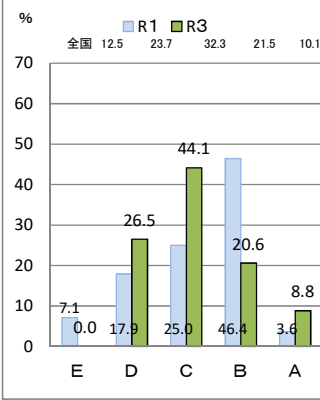
和泊町 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

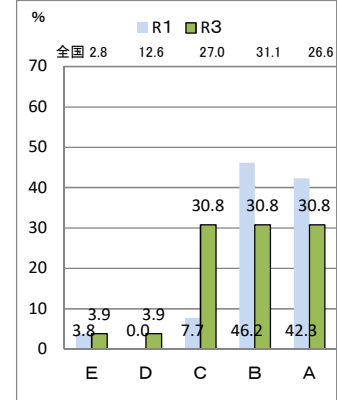
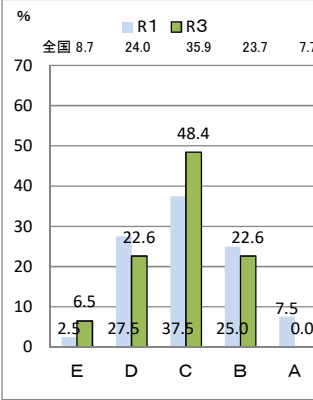
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

### 〈現状及び課題〉

- ・男子はCの割合が9.1ポイント、Dの割合が8.6ポイント増加しており、Bの割合が5.8ポイント減少している。
- ・女子はCの割合が2.1ポイント減少しており、Bの割合が8.1ポイント増加している。
- ・女子は概ね向上が見られる。男子は、体力及び運動への興味・関心を高め、特にCの児童をB、Aへ引き上げる取組が必要である。

### 〈現状及び課題〉

- ・男子はB、Aの割合が減少するとともに、Eの割合が4.0ポイント増加しており体力の低下が伺える。また、Cの割合が10.9ポイント増加しているため、Cの生徒をB、Aへ引き上げる取組が必要である。
- ・女子も、B、Aの割合が減少し、E、Dの割合が増加している。E、Dの生徒の体力及び運動への興味・関心を高めるとともに、Cの生徒をB、Aに引き上げるための支援が必要である。

## 【小学校 運動実施時間】

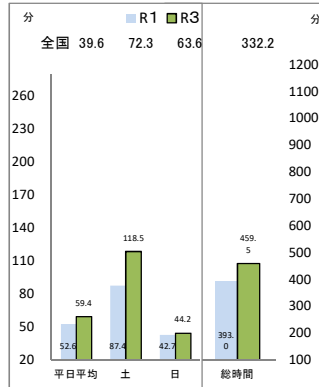
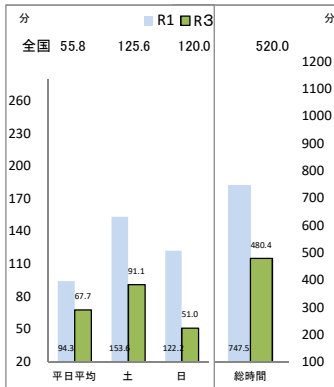
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。



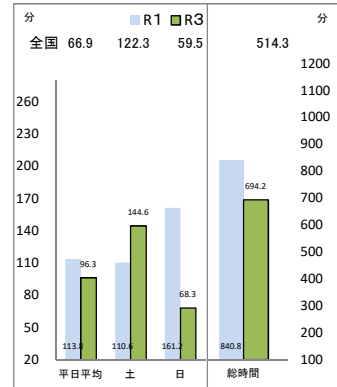
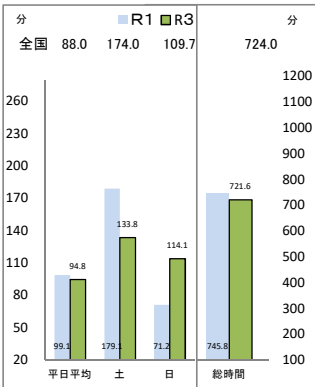
## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

### 〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較して男子は短く女子は長い。
- ・平日は、全国平均と比較して、男女ともに長くなっているが、男子においては、前回よりわずかに短くなっている。
- ・土曜日において、男子が全国平均より大幅に短くなっており課題である。

### 〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較して、男子はほとんど差がないが女子は長い。
- ・日曜日の運動時間は、全国平均と比較して、男女ともにほとんど差がない。
- ・男子の総運動時間の増加に向けた手立てが必要である。

## 【改善策】

### 【小学校】

・各学校の一校一運動や「体力アップ！チャレンジがしま」への取組、地域スポーツクラブ「元気！わどまりクラブ」などと連携する。体育科授業では、資質・能力育成の3つの柱に基づいた計画的な授業改善に努める。また、運動に親しみ、楽しむ機会として、親子・地域でのスポーツ、レクリエーション、ニュースポーツの活動の充実も図る。

### 【中学校】

・中学校は女子の運動時間及び体力の実態が高い傾向にある。運動の日常化が図られていると考える。男子については運動内容や実施方法の工夫・改善を図り、意欲を高め、具体的な目標をもって取り組めるよう指導していく必要がある。一校一運動や「体力アップ！チャレンジがしま」への取組の充実や地域スポーツクラブでの運動なども推奨する。

# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

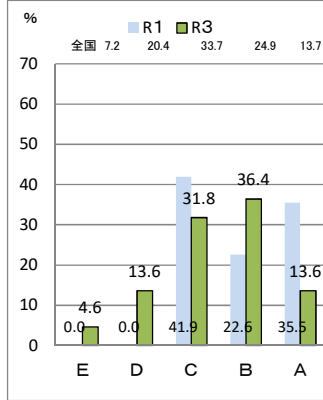
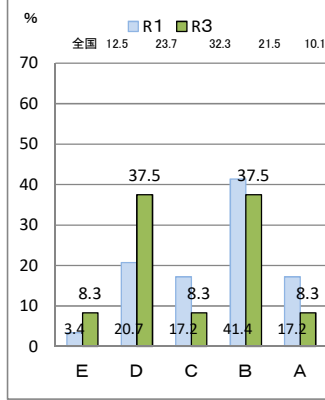
知名町 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

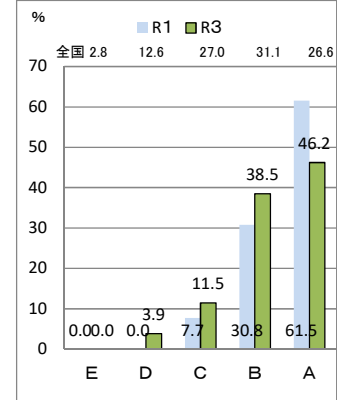
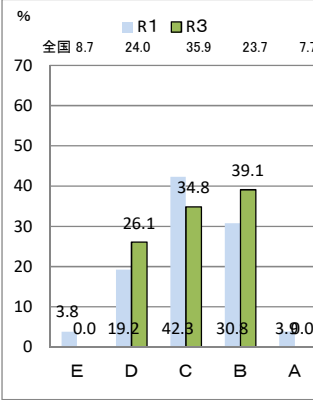
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男子はDの割合が16.8ポイント増加し、Cの割合が8.9ポイント減少している。
- ・女子はBの割合が13.8ポイント増加するとともに、Aの割合が21.9ポイント減少している。
- ・特にDの男子児童の体力向上に向け、運動への興味・関心を高める手立てが必要である。また、男女ともにBの児童をAへ引き上げるための取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・男子はCの割合の生徒が7.5ポイント減少するとともに、Bの割合が8.3ポイント増加していることから体力の向上が伺える。しかし、Aの生徒が少ないため、C、Bの生徒をAへと引き上げるための取組が必要である。
- ・女子はR1に続いて、比較的高い体力・運動能力を身に付けており、E・Dの生徒の割合は極めて低い状況である。しかし、R1に比べてAの割合の生徒が15.3ポイント減少していることから、Bの割合の生徒をAに引き上げるための取組・支援が必要である。

## 【小学校 運動実施時間】

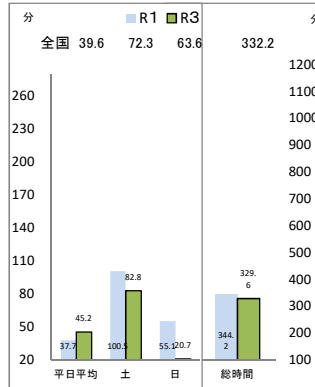
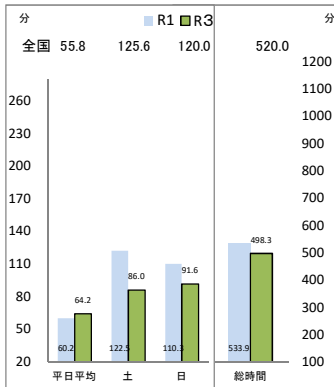
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。



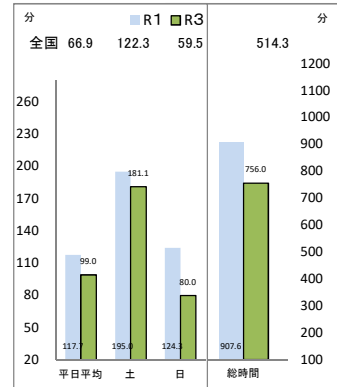
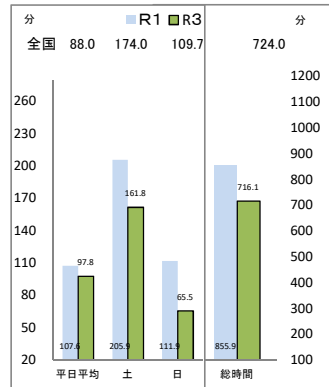
## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較して、男子が「わずかに短い」、女子が「ほとんど差がない」結果であった。
- ・平日の運動時間は全国平均と比べて男女ともに長い傾向にあるが、土・日曜日の運動時間が全国平均と比べてかなり短い傾向にあるため、土日に運動に親しむための手立てが必要である。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男子が「ほとんど差がない」、女子が「長い」という結果であった。
- ・男子は、平日は全国平均を上回っているが、土・日曜日の運動時間が下回った。女子は、平日・土・日曜日すべてにおいて、全国平均を上回っている。
- ・男女ともに前回と比較して運動時間の減少が見られるため、運動時間の増加に向けた取組が必要である。

## 【改善策】

### 【小学校】

・知名町体育協会、沖永良部スポーツクラブと連携し、社会体育等の取組を充実させ、生涯スポーツにつながる体験活動を推進する。

### 【中学校】

・運動部活動の運営・指導について工夫改善するための共通理解や沖永良部スポーツクラブと連携・協力した地域指導員の人材確保を行う。

### 【共通・その他】

・小中連絡会における体力・運動能力調査の結果分析を行うとともに、校区単位で取り組む補強運動を設定する。

・PTA、家庭教育学級等で運動に関する研修を開催したり、親子体力づくり等を推進したりする。

・体育主任研修会等で、適切な運動時間を確保するための取組を行うとともに目的に応じた運動についての研修を実施する。

# 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

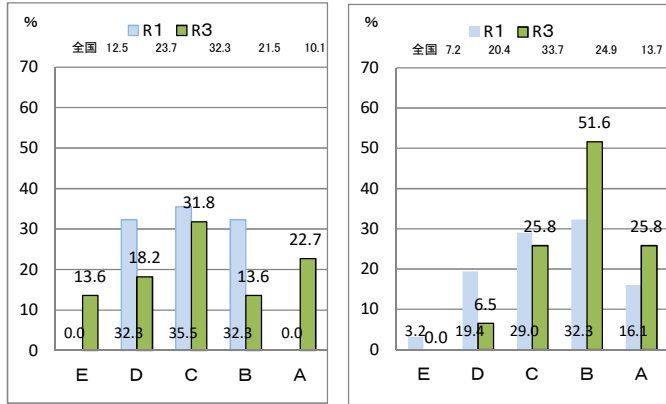
与論町 教育委員会

## 【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

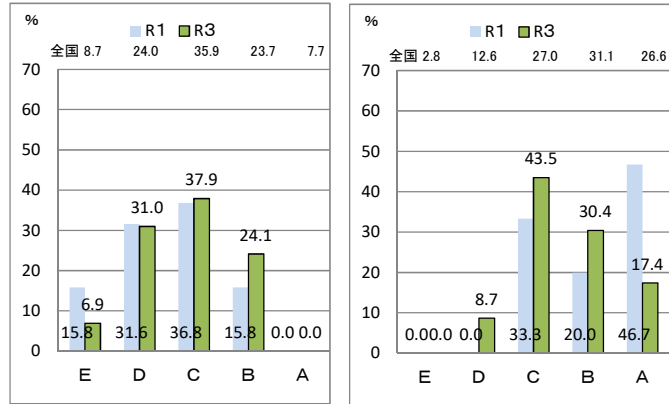
※グラフ内、上の数値は、令和3年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



## 【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

### 〈現状及び課題〉

- ・女子は、前回と比べてD・E判定の児童の割合が下降したとともにA・B判定の割合が上昇しており、体力・運動能力の向上が見られる。
- ・男子は、前回と比べてA判定の児童の割合が上昇した一方で、E判定の割合も上がっており、体力・運動能力の二極化が進んでいる。
- ・教科体育の時間に補強運動を積極的に取り入れている学校は相対的に数値が高かったため、課題の見られた実技種目については、関連する補強運動を各校の体育の授業に取り入れることを推進する。

### 〈現状及び課題〉

- ・男子は、E判定の生徒の割合は若干下降したものの、平成30年度・令和元年度から引き続いてA判定の生徒がいない状況が続いている。
- ・女子は、令和元年度と比べて、A判定の生徒の割合が下降したとともに、C・D判定の割合が上昇しており、体力・運動能力の低下が見られる。
- ・運動時間が令和元年度から増えた男子は体力・運動能力が改善され、運動時間が減った女子は体力・運動能力も低下している。学校が核となり、運動時間との相関関係を踏まえた取組を推進する必要がある。

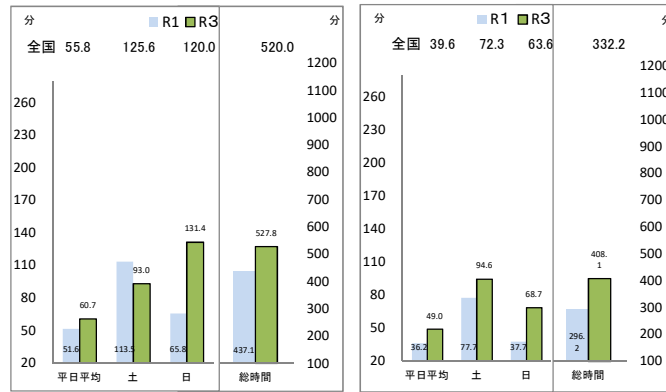
## 【小学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和3年度運動実施時間の全国の平均を表す。

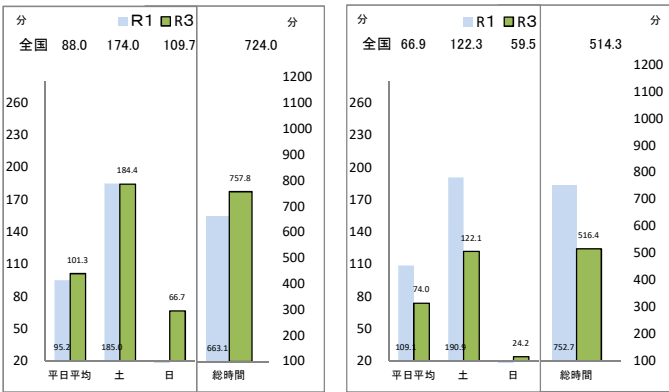


## 【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

### 〈現状及び課題〉

- ・男女ともに、平日の運動実施時間が令和元年度よりも増えており、全国平均と同程度になっている。
- ・令和元年度は、運動実施時間の総時間が男女ともに全国平均を下回っていたが、今年度は男女ともに全国平均を上回ることができた。
- ・総時間が全国比+8時間だった男子と比べて、全国比+76時間だった女子は体力・運動能力の向上が顕著だった。引き続き、学校や家庭において運動時間を十分に確保していくことが必要である。

### 〈現状及び課題〉

- ・男子は、平日の運動実施時間及び総時間のいずれも上昇した。特に、総時間は、全国平均と比べて33時間高い。
- ・女子は、平日の運動実施時間及び総時間のいずれも低下した。特に、総時間は前回と比べて236時間低い。
- ・女子は、運動時間を確保するための具体的な取組が必要である。

## 【改善策】

【小学校】

・男子の総運動時間の増加と、D・E判定の男子の体力・運動能力の向上に重点を置き、各校の「運動大好き“かごしまっ子”育成推進プラン」を見直す。

【中学校】

・女子の総運動時間の増加と、女子の体力・運動能力の全体的な向上に重点を置き、教科外体育の充実と、家庭への啓発活動の推進を図る。

【共通・その他】

・令和4年度も町内全ての学校で「体力アップ！チャレンジかごしま」に参加するとともに、各学校が自校の課題に関連する種目を選択するようにする。

・中学校が展開している、「自己の体力・運動能力の課題を見つけ、自分なりの運動計画を立案し、長期的に取り組んだ後に振り返る」という体力向上のための独自のプログラムの内容を一層充実させるとともに、同様の取組を各小学校においても積極的に推進する。

・県教育庁保健体育課が作成している「家庭で使える体力向上プログラム」等を保護者に周知し、学校外での運動の質的・量的な改善を図る。